

## 研修開催要領等（平成28年度）

各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員及び事務職員等に対する学校経営力の育成を目的とする研修

### 1. 教職員等中央研修

第1回 校長研修 .....	1
第2回 校長研修 .....	3
第1回 副校長・教頭等研修 .....	5
第2回 副校長・教頭等研修 .....	7
第3回 副校長・教頭等研修 .....	9
第4回 副校長・教頭等研修 .....	11
第1回 中堅教員研修 .....	13
第2回 中堅教員研修 .....	15
第3回 中堅教員研修 .....	17
第4回 中堅教員研修 .....	19
第5回 中堅教員研修 .....	21
第1回 事務職員研修 .....	23
第2回 事務職員研修 .....	25

各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者の養成等を目的とする研修

### 1. 学校組織マネジメント指導者養成研修

第1回 .....	27
第2回 .....	29
2. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 .....	31
3. 生徒指導指導者養成研修 .....	33
4. 教育相談指導者養成研修 .....	35
5. いじめの問題に関する指導者養成研修	
中央指導者研修 .....	37
仙台会場 .....	39

大阪会場	41
福岡会場	43
6. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	45
日本語指導者用コース	49
7. 小学校における外国語教育指導者養成研修	53
8. 外国語指導助手研修（来日直後オリエンテーション）	55
9. 英語教育海外派遣研修	58
10. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
教員の資質向上：A－1団	60
教員の資質向上：A－2団	61
アクティブ・ラーニングの推進：B－1団	62
アクティブ・ラーニングの推進：B－2団	63
PISA型学力の育成：C－1団	64
PISA型学力の育成：C－2団	65
生徒指導の充実：D－1団	66
生徒指導の充実：D－2団	67
キャリア教育の充実：E－1団	68
スポーツ教育の推進：F－1団	69
学校教育の情報化・ICTの活用：G－1団	70
特別支援教育の充実：H－1団	71
学校と地域等の連携：I－1団	72
学校と地域等の連携：I－2団	73
チーム学校の推進：J－1団	74
11. 子供の体力向上指導者養成研修（東部ブロック）	75
12. 健康教育指導者養成研修	
第1回	77
第2回	79
13. 食育教育指導者養成研修	
第1回	81
第2回	83
14. 学校安全指導者養成研修	85
15. 言語活動指導者養成研修	87
16. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	89
北海道・東北ブロック	93
関東・甲信越ブロック	95
東海・北陸ブロック	97

近畿ブロック	99
中国・四国ブロック	101
九州ブロック	103
17. 学校教育の情報化指導者養成研修	
第1回	105
第2回	108
18. 人権教育指導者養成研修	111
19. キャリア教育指導者養成研修	
第1回	114
第2回	117
20. 幼児教育指導者養成研修	120

地方公共団体からの委託等により共益的事業として実施する研修  
 (所要経費の全額を派遣者が負担)

1. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習）	122
工業：B－1（教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～）	124
商業：C－1（アクティブニングの視点を踏まえた教科「商業」における授業改善に関する講義と実習）	126
家庭：E－1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習）	128
看護：F－1（保健医療福祉の変化に対応し、生徒の基礎的・基本的看護実践力を育成する授業に関する講義と演習）	130
情報：G－1（ネットワーク・プログラミング・WEBアプリケーション等に関する講義と実習）	132
福祉：H－1（実践的介護の知識及び技術の向上を図るための講習(教員介護知識技能講習)	134
技術・家庭（技術）：I－1（これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価）	136
技術・家庭（家庭）：J－1（技術・家庭科における食育、幼児理解に関する講義と実習）	138
2. 産業教育実習助手研修	
農業（教科「農業」及び農業科指導法に関する講義と実習）	140
工業（教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習）	142
水産（教科「水産」及び水産科教育法に関する講義等）	144
3. 産業・理科教育教員派遣研修	146



## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回校長研修 【第404回】						
担当グループ	基幹研修課 研修企画チーム						
研修目的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。						
受講対象	主として小学校・中学校の校長等 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者						
開催期日	平成28年 6月13日(月)～ 6月17日(金)				5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	101	参加率	126.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター (茨城県つくば市)						

※ 全体標準定員 (全体計画人数) 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	93	8	0	0	0	0	101
割合(%)	92.1	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	101	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一流講師から直接研修を受けられ、演習も充実していた。</li> <li>・どのカリキュラムも現在の教育課題に沿っており、必要性を感じていたものであるため、大変勉強になった。</li> <li>・スクールコンプライアンス演習において、避難所運営等、災害時の管理職の役割について協議することは有意義だと思う。</li> <li>・校長として必要な様々な知識・技能さらに資質や能力について、バランスよく効率的に研修が組まれており、大変ためになった。</li> <li>・他府県の状況や取組など受講者同士が交流する中で得られる情報も多く、今後に活かしていきたい。</li> <li>・学校経営に関する重要課題について最新の知識を得ることができるとともに、全国の各地の小中学校の校長と情報交換できることは、極めて有意義であった。</li> <li>・事務職員との交流もあり、学校運営について大いに語る事ができた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位(ユニット)を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・中教審の答申を踏まえ、「アクティブ・ラーニングの推進」と「カリキュラム・マネジメント」を新設した。</li> <li>・「リスクマネジメント」について、内容を精選し、6.5時間の実施を4時間に短縮した。</li> <li>・「リーダーシップとマネジメント」～民間に学ぶ～を「特別講義」に改めた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進する。</li> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道德教育の充実」を「道德教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成28年度 教職員等中央研修 第1回校長研修

6月13日(月)	6月14日(火)	6月15日(水)	6月16日(木)	6月17日(金)
	8:30~9:30 学校運営演習①	8:30~9:30 学校運営演習②	8:30~9:30 学校運営演習③	8:30~9:15 ユニットミーティング
受付				
9:00~9:50 オリエンテーション	9:45~12:15 講義	9:45~12:15 講義	9:45~11:45 講義	9:30~12:30 講義・演習
10:00~10:20 開講式	カリキュラム・マネジメント	道徳教育の充実	メンタルヘルスマネジメント	マネジメントの実践に向けて
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	岐阜大学教職大学院 准教授 田村 知子	大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	早稲田大学 教授 河村 茂雄	国士舘大学 教授 北神 正行
11:45~12:00 集合写真撮影			13:00~17:00	
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略 国士舘大学 教授 北神 正行	13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進 文部科学省視学官 田村 学	13:30~17:00 講義・演習 リスクマネジメント ～危機の未然防止方策～ 鳴門教育大学大学院 教授 阪根 健二	演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	13:30~15:00 特別講義 奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
16:00~17:00 ユニットミーティング				15:15~15:30 閉講式
リフレクション	リフレクション	リフレクション	リフレクション	

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回校長研修 【第410回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。						
受 講 対 象	主として高等学校・特別支援学校の校長等 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者						
開 催 期 日	平成28年 10月17日(月)～ 10月21日(金)				5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	73	参加率	91.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター (茨城県つくば市)						

※ 全体標準定員 (全体計画人数) 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	63	10	0	0	0	0	73
割合 (%)	86.3	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	73	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばらしい講師の方々からのご講義・演習など、どれも実りある内容であった。</li> <li>・学校経営に関する総合的・体系的な講義等を聞くことにより、今、県教委・学校で求められていることは何かを明確に把握することができた。</li> <li>・最先端の情報と考え方、今後の方向性について最高の講師陣から研修を受けられた。</li> <li>・今日的課題に対応した内容になっている。</li> <li>・日頃の業務の中では見つけ直すことができにくい事項を、しっかりと振り返ることができ、これから何をすべきかが明確になった。</li> <li>・いずれも実践的研修であり、県全体の大きな飛躍につながる一步となる内容であった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位(ユニット)を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・中教審の答申を踏まえ、「アクティブ・ラーニングの推進」と「カリキュラム・マネジメント」を新設した。</li> <li>・「リスクマネジメント」について、内容を精選し、6.5時間の実施を4時間に短縮した。</li> <li>・「リーダーシップとマネジメント」～民間に学ぶ～を「特別講義」に改めた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進する。</li> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成28年度 教職員等中央研修 第2回校長研修

10月17日(月)	10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)
	8:30~9:30	8:30~9:30	8:30~9:30	8:30~9:15
受付	学校運営演習①	学校運営演習②	学校運営演習③	ユニットミーティング
9:00~9:50 オリエンテーション	9:45~12:15 講義	9:45~12:15 講義	9:45~11:45 講義	9:30~12:30 講義・演習
10:00~10:20 開講式	カリキュラム・マネジメント	道徳教育の充実	メンタルヘルスマネジメント	マネジメントの実践に向けて
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	鳴門教育大学大学院 教授 村川 雅弘	大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	早稲田大学 教授 河村 茂雄	国士舘大学 教授 北神 正行
11:45~12:00 集合写真撮影			13:00~17:00	
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略 国士舘大学 教授 北神 正行	13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進 文部科学省視学官 田村 学	13:30~17:00 講義・演習 リスクマネジメント ～危機の未然防止方策～ 鳴門教育大学大学院 教授 阪根 健二	演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	13:30~15:00 特別講義 奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
16:00~17:00 ユニットミーティング				15:15~15:30 閉講式
17:00~17:15 リフレクション	17:00~17:15 リフレクション	17:00~17:15 リフレクション	17:00~17:15 リフレクション	



## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修 【第407回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成28年7月25日（月）～平成28年8月5日（金）				10日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	105	人	参加率	105.0%
開 催 場 所	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	103	2	0	0	0	0	105
割合 (%)	98.1	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	105	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>• これほど著名な講師に学ぶ機会が都道府県レベルではなく、深い学びを得ることができた。</li> <li>• 自分の立場や自校の取り組みを振り返り、よりよいものにしていきたいと切に思うことができる研修内容だった。</li> <li>• これまでの教員人生の振り返りができるとともに今後の課題を見つけることができた。</li> <li>• 管理職として必要な知見を得ることができ大変有意義であった。</li> <li>• カリキュラムマネジメントについて他校の実践を含めて分かりやすくご指導をいただくことで、大切さや方策について理解できた。自校の現状に当てはめ、今後の実践に生かしたい。</li> <li>• アクティブ・ラーニングが求められる背景を丁寧に説明いただき、今求められている理由についての理解が深まった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位(ユニット)を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>• 学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともにインターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を10日間に短縮した。</li> <li>• 教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>• 「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修 東京開催

7月25日(月)	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)	7月29日(金)
9:30~10:10 オリエンテーション①	9:30~12:00 講義	9:30~11:30 講義	9:30~12:00 講義	9:30~12:00 講義
10:20~10:35 開講式	カリキュラム・マネジメント	安全管理	メンタルヘルスマネジメント	道德教育の充実
10:35~12:00 新しい時代の教育  文部科学省	岐阜大学大学院 准教授 田村 知子	慶應義塾大学 准教授 大木 聖子	早稲田大学 教授 河村 茂雄	香川大学 教授 七條 正典
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略  筑波大学大学院 教授 浜田 博文	13:15~16:45 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進  玉川大学大学院 教授 森山 賢一	12:45~16:45 講義 教育法規  弁護士 山口 卓男	13:15~15:45 講義・演習 人材育成とコーチング  神田外語大学 教授 嶋崎 政男	13:15~15:45 講義 生徒指導  文教大学 教授 柳生 和男
16:00~16:45 学校運営演習①			16:00~16:45 学校運営演習②	16:00~16:45 学校運営演習③
8月1日(月)	8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)	8月5日(金)
9:30~9:50 オリエンテーション②	9:30~12:00 講義	9:30~16:45 講義・演習	9:30~16:45 演習・協議	9:30~12:00 演習・協議
10:00~11:30 特別講義 <small>株式会社佐々木常夫マネージメント・リサーチ</small> 代表取締役 佐々木 常夫	特別支援教育の充実  早稲田大学 教授 梅永 雄二	マネジメントの実践に向けて  前橋工科大学 教授 小林 清	スクールコンプライアンス	スクールコンプライアンス
12:45~16:45 講義・演習 コミュニケーション力  音楽座ミュージカル	13:15~16:45 講義・演習 リスクマネジメント ～危機の未然防止方策～  淑徳大学 准教授 黒川 雅子			13:00~16:20 講義・演習 研修の企画・運営・評価  教員研修センター 主任指導主事 瀧澤 佳代子
				16:30~16:45 閉講式

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修 【第409回】							
担 当 課 グ ル ー プ	事業部基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受 講 対 象	高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者。 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成28年9月26日（月）～平成28年10月7日（金）			10日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	132	人	参加率	110.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	115	16	0	0	0	1	132
割合 (%)	87.8	12.2	0.0	0.0	0.0	0.8	
	131						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段じっくり考えることができない学校の課題、最新の教育情報について考えることができた。内容が濃く、分量が非常に多いので全てを十分理解できたとは言えないが、勤務校で生かして行きたい。</li> <li>・一人職であることが多い管理職にとって、同じ立場の方々とは情報・意見交換できる場があるだけでもありがたいことと、それに加えて、とても内容の濃いプログラムが用意されていて、存分に深い学びを「楽しめた」気がする。</li> <li>・国の教育の動向や最新の教育事情、先端研究等について学ぶことができた。各県の方々とは貴重な情報交換をすることができた。</li> <li>・学校の目標を設定し、適切な手段で目標を達成していくマネジメントの在り方や、カリキュラムマネジメントの基本的な手法を学ぶことができ、学校現場での実践に繋がっていききたい。</li> <li>・次期学習指導要領の目玉となる「アクティブラーニング」が、今なぜ必要なのかということや丁寧な説明をいただいた。これまでの知識詰め込み型授業から、生徒が何をできるようになるのかという目的意識をもち、深い学びにするための新しい授業への転換にむけて、管理職がリーダーシップを発揮して授業改善に努めなければならないと強く感じた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともにインターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を10日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修

9月26日(月)	9月27日(火)	9月28日(水)	9月29日(木)	9月30日(金)
	8:30~9:30 オリエンテーション②	8:30~9:30 学校運営演習①	8:30~9:30 学校運営演習②	8:30~9:30 学校運営演習③
受付				
9:00~9:50 オリエンテーション①	9:45~12:15 講義 カリキュラム・マネジメント	9:45~11:45 講義 安全管理	9:45~12:15 講義 メンタルヘルスマネジメント	9:45~12:15 講義 道徳教育の充実
10:00~10:20 開講式		文部科学省 安全教育調査官 吉門 直子	早稲田大学 教授 河村 茂雄	香川大学 教授 七條 正典
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	岐阜大学 准教授 田村 知子			
11:45~12:00 集合写真撮影				
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略	13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進	13:00~17:00 講義 教育法規	13:30~17:00 講義・演習 人材育成とコーチング	13:30~17:00 講義 生徒指導
筑波大学大学院 教授 浜田 博文	文部科学省視学官 田村 学	日本女子大学 教授 坂田 仰	神田外語大学 教授 嶋崎 政男	兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇
16:00~17:00 ユニットミーティング①				
10月3日(月)	10月4日(火)	10月5日(水)	10月6日(木)	10月7日(金)
8:30~9:00 オリエンテーション③	8:30~9:30 学校運営演習④	8:30~12:00 講義・演習 リスクマネジメント	8:30~9:30 ユニットミーティング② (研修成果の活用)	8:30~12:00 講義・演習 研修の企画・運営・評価
9:15~11:45 講義 特別支援教育の充実	9:45~17:00 講義・演習 マネジメントの実践に向けて	~危機の未然防止方策~ 高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス	教員研修センター 主任指導主事 渡邊 聡
FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一		文部科学省	
13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル		13:15~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス		13:00~14:30 特別講義 株式会社Indigo Blue 代表取締役会長 柴田 励司
		文部科学省		14:45~15:00 閉講式

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修 【第412回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受 講 対 象	幼稚園・小学校・中学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 各教育委員会の判断により主幹教諭も参加することができる。							
開 催 期 日	平成28年11月7日（月）～平成28年11月18日（金）				10日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	144	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	139	4	0	0	0	1	144
割合 (%)	97.2	2.8	0.0	0.0	0.0	0.7	
	143	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容がどれも学校現場を運営していく上で必要かつ実践に有効なもので、大変勉強になった。</li> <li>・講座が構造化されていて順番も意図的に仕組まれており、研修作りという面からも勉強になった。</li> <li>・校長の職務の奥深さや教頭の管理職としての重要さが理解でき、大変有意義であった。</li> <li>・素晴らしい講師、素晴らしい環境、素晴らしい仲間と学べたことはこの先の教員生活に役立つものばかりだった。この機会に恵まれたことを大変光栄に思う。</li> <li>・いろいろな校種の先生、全国にネットワークができたとともに、管理職に必要なマネジメント等を学ぶことができた。</li> <li>・これからの教育の方向性について深く学ぶことができた。講義の内容や教授陣が素晴らしく、アクティブ・ラーニングを通して、先生方との教育に対する思いを共有できた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともにインターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を10日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修

11月7日(月)	11月8日(火)	11月9日(水)	11月10日(木)	11月11日(金)
	8:30~9:30 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習
受付				
9:00~9:50 オリエンテーション	9:45~12:15 講義	9:45~11:45 講義	9:45~12:15 講義	9:45~12:15 講義
10:00~10:20 開講式	カリキュラム・マネジメント	安全管理	メンタルヘルスマネジメント	道徳教育の充実
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	鳴門教育大学大学院 教授 村川 雅弘	京都大学 教授 矢守 克也	早稲田大学 教授 河村 茂雄	昭和女子大学大学院 教授 押谷 由夫
11:45~12:00 集合写真撮影				
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略 千葉大学 特任教授 天笠 茂	13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進 文部科学省視学官 田村 学	13:00~17:00 講義 教育法規 弁護士 山口 卓男	13:30~17:00 講義・演習 人材育成とコーチング 別府大学 教授 佐藤 敬子	13:30~17:00 講義 生徒指導 生徒指導(小中) 文教大学 教授 松田 素行
16:00~17:00 ユニットミーティング				保育的関係(幼) 國學院大學 教授 神長 美津子
11月14日(月)	11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)	11月18日(金)
8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~12:00 講義・演習	8:30~9:30 ユニットミーティング (研修成果の活用)	8:30~12:00 講義・演習
9:15~11:45 講義 特別支援教育の充実 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 原田 公人	9:45~17:00 講義・演習 マネジメントの実践に向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	~危機の未然防止方策~ 淑徳大学 准教授 黒川 雅子	9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	研修の企画・運営・評価 独立行政法人教員研修センター 主任指導主事 小貫 香織
13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル		13:15~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省		13:00~14:30 特別講義 奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
				14:45~15:00 閉講式



## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修 【第415回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成29年2月6日（月）～平成29年2月17日（金）			10日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	180	人	受講者数	176	人	参加率	97.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	161	11	0	0	1	3	176
割合 (%)	93.1	6.4	0.0	0.0	0.6	1.7	
	172						
	99.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一流の講師の方から最新の教育情報を聞くことができ、伝講するにふさわしい内容が多くあった。</li> <li>・講義型の研修だけではなく、全国から集まった仲間と演習を行い、様々な気づき・学びがあった。</li> <li>・校種を超えた交流ができた一方、校種ごとの協議も十分にあり、研修内容を深めることができた。</li> <li>・求められる学校教育について網羅されており、すぐに取りかからなくてはいけないことや見直していかなくてはいけない視点が明確になった。</li> <li>・マネジメントやスクールコンプライアンスなど、学校経営について深く学ぶことができるとともに、今の自分を見つめ直す2週間にすることができ、とても有意義だった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位(ユニット)を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともにインターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を10日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修

2月6日(月)	2月7日(火)	2月8日(水)	2月9日(木)	2月10日(金)
	8:30~9:30 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習
受付				
9:00~9:50 オリエンテーション	9:45~12:15 講義	9:45~11:45 講義	9:45~12:15 講義	9:45~12:15 講義
10:00~10:20 開講式	カリキュラム・マネジメント	安全管理	メンタルヘルスマネジメント	道徳教育の充実
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	鳴門教育大学大学院 教授 村川 雅弘	文部科学省 安全教育調査官 吉門 直子	早稲田大学 教授 河村 茂雄	京都産業大学 教授 柴原 弘志
11:45~12:00 集合写真撮影				
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略	13:30~17:00 講義・実践発表	13:00~17:00 講義	13:30~17:00 講義・演習	13:30~17:00 講義
宮城教育大学教職大学院 教授 本図 愛実	アクティブ・ラーニングの推進 文部科学省 視学官 長尾 篤志	教育法規 日本女子大学 教授 坂田 仰	人材育成とコーチング 別府大学 教授 佐藤 敬子	生徒指導 東京成徳大学 教授 石隈 利紀
16:00~17:00 ユニットミーティング				
2月13日(月)	2月14日(火)	2月15日(水)	2月16日(木)	2月17日(金)
8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~12:00 講義・演習	8:30~9:30 ユニットミーティング	8:30~12:00 講義・演習
9:15~11:45 講義 特別支援教育の充実	9:45~17:00 講義・演習	リスクマネジメント ～危機の未然防止方策～	(研修成果の活用) 9:45~17:00 演習・協議	研修の企画・運営・評価
国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 明官 茂	マネジメントの実践に向けて 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	高崎経済大学 講師 飯野 眞幸	スクールコンプライアンス 文部科学省	独立行政法人教員研修センター 主任指導主事 榊原 正策
13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル		13:15~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省		13:00~14:30 特別講義 奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
				14:45~15:00 閉講式



## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修 【第403回】							
担当グループ	基幹研修課 研修企画チーム							
研修目的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受講対象	主として高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核として活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者							
開催期日	平成28年5月23日（月）～平成28年6月10日（金）			15日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	95	人	参加率	95.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	92	3	0	0	0	0	95
割合 (%)	96.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	95	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニットごとの研修が多く、結束力もでき、学びが深まった。受講者相互の情報交換も十分にでき、大変有意義に過ごすことができた。</li> <li>・今後の教育のあり方、国の施策、具体的な教育の在り方等、深い学びを得ることができた。今後の実践に役立てたい。</li> <li>・県の研修ではなかなか出会うことのできない講師陣に教えていただくことができた。他県の様子を知る機会もないので、貴重な知見・情報を得ることができた。</li> <li>・研修全体がシステマ的に生まれ、必要な講座がバランスよく配置されている。</li> <li>・1日のはじめ・終わりに少しでもミーティングの時間があれば、予習や復習、ユニット内の連絡などができてよいのではないかと。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともにインターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を15日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第1回中堅教員研修

5月23日(月)	5月24日(火)	5月25日(水)	5月26日(木)	5月27日(金)
	8:30~9:15 オリエンテーション②	8:30~9:30 学校運営演習①	8:30~9:30 学校運営演習②	8:30~9:30 実践研究③
受付				
9:00~9:50 オリエンテーション①	9:30~12:00 講義 地方教育行政制度 独立行政法人国立青少年 教育振興機構理事長 田中 壮一郎	9:45~15:45 講義 教育法規Ⅱ ~学校をめぐる諸問題と その法的対応~  弁護士 山口 卓男	9:45~12:15 講義 カリキュラム・マネジメント  岐阜大学 准教授 田村 知子	9:45~11:45 講義 ESD 持続可能な開発のための教育  文部科学省 教科調査官 濱野 清
10:00~10:20 開講式				
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省				
11:45~12:00 集合写真撮影				
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略  筑波大学 准教授 佐藤 博志	13:15~15:45 講義 教育法規Ⅰ ~法規と学校運営~ 日本女子大学 教授 坂田 仰		13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進  文部科学省視学官 田村 学	12:45~15:15 講義 道徳教育の充実  兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸
16:00~17:00 ユニットミーティング①	16:00~17:00 実践研究①	16:00~17:00 実践研究②		15:30~17:00 特別講義 島根県教育庁 岩本 悠 海士町役場 濱中 香理
ユニットリーダー会議①				
5月30日(月)	5月31日(火)	6月1日(水)	6月2日(木)	6月3日(金)
8:30~9:00 オリエンテーション③	8:30~9:30 学校運営演習③	8:30~9:30 学校運営演習④	8:30~9:30 学校運営演習⑤	8:30~9:30 実践研究④
9:15~11:45 講義 キャリア教育  新潟大学 教授 松井 賢二	9:45~12:15 講義 特別支援教育の充実  新潟大学 教授 長澤 正樹	9:45~15:30 講義 生徒指導  鹿児島大学 教授 大坪 治彦	9:45~12:15 講義 グローバル時代の 教育の推進  目白大学 教授 多田 孝志	9:45~17:00 講義・演習 リスクマネジメント ~危機の未然防止方策~  SOMPOリスクアマネジメント 株式会社
13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーション力 音楽座ミュージカル	13:30~17:00 講義・演習 コーチング  産業能率大学 教授 鈴木 建生	15:45~17:00 教育と芸術  家田 紀子・金井 紀子	13:30~17:00 講義 教職員のメンタルヘルスマネジメント  明治大学 教授 諸富 祥彦	
	ユニットリーダー会議②			
6月6日(月)	6月7日(火)	6月8日(水)	6月9日(木)	6月10日(金)
8:30~9:00 オリエンテーション④	8:30~17:00 講義・演習 マネジメントの 実践に向けて  群馬大学 准教授 高橋 望	8:30~9:30 ユニットミーティング② (研修成果の活用) 9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス  文部科学省	8:30~9:30 ユニットミーティング③ (研修成果の活用) 9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス  文部科学省	8:30~12:00 講義・演習 研修の企画・運営・評価    13:00~14:30 講義 リーダーシップとマネジメント 株式会社ニチレイ 相談役 浦野 光人 14:45~15:00 閉講式
9:15~11:45 講義 安全管理  文部科学省 安全教育調査官 吉門 直子				
13:00~17:00 講義 ミドル・リーダーの役割  大阪市立大空小学校 元校長 木村 泰子				
	ユニットリーダー会議③			

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修 【第406回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	主として小学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核として活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者							
開 催 期 日	平成28年7月19（火）～平成28年8月5日（金）			15日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	180	人	受講者数	245	人	参加率	136.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	228	14	0	0	1	2	245
割合 (%)	93.8	5.8	0.0	0.0	0.4	0.8	
	242						
	99.6						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一流の講師陣の講義と受講者間の相互交流によって、深い学び合いの場となった。</li> <li>・これまで不足していた高い知見を得ることができ、現場で生かして行けると考えている。</li> <li>・高度で専門的な知識を得たり、全国にネットワークを広げたりすることができたことは、大きな教育上の財産となった。</li> <li>・自分自身の教職キャリアの中で、リスタートのきっかけを頂いた。</li> <li>・プロ教師としてのあるべき姿を再認識することができたとともに、ミドルリーダーとして、また、近い将来管理職としてどう行動していかなければならないかを知ることができた。</li> <li>・国の施策と方向性、思いなどを学ぶことで、日本の目指す方向性が分かった。今までよりもより身近に感じることができ、意欲的に取り組もうと思えた。</li> <li>・これから学校を支えていく立場として、法的根拠も含め、様々な手法、学校を運営していく上でのマネジメントについて学ぶことができた。また、複数の講義から課題に対する手立ての方向性を学び、今後の実践への手がかりとなった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、インターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を15日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第2回中堅教員研修

資料1

7月18日(月)	7月19日(火)	7月20日(水)	7月21日(木)	7月22日(金)	7月23日(土)	
	受付	8:30~9:15 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 実践研究	
	9:00~9:50 オリエンテーション	9:30~12:00 講義 地方教育行財政制度	9:45~15:45 講義 教育法規Ⅱ ~学校をめぐる諸問題とその法的対応~	9:45~12:15 講義 カリキュラム・マネジメント	9:45~11:45 講義 ESD 持続可能な開発のための教育	
	10:00~10:20 開講式	明星大学 教授 樋口 修資	弁護士 三ツ角 直正	鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	文部科学省 教科調査官 濱野 清	
	10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省					
	11:45~12:00 集合写真撮影	13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略 広島大学 教授 曾余田 浩史	13:15~15:45 講義 教育法規Ⅰ ~法規と学校運営~ <small>独立行政法人国立青少年教育振興機構理事</small> 田中 壮一郎	13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進 文部科学省視学官 田村 学	12:45~15:15 講義 道徳教育の充実 大阪教育大学 名誉教授 藤永 芳純	
	16:00~17:00 ユニットミーティング				16:00~17:00 実践研究	16:00~17:00 実践研究
	7月25日(月)	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)	7月29日(金)	7月30日(土)
	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:15 実践研究	
9:15~11:45 講義 グローバル時代の 教育の推進 目白大学 学長 佐藤 郡衛	9:45~17:00 講義・演習 リスクマネジメント ~危機の未然防止方策~ SOMPOリスクアーマネジメント 株式会社	9:45~15:30 講義 生徒指導 愛媛大学 教授 平松 義樹	9:45~12:15 講義 特別支援教育の充実 名城大学 教授 曾山 和彦	9:30~12:00 講義 キャリア教育 新潟大学 教授 松井 賢二		
13:00~17:00 講義・演習 コーチング 東京聖栄大学 教授 有村 久春		15:45~17:00 教育と芸術 腰越 満美・丸山 和範	13:30~17:00 講義 メンタルヘルスマネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル		
8月1日(月)	8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)	8月5日(金)	8月6日(土)	
8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~17:00 講義・演習 マネジメントの 実践に向けて 九州大学 教授 元兼 正浩	8:30~9:30 ユニットミーティング (研修成果の活用)	8:30~9:30 ユニットミーティング (研修成果の活用)	8:30~12:00 講義・演習 研修の企画・運営・評価		
9:15~11:45 講義 安全管理 多賀城市教育委員会 学校教育課長 身崎 裕司		9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省			
13:00~17:00 講義 ミドルリーダーの役割 杉並区立天沼中学校長 藤川 章				13:00~14:30 講義 リーダーシップとマネジメント 株式会社佐藤商會 執行役員 黒岩 禪		
				14:45~15:00 閉講式		

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修 【第408回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受 講 対 象	主として中学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者							
開 催 期 日	平成28年 8月 8日(月)～平成28年 8月26日(金)				15日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	180	人	受講者数	184	人	参加率	102.2%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	163	17	0	0	0	4	184
割合(%)	90.6	9.4	0.0	0.0	0.0	2.2	
	180						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国から集まった先生方と情報共有できたことや、つながりが持てたこと、一流の講師陣の話を開けるまたとない機会であった。</li> <li>・教育の最新で専門的な内容を研修できた。</li> <li>・アクティブ・ラーニング、ミドルリーダー育成というビジョンが全ての講座に通底しており、学校運営、カリキュラム・マネジメントの参考になった。</li> <li>・今まで何のために、アクティブ・ラーニングなどが言われてきたのか、また他の教科でも何のために資質・能力の向上が求められているのか分からなかったが、今回の研修を通して、つながりがわかった。</li> <li>・ESDについての理論から実践まで一通り確認することができ、有意義であった。アクティブ・ラーニングとの関係も今後十分に理解し、実践につなげていきたい。</li> <li>・急激な社会変化に対応する力、未来を切り開く力を現代の子供たちに身につけさせることを前提にした、カリキュラム・マネジメントのとらえ方を学ぶことができた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位(ユニット)を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、インターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を15日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第3回中堅教員研修

8月8日(月)	8月9日(火)	8月10日(水)	8月11日(木)	8月12日(金)	8月13日(土)
受付	8:30~9:15 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	/	8:30~9:30 学校運営演習	/
9:00~9:50 オリエンテーション	9:30~12:00 講義 地方教育行財政制度	9:45~15:45 講義 教育法規Ⅱ ~学校をめぐる諸問題とその法的対応~		9:45~12:15 講義 カリキュラム・マネジメント	
10:00~10:20 開講式	東京大学大学院 教授 大桃 敏行	弁護士 三ツ角 直正		奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省					
11:45~12:00 集合写真撮影					
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略 広島大学 教授 曾余田 浩史	13:15~15:45 講義 教育法規Ⅰ ~法規と学校運営~ 明星大学 教授 樋口 修資			13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進 玉川大学 教授 森山 賢一	
16:00~17:00 ユニットミーティング	16:00~17:00 実践研究	16:00~17:00 実践研究			
8月15日(月)	8月16日(火)	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)	8月20日(土)
8:30~9:30 オリエンテーション	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:15 学校運営演習	8:30~9:30 学校運営演習	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:30 実践研究
9:45~12:15 講義 キャリア教育 筑波大学 教授 藤田 晃之	9:45~11:45 講義 ESD 持続可能な開発のための教育 文部科学省 教科調査官 濱野 清	9:30~12:00 講義 特別支援教育の充実 FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	9:45~15:30 講義 生徒指導 大津市教育委員会教育長 桶谷 守	9:45~12:15 講義 グローバル時代の 教育の推進 目白大学 教授 多田 孝志	9:45~17:00 講義・演習 リスクマネジメント ~危機の未然防止方策~ SOMPOリスクアマネジメント 株式会社
13:30~17:00 講義 メンタルヘルスマネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	12:45~15:15 講義 道徳教育の充実 京都産業大学 教授 柴原 弘志	13:00~17:00 講義 ミドルリーダーの役割 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇	15:45~17:00 教育と芸術 岩河 智子 市川 和彦 竹澤 嘉明	13:30~17:00 講義・演習 コーチング 神田外語大学 教授 武田 明典	
8月22日(月)	8月23日(火)	8月24日(水)	8月25日(木)	8月26日(金)	8月27日(土)
8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~17:00 講義・演習 マネジメントの 実践に向けて 前橋工科大学 教授 小林 清	8:30~9:30 ユニットミーティング (研修成果の活用)	8:30~9:30 ユニットミーティング (研修成果の活用)	8:30~12:00 講義・演習 研修の企画・運営・評価	/
9:15~11:45 講義 安全管理 富谷町立東向陽台小学校長 麻生川 敦		9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	教員研修センター 主任指導主事 坂瀬 一哉	
13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル				13:00~14:30 講義 リーダーシップとマネジメント キャン電子株式会社 代表取締役社長 酒巻 久	
				14:45~15:00 閉講式	



## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修 【第413回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者							
開 催 期 日	平成28年11月21日(月)～平成28年12月 9日(金)			15日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	155	人	参加率	129.2%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター (茨城県つくば市)							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	144	10	0	0	0	1	155
割合 (%)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.6	
	154						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・何よりも全国各地の先生、そして異校種の先生方と3週間を過ごすことができ、大変勉強になった。この先生方との出会いが、生涯の財産になった。</li> <li>・最先端の内容を学ぶことができ、自分自身の研修にとっても役立った。自校へ戻って、他の先生方に伝えていきたい。</li> <li>・学習指導要領改訂に向けての視点がよくわかった。アクティブ・ラーニング型の講義・演習が多かったので、現場に戻って先生方・生徒にすぐ実践できる。</li> <li>・様々な角度から考えを深めることができた。普段はどれか1つの方向から考えたり、研修を受けたりのことが多いので、集中して学ぶ機会に恵まれ感謝している。</li> <li>・一流の講師の話の聞き、内容も良かったが、講演の技術的な面も大変勉強になった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位(ユニット)を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともに、インターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を15日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第4回中堅教員研修

11月21日(月)	11月22日(火)	11月23日(水)	11月24日(木)	11月25日(金)	11月26日(土)
受付	8:30~9:15 オリエンテーション②	/	8:30~9:30 学校運営演習①	8:30~9:30 学校運営演習②	8:30~9:30 実践研究③
9:00~9:50 オリエンテーション①	9:30~12:00 講義 地方教育行財政制度		9:45~15:45 講義 教育法規Ⅱ ~学校をめぐる諸問題と その法的対応~	9:45~12:15 講義 カリキュラム・マネジメント 明星大学 教授 吉富 芳正	9:45~11:45 講義 ESD 持続可能な開発 のための教育 文部科学省 教科調査官 濱野 清
10:00~10:20 開講式	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 理事長 田中 壮一郎		弁護士 清水 幹裕	13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進 文部科学省 視学官 澤井 陽介	12:45~15:15 講義 道徳教育の充実 (高)兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 (小中)秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	13:15~15:45 講義 教育法規Ⅰ ~法規と学校運営~ 京都大学 教授 惣脇 宏		16:00~17:00 実践研究②	15:30~17:00 特別講義 三重大学 教授 杉田 正明	
11:45~12:00 集合写真撮影	16:00~17:00 実践研究①				
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略 九州大学大学院 教授 元兼 正浩					
16:00~17:00 ユニットミーティング①					
11月28日(月)	11月29日(火)	11月30日(水)	12月1日(木)	12月2日(金)	12月3日(土)
8:30~9:00 オリエンテーション③	8:30~9:30 学校運営演習③	8:30~9:30 学校運営演習④	8:30~9:30 学校運営演習⑤	8:30~9:30 実践研究④	/
9:15~11:45 講義 キャリア教育 一般社団法人 CEEジャパン 代表理事専務 中許 善弘	9:45~12:15 講義 特別支援教育の充実 名城大学 教授 曾山 和彦	9:45~15:30 講義 生徒指導 早稲田大学 教授 河村 茂雄	9:45~12:15 講義 グローバル時代の 教育の推進 金沢学院大学 教授 多田 孝志	9:45~17:00 講義・演習 リスクマネジメント ~危機の未然防止方策~ SOMPO リスクアマネジメント 株式会社	
13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル	13:30~17:00 講義 メンタルヘルスマネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	15:45~17:00 教育と芸術 市川 和彦 竹澤 嘉明 岩河 智子	13:30~17:00 講義・演習 コーチング 産業能率大学 教授 鈴木 建生		
12月5日(月)	12月6日(火)	12月7日(水)	12月8日(木)	12月9日(金)	12月10日(土)
8:30~9:00 オリエンテーション④	8:30~17:00 講義・演習 マネジメントの 実践に向けて 茨城大学大学院 准教授 加藤 崇英	8:30~9:30 ユニットミーティング② (研修成果の活用)	8:30~9:30 ユニットミーティング③ (研修成果の活用)	8:30~12:00 講義・演習 研修の企画・運営・評価 教員研修センター 主任指導主事 神原 正策	/
9:15~11:45 講義 安全管理 富谷町立東向陽台小学校 校長 麻生川 敦	9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省			
13:00~17:00 講義 ミドルリーダーの役割 大阪市立大空小学校 元校長 木村 泰子			13:00~14:30 講義 リーダーシップとマネジメント 木村 政雄		
			14:45~15:00 閉講式		



## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修 【第414回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後以上の者						
開 催 期 日	平成29年1月10日（火）～平成29年1月27日（金）				15日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	79	参加率	65.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	74	4	0	0	0	1	79
割合 (%)	94.9	5.1	0.0	0.0	0.0	1.3	
	78	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの講義も大変勉強になり今後の参考になった。また、全国の様々な校種や立場の先生方と交流でき、とても貴重な財産をいただいた。</li> <li>・講師から最先端のお話を聞くことができたとともに、ユニットやグループで話し合う時間も多くとられており、大変有意義だった。</li> <li>・これまで受けたことのない内容や手法で、たくさんの視点を得られた。新しい教育の流れや最新の情報を教えていただいたことは、とても有意義だった。</li> <li>・これからの教育・教員に求められる資質や能力等について学ぶことができ、ミドルリーダーとして、これから自分がどんなことにどのように取り組んでいくかを考えるきっかけとなった。全国の先生方との交流も非常に有意義だった。</li> <li>・すばらしい講師の方々から、これからの教育で大切にしないといけないものや、ミドルリーダーとしての役割を話して頂き、責任の重さを感じた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修効果を高めることを目的に、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ、1班20人の単位(ユニット)を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・学校組織マネジメントを中心とした内容に再構成するとともにインターネットを活用した事前・事後学習を充実することにより、開催期間を15日間に短縮した。</li> <li>・教員の資質能力の向上、新たな教育課題に対応するため、「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニングの推進」「ESD」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニングの推進」について、学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、「新しい学びの推進～主体的・対話的で深い学び～」とする。</li> <li>・「道徳教育の充実」を「道徳教育のマネジメント」とし、マネジメントに焦点を当てた講座とする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第5回中堅教員研修

1月9日(月)	1月10日(火)	1月11日(水)	1月12日(木)	1月13日(金)	1月14日(土)
	受付	8:30~9:15 オリエンテーション②	8:30~9:30 学校運営演習①	8:30~9:30 学校運営演習②	8:30~9:30 実践研究③
	9:00~9:50 オリエンテーション①	9:30~12:00 講義 地方教育行財政制度 学校法人目白学園 理事長 尾崎 春樹	9:45~15:45 講義 教育法規Ⅱ ～学校をめぐる諸問題とその法的対応～ 弁護士 清水 幹裕	9:45~12:15 講義 カリキュラム・マネジメント 明星大学 教授 吉富 芳正	9:45~11:45 講義 ESD 持続可能な開発のための教育 文部科学省 教科調査官 濱野 清
	10:00~10:20 開講式				
	10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	13:15~15:45 講義 教育法規Ⅰ ～法規と学校運営～ 三井住友海上火災保険株式会社 顧問 加茂川 幸夫	16:00~17:00 実践研究②	13:30~17:00 講義・実践発表 アクティブ・ラーニングの推進 文部科学省視学官 田村 学	12:45~15:15 講義 道徳教育の充実 (高) 文部科学省 教育課程調査官 澤田 浩一 (小中) 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威
	11:45~12:00 集合写真撮影				16:00~17:00 実践研究①
	13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略 群馬大学 准教授 高橋 望				
	16:00~17:00 ユニットミーティング①				
1月16日(月)	1月17日(火)	1月18日(水)	1月19日(木)	1月20日(金)	1月21日(土)
8:30~9:00 オリエンテーション③	8:30~9:30 学校運営演習③	8:30~9:30 学校運営演習④	8:30~9:30 学校運営演習⑤	8:30~9:30 実践研究④	
9:15~11:45 講義 キャリア教育 筑波大学 教授 藤田 晃之	9:45~12:15 講義 特別支援教育の充実 新潟大学 教授 長澤 正樹	9:45~15:30 講義 生徒指導 早稲田大学 教授 河村 茂雄	9:45~12:15 講義 グローバル時代の 教育の推進 金沢学院大学 教授 多田 孝志	9:45~17:00 講義・演習 リスクマネジメント ～危機の未然防止方策～ SOMPOリスクアマネジメント 株式会社	
13:00~17:00 講義・演習 コミュニケーションカ 音楽座ミュージカル	13:30~17:00 講義 メンタルヘルスマネジメント 明治大学 教授 諸富 祥彦	15:45~17:00 教育と芸術 村上 敏明・土屋 麻美	13:30~17:00 講義・演習 コーチング 神田外語大学 教授 武田 明典		
1月23日(月)	1月24日(火)	1月25日(水)	1月26日(木)	1月27日(金)	1月28日(土)
8:30~9:00 オリエンテーション④	8:30~17:00 講義・演習 マネジメントの 実践に向けて 茨城大学 准教授 加藤 崇英	8:30~9:30 ユニットミーティング② (研修成果の活用)	8:30~9:30 ユニットミーティング③ (研修成果の活用)	8:30~12:00 講義・演習 研修の企画・運営・評価 独立行政法人教員研修センター 主任指導主事 磯 宜男	
9:15~11:45 講義 安全管理 多賀城市教育委員会 学校教育課長 身崎 裕司		9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省	9:45~17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス 文部科学省		
13:00~17:00 講義 ミドルリーダーの役割 杉並区立天沼中学校長 藤川 章				13:00~14:30 講義 リーダーシップとマネジメント 合同会社THS経営組織研究所 代表 小杉 俊哉	
				14:45~15:00 閉講式	

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回事務職員研修 【第405回】							
担当グループ	基幹研修課 研修企画チーム							
研修目的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の事務職員 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成28年6月13日（月）～平成28年6月17日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	181	人	参加率	113.1%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	140	33	1	0	3	4	181
割合 (%)	79.1	18.6	0.6	0.0	4.0	2.2	
	173						
	97.7						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な角度から「チーム学校」「地域とともにある学校」等に接し、捉え、勉強になった。「信頼される事務長像」について理解が深まった。</li> <li>・他県の地域・学校の様子や取り組みを聞きながら、自校のこれからの仕事の取り組みを再度見直すきっかけとなり、大変参考になった。</li> <li>・学校経営に参画すること、特に自校の教育目標を達成するために、事務職員として何をすべきか、具体的な手立てを学ぶことができた。</li> <li>・多くの演習を経験したことで、グループの方の多面的な意見を聞くことができ、視野が広がった。</li> <li>・校長研修と合同で行ったことは、大変意義があると思う。お互いの立場、職の理解により、事務職員も積極的に校長をアシストできる。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度新規研修のためなし</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第1回事務職員研修

6月13日(月)	6月14日(火)	6月15日(水)	6月16日(木)	6月17日(金)
	8:30~9:30	8:30~9:30	8:30~9:30	8:30~9:15
受付	ユニットミーティング	ユニットミーティング	ユニットミーティング	ユニットミーティング
9:00~9:50 オリエンテーション	9:45~12:15 講義・演習	9:45~12:15 講義・演習	9:45~12:15 講義・演習	9:30~12:30 ケース・スタディ
10:00~10:20 開講式	スクールコンプライアンスとリスクマネジメント	地域とともにある学校を推進する学校運営事務	求められる事務職員像	学校運営事務の統括者としての学校運営への参画
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	日本女子大学 教授 坂田 仰	政策研究大学院大学 客員教授 貝ノ瀬 滋	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
11:45~12:00 集合写真撮影				
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略  国士舘大学 教授 北神 正行	13:30~17:00 講義・演習 財務マネジメントとカリキュラム・マネジメント  兵庫教育大学大学院 教授 大野 裕己	13:30~17:00 講義・演習 教育委員会と連携した業務改善  野村総合研究所 主任研究員 妹尾 昌俊	13:30~17:00 実践報告・演習 学校事務職員の実践のフロンティア(実践報告)  国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	13:30~15:00 特別講義  奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
16:00~17:00 ユニットミーティング 自校紹介(スクール・トーク)				15:15~15:30 閉講式
リフレクション	リフレクション	リフレクション	リフレクション	

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回事務職員研修 【第411回】							
担当グループ	基幹研修課 研修企画チーム							
研修目的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核として教育に取り組む管理職を育成する。							
受講対象	高等学校・特別支援学校の事務職員 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
開催期日	平成28年10月17日（月）～平成28年10月21日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	117	人	参加率	97.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 1,700 人、受講者数 1,787 人、参加率 105.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	76	38	1	0	1	1	117
割合 (%)	65.5	32.8	0.9	0.0	4.0	0.9	
	114						
	98.3						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国から集まることで、国の教育施策についての共通認識や、各地方の特色ある教育状況を知ることができた。</li> <li>・校長と合同の研修にしたことは、お互いに学校をマネジメントする者としての共通認識を持つことができ、大変良かった。</li> <li>・理論的裏付け、行動への示唆等、今後の業務を遂行するにあたり、大切なものを得た。</li> <li>・全ての講義が系統的・関連性を持たせた内容で、非常に勉強になった。</li> <li>・事務職員で、メンタル面で病休・休職等が増えている現状のため、管理職としてどうすべきかを学ぶ時間がほしい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度新規研修のためなし</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム学校の推進に対応した高い経営能力を培うため、平成28年度に新設した「事務職員研修」について、「校長研修」の一部講座との合同実施をさらに推進する。</li> <li>・「メンタルヘルスマネジメント」を校長研修と合同実施する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 教職員等中央研修 第2回事務職員研修

10月17日(月)	10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)
	8:30~9:30	8:30~9:30	8:30~9:30	8:30~9:15
受付	ユニットミーティング	ユニットミーティング	ユニットミーティング	ユニットミーティング
9:00~9:50 オリエンテーション	9:45~12:15 講義・演習	9:45~12:15 講義・演習	9:45~12:15 講義・演習	9:30~12:30 ケース・スタディ
10:00~10:20 開講式	スクールコンプライアンスとリスクマネジメント	地域とともにある学校を推進する学校運営事務	求められる事務職員像	学校運営事務の統括者としての学校運営への参画
10:20~11:45 新しい時代の教育 文部科学省	日本女子大学 教授 坂田 仰	日本大学 教授 佐藤 晴雄	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
11:45~12:00 集合写真撮影				
13:15~15:45 講義 学校ビジョンと戦略	13:30~17:00 講義・演習 財務マネジメントとカリキュラム・マネジメント	13:30~17:00 講義・演習 教育委員会と連携した業務改善	13:30~17:00 実践報告・演習 学校事務職員の実践のフロンティア(実践報告)	13:30~15:00 特別講義 奈良市立一条高等学校長 藤原 和博
16:00~17:00 ユニットミーティング 自校紹介(スクール・トーク)	兵庫教育大学大学院 教授 大野 裕己	茨城大学大学院 准教授 加藤 崇英	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄	15:15~15:30 閉講式
リフレクション	リフレクション	リフレクション	リフレクション	

## I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）						
担当グループ	基幹研修課 研修企画チーム						
研修目的	<p>学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。</p> <p>本研修では、受講者が学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>						
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修企画を担当している者。または、それに準ずる者</p> <p>幼稚園の園長、副園長及び、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>						
開催期日	平成28年9月5日（月）～平成28年9月9日（金）				5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	188	参加率	156.7%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 299 人、参加率 124.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	180	8	0	0	0	0	188
割合 (%)	95.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	188	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・組織マネジメント導入の背景と経緯について流れを理解することができた。なぜ学校マネジメントなのか、法の改正、評価との関連についても解説頂いたことで全体とのつながりを理解できた。

・学力向上で経済格差、コミュニティスクールなど、学校が家庭、地域と協働しながらいかに教育資源をマネジメントするとかグループ内で事例をもとに協議できた。

・学校ビジョンの共有の重要性を理解するとともに、様々な資源の活用を考え、戦略を練るということを体験を通して身に付けられた。

・講義と協議の時間がバランスよく設定されていた。リーダーとして職場をより良い方向に導くためになすべきことを、真摯に考えさせて頂く契機となった。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ研修効果を高めるため、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。
- ・「学校と地域の連携・協働」を新設し、地域との連携・協働について理解を深めた。
- ・「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」を新設し、カリキュラム・マネジメントへの理解を深めた。

### 次年度に向けて

- ・研修企画書の作成等、個人の演習時間もできる時間を設定する。
- ・希望校種別グループ編成に努め、情報交換が有効にできるようにする。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



# 平成28年度学校組織マネジメント指導者養成研修日程表

## 第1回 平成28年9月5日(月)～9月9日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:15	
9月5日		受付	オリエンテーション(35分) 9:50-10:25	休憩(10) 10:35-10:45	講義 政策に見る新しい学校経営の動向(75分) 文部科学省 10:45-12:00	昼食・休憩(60分)	講義 経営理念の構築とリーダーシップ～人と組織を活かした学校経営～(120分) 株式会社イマージェンス 代表取締役社長 桑畑 英紀 13:00-15:00	休憩(15)	協議 学校組織マネジメント上で の課題の分析(1) (105分) センター主任指導主事 15:15-17:00	ユニットミーティング								
9月6日	協議 学校組織マネジメント上で の課題の分析(2) (30分) 8:30-9:00	講義 学校ビジョンと戦略(1) ～管理職とリーダー のマネジメントの 課題～ (60分) 国士館大学 教授 北神 正行 9:10-10:10	休憩(10) 10:10-10:20	実践発表・協議 学校組織の活性化(30分) アイ学校と地域の連携・協働 (30分) 協議(70分) 国士館大学教授 北神 正行 10:20-12:30	昼食・休憩(60分)	講義 実践発表・協議 研修成果の活用(30分) 協議(45分) 国士館大学教授 北神 正行 13:30-14:45	休憩(15)	講義 学校ビジョンと戦略(2) ～管理職とリーダー のマネジメントの 課題～ (90分) 国士館大学教授 北神 正行 15:00-16:30	ユニットミーティング									
9月7日	演習 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(1)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 8:30-12:00	演習 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	昼食・休憩(60分)	演習 学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	講義・演習 社会に開かれた教育課程の実現に向けて ～特色ある学校づくりのためのカリキュラム・マネジ メント～ (180分) 鳴門教育大学大学院 教授 村川 雅弘 8:30-11:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学教授 河村 茂雄 12:30-16:30	ユニットミーティング										
9月8日																		
9月9日	オリエンテーション(20分) 8:30-8:50	協議・発表 学校組織マネジメントの推進 ～研修企画書の検討～ (150分) センター主任指導主事 9:00-11:30	休憩(10)	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30	講義・演習 学校組織マネジメントに関する研修の企 画・運営・評価 (120分) センター主任指導主事 12:30-14:30



## I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）							
担当グループ	基幹研修課 研修企画チーム							
研修目的	<p>学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。</p> <p>本研修では、受講者が学校組織マネジメントの理論を身につけ、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。そのうえで、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実、研修企画を担当している者。または、それに準ずる者</p> <p>幼稚園の園長、副園長及び、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>							
開催期日	平成28年10月24日（月）～平成28年10月28日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	111	人	参加率	92.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 240 人、受講者数 299 人、参加率 124.6%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	102	7	0	0	2	0	111
割合 (%)	91.9	6.3	0.0	0.0	1.8	0.0	
	109	98.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニング型研修で、主体的・対話的、そして何よりも深い学びを身をもって体験できた。</li> <li>・講師が一流の方ばかりで、時間に比して本当に中身の濃い5日間だった。</li> <li>・5日間のプログラムの組み方に工夫が見られ、充実した内容だった。あと1～2日研修があってもよい。</li> <li>・学校組織やカリキュラムのマネジメントの基本的な考え方がわかり、大変有意義な研修となった。</li> <li>・実践発表の部で、高等学校があるとよい。</li> <li>・個人の演習の時間と、個人との交流の時間がもう少し欲しい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ研修効果を高めるため、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・「学校と地域の連携・協働」を新設し、地域との連携・協働について理解を深めた。</li> <li>・「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」を新設し、カリキュラム・マネジメントへの理解を深めた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修企画書の作成等、個人の演習時間もできる時間を設定する。</li> <li>・希望校種別グループ編成に努め、情報交換が有効にできるようにする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成28年度学校組織マネジメント指導者養成研修日程表

## 第2回 平成28年10月24日(月)～10月28日(金)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:15
10月24日		受付	オリエンテーション(35分) 9:50-10:25	休憩(10分) 10:35-10:45	開講式(10分) 10:45-11:00 政策に見る新しい学校経営の動向(75分) 文部科学省初等中等教育局 参事官 木村 直 人	屋食・休憩(60分)	屋食・休憩(60分)	講義 経営理念の構築とリーダーシップ ～人と組織を活かした学校経営～(120分) 株式会社イマージェンス 代表取締役社長 桑畑 英紀	休憩(15分)	協義 学校組織マネジメント上で の課題の分析(1) (105分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞	ユニットミーティング					
10月25日	協義 学校組織 マネジメント の課題の 分析(2) (30分) 8:30- 9:00	講義 学校ビジョンと戦 略(1) ～管理職とリー ダー教員にとつ てのマネジメント の課題～ (60分) 国士館大学 教授 北神 正行 9:10-10:10	実践発表(60分) ア 学校組織の活性化(30分) 阿賀野市立水原小学校 校長 伊藤 守 雅 イ 学校と地域の連携・協働(30分) 八峰町立八峰中学校 校長 皆川 仁	協義 学校組織 マネジメント の課題の 分析(2) (30分) 8:30- 9:00	協義 学校ビジョンと戦 略(1) ～管理職とリー ダー教員にとつ てのマネジメント の課題～ (60分) 国士館大学 教授 北神 正行 9:10-10:10	屋食・休憩(60分)	屋食・休憩(60分)	実践発表 ウ 研修成果の活用(30分) 石川県教育センター 指導主事 任田 富美 協議(45分) 国士館大学 教授 北神 正行 13:30-14:45	休憩(15分)	講義 学校ビジョンと戦略(2) ～管理職とリーダー教員にとつ てのマネジメントの課題～ (90分) 国士館大学 教授 北神 正行 15:00-16:30	ユニットミーティング					
10月26日	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(1)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 8:30-12:00	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	屋食・休憩(60分)	屋食・休憩(60分)	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	演習 学校組織 マネジメント の実践に向け て ～学校の戦略マップを作る(2)～ (210分) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一 13:00-16:30	ユニットミーティング				
10月27日	講義・演習 社会に開かれた教育課程の実現に向けて ～特色ある学校づくりのためのカリキュラム・マネジメ ント～ (180分) 岐阜大学教職大学院 准教授 田村 知子 8:30-11:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	屋食・休憩(60分)	屋食・休憩(60分)	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	講義・演習 やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント (240分) 早稲田大学 教授 河村 茂雄 12:30-16:30	ユニットミーティング				
10月28日	オリエンテーション(20分) 8:30-8:50	休憩(10分)	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	講義・演習 学校組織 マネジメント の推進 (150分) 教員研修センター 主任指導主事 堀内 瑞 9:00-11:30	閉講式					

## I 研修概要

研修名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	<p>学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。</p> <p>このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するため の手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</p>							
開催期日	平成28年12月12日（月）～平成28年12月16日（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	140	人	受講者数	248	人	参加率	177.1%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	220	28	0	0	0	0	248
割合 (%)	88.7%	11.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	248		1.0				

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期学習指導要領の実施に向けて、具体的に、学校改善の方向性がみえてきた。5日間で学んだカリマネの手法を生かし、自校及び地域の学校のマネジメント機能の強化が図られるよう尽力したい。</li> <li>・今までは自分の担当分野の中でしか考えない傾向があったが、本研修によって、学校経営という視点をもつことができた。</li> <li>・これまで受けてきた研修の中でも、一番実の多い研修であった。講師の方々の講話が、大変分かりやすく、カリマネの概念について、とてもよく理解できた。また、様々な県の方と知り合い、濃い時間を共に過ごせたことも、自分の今後において、大きなプラスになると思う。</li> <li>・自分個人の教師としてのスキルの向上はもちろん、学校運営の中核としての意識や能力の向上も充分自覚することができた。特にワークショップ型研修は、教員の研修だけでなく、授業や、その他の教育活動に使えると感じた。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの研修を通して、1人ひとりの教師の力のベクトルをそろえ、子供たちの成長のためにどのように動けばよいのか、という問題提起になった。“マネジメント”すること、“マネジメントを推進する研修”と自らの役割をしっかりと果たしていきたい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大幅な定員増にもかかわらず、細かい配慮の行き届いた運営であった。</li> <li>・運営がスムーズで分かりやすく、丁寧であった。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大幅な定員増にもかかわらず、細かい配慮の行き届いた運営であった。</li> <li>・運営がスムーズで分かりやすく、丁寧であった。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程表(案)

12月12日(月)

8:30	10:30	9:45	9:20	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
第1日	講義1 これからの学校教育 ～カリキュラム・マネジメントの観点から～ 文部科学省 視学官 田村 学	オリエンテーション	受付	講義・演習 カリキュラム・マネジメントの基本とその役割、各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組 岐阜大学 准教授 田村 知子	講義・演習 カリキュラム・マネジメントの基本とその役割、各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組 岐阜大学 准教授 田村 知子	休憩	休憩	
◎目的:カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する								

12月13日(火)

8:30	10:45	12:25	13:25	15:05	15:20	17:00
第2日	講義2・協議・講義 カリキュラム・マネジメントによる評価と改善 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 岐阜大学 准教授 田村 知子 筑波大学 准教授 根津 朋実	講義 事例発表・協議・講義 学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 【A道徳教育】文部科学省教科調査官 ※選択制 赤堀 博行 【B言語活動】東京学芸大学 准教授 細川 太輔 【C学校安全】文部科学省安全教育調査官 ※選択制 吉門 直子	講義 事例発表・協議・講義 学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 【B言語活動】東京学芸大学 准教授 細川 太輔 【C学校安全】文部科学省安全教育調査官 ※選択制 吉門 直子	講義 事例発表・協議・講義 学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 【B言語活動】東京学芸大学 准教授 細川 太輔 【C学校安全】文部科学省安全教育調査官 ※選択制 吉門 直子	講義 事例発表・協議・講義 学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 【B言語活動】東京学芸大学 准教授 細川 太輔 【C学校安全】文部科学省安全教育調査官 ※選択制 吉門 直子	講義 事例発表・協議・講義 学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 【B言語活動】東京学芸大学 准教授 細川 太輔 【C学校安全】文部科学省安全教育調査官 ※選択制 吉門 直子
◎目的:各校におけるカリキュラム・マネジメントの考え方、進め方について学ぶ						

12月14日(水)

8:30	10:30	10:45	11:30	12:30	14:25	14:40	15:45	15:55	17:00
第3日	講義3 カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の在り方 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	演習1 カリキュラム・マネジメントの実際	協議	協議	協議	協議	協議	協議	協議
◎目的:各校においてカリキュラム・マネジメントを実行するための研修手法及びその効果についての知識・理解を得る									

12月15日(木)

8:30	10:30	12:00	13:00	15:30	15:45	17:00
第4日	演習2-1 各地域においてカリキュラム・マネジメントを推進するために ～研修を実施するための研修プランや資料の開発～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-2 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-3 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-4 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-5 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-6 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人
◎目的:カリキュラム・マネジメントに関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、各地域でカリキュラム・マネジメントを効果的に推進するための方法等について学ぶ						

12月16日(金)

8:30	10:45	11:00	12:00	12:15
第5日	演習2-2 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-3 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-4 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	演習2-5 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人
◎目的:カリキュラム・マネジメントを効果的に推進するための方法等について理解を深める				

12月13日(火)「事例発表・協議・講義」事例発表者

【A道徳教育】 10:45-12:25 練馬区立練馬東小学校 校長 渡邊 万里子	【B言語活動】 13:25-15:05 岐阜県立加納高等学校 教諭 菅井 修	【C学校安全】 13:25-15:05 東京学芸大学附属小金井小学校 教諭 寛 理沙子	【Dキャリア教育】 15:20-17:00 高知県宿毛市立宿毛小学校 校長 谷口 登志
幹事 古賀 毅	幹事 古賀 毅	幹事 古賀 毅	幹事 古賀 毅
【E総合的な学習の時間】 15:20-17:00 高知県本山町立嶺北中学校 校長 大谷 俊彦	【E総合的な学習の時間】 15:20-17:00 高知県本山町立嶺北中学校 校長 大谷 俊彦	【E総合的な学習の時間】 15:20-17:00 高知県本山町立嶺北中学校 校長 大谷 俊彦	【E総合的な学習の時間】 15:20-17:00 高知県本山町立嶺北中学校 校長 大谷 俊彦

## I 研修概要

研修名	生徒指導指導者養成研修							
担当グループ	基幹研修課 研修企画チーム							
研修目的	<p>生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、各学校においては、学校全体の共通理解と組織的な取組が展開されている。</p> <p>しかしながら、いじめを原因とした自死、ネット依存やSNSの利用等がもたらす生徒指導上の新たな問題が多発しているとともに、児童生徒の命が失われる重大事案も発生している。こうした多様化・複雑化した生徒指導上の課題に対し、学校はこれまで以上に迅速かつ組織的対応が求められている。</p> <p>本研修では、「具体的な課題を解決するための理論の習得及び実践的力量の向上」、「生徒指導におけるマネジメント力の向上」を図り、生徒指導を核とした学校運営を推進できる研修指導者を養成する。</p>							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会や教育センター等で生徒指導を担当する指導主事及び主幹教諭、教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の企画・運営または講師等としての活動を行う予定である者。							
開催期日	平成28年6月27日（月）～平成28年7月8日（金）			10日間				
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	117	人	参加率	117.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	115	1	0	0	0	1	117
割合 (%)	99.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	
	116	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場で生きる実践力を高めることのできる内容だった。</li> <li>・全体的に講義と演習のバランスがよかった。</li> <li>・受講者同士、情報を交換、共有する場が多く設定してあった。</li> <li>・暴力行為、いじめ問題、不登校問題等データをもとに現在の状況を説明していただき、それらの対応として今後必要なことや対応方法について学ぶことができた。</li> <li>・生徒指導が学校運営・教育活動全般にわたって機能させる重要性がわかった。カリキュラムの中に生徒指導の視点を十分に反映させていきたい。</li> <li>・特別支援教育と生徒指導の関連について学ぶ機会があるとよい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ研修効果を高めるため、1ユニット20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・重要課題である「いじめ」を解決していくために、「いじめの未然防止と対応」の時間を150分から270分に設定した。</li> <li>・受講者が地域リーダーとなって、本研修の学びを広められるよう、「生徒指導に関する研修の企画・運営・評価」のコマを新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者や有識者からのニーズの高い、特別支援教育と生徒指導の関連について学ぶコマを設定する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## 平成28年度生徒指導指導者養成研修日程表

独立行政法人教員研修センター

平成28年6月27日(月)～7月8日(金)

< 日程と講座内容 >

期	日(曜)	8:30	9:15	9:30	12:00	13:15	15:45	16:00	17:15	
1	6月27日(月)	受付 (8:30～8:50)	オリエン ① (9:00～ 9:30)	開講式 (9:30～ 9:50)	生徒指導上の重要課題と対策 (10:00～12:00) 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長	重要課題を踏まえた生徒指導の進め方(13:15～16:15) 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇			ユニットミー ティング① (16:30～ 17:15)	
2	6月28日(火)	オリエンテー ション②	外部機関との連携の在り方 杉並区立天沼中学校 校長 藤川 章			学校と家庭の連携の在り方 ～好ましい保護者対応とは～ 日本大学 教授 佐藤 晴雄			ユニットミー ティング (課題討議①)	
3	6月29日(水)	ユニットミー ティング (事例協議 ①)	いじめの未然防止と対応(9:30～15:15) 文教大学 教授 柳生 和男					ユニットミー ティング (課題討議②) (15:30～17:15)		
4	6月30日(木)	ユニットミー ティング (事例協議 ②)	不登校の予防と対応 鹿儿岛大学 教授 大坪 治彦			自殺予防に向けた取組 広島大学 准教授 内野 悌司			ユニットミー ティング (課題討議③)	
5	7月1日(金)	ユニットミー ティング (事例協議 ③)	生徒指導と関係法規 日本女子大学 教授 坂田 仰			情報モラル教育の充実(13:00～15:30) 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄			特別講義 (15:45～17:15) 黒岩 禅 氏	
6	7月2日(土)									
7	7月3日(日)									
8	7月4日(月)	オリエンテー ション③	児童生徒理解と望ましい集団づくり 愛媛大学教職大学院 教授 平松 義樹			選 択 講 義	児童虐待防止に向けた取組 大正大学 教授 玉井 邦夫 性・薬物に関わる非行の予防と対応 京都大学 准教授 木原 雅子		ユニットミー ティング (課題討議④)	
9	7月5日(火)	ユニットミー ティング (事例協議 ④)	生徒指導事例研究(1)			生徒指導事例研究(2)			ユニットミー ティング (課題討議⑤)	
			講義	1ユニット(小中) 奈良教育大学教職大学院 教授 池島 徳大 2ユニット(小中) 愛媛大学教職大学院 教授 平松 義樹 3ユニット(中) 杉並区立天沼中学校 校長 藤川 章 4ユニット(中) 大津市教育委員会 教育長 桶谷 守 5ユニット(高) 文教大学 教授 柳生 和男 6ユニット(高) 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇			総括 講義			
10	7月6日(水)	ユニットミー ティング (課題討議 ⑥)	生徒指導事例研究(3)			生徒指導事例研究(4)			ユニットミー ティング (課題討議⑦)	
			講義	1ユニット(小中) 奈良教育大学教職大学院 教授 池島 徳大 2ユニット(小中) 愛媛大学教職大学院 教授 平松 義樹 3ユニット(中) 杉並区立天沼中学校 校長 藤川 章 4ユニット(中) 大津市教育委員会 教育長 桶谷 守 5ユニット(高) 文教大学 教授 柳生 和男 6ユニット(高) 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇			総括 講義			
11	7月7日(木)	ユニットミー ティング (課題討議 ⑧)	研修成果の発表・パネルディスカッション・指導講評 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇							
12	7月8日(金)	ユニットミー ティング②	生徒指導に関するマネジメントの推進 文教大学 教授 松田 素行			生徒指導に関する研 修の企画・運営・評価 (13:15～14:45)	閉講式 (15:00 ～15:20)			

## I 研修概要

研 修 名	教育相談指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム						
研 修 目 的	いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題は、依然として憂慮すべき状況にある。さらに、虐待や貧困など新しい形の問題が顕在化し、生徒指導上の問題は一層多様化、深刻化している。 これらの問題に適切に対応するためには、教員個人が問題を抱え込むことなく、「チームとしての学校」の観点から学校全体で組織的に取り組むことや、外部機関や家庭、地域との連携・協働を促進して、効果的に教育相談を推進することが求められている。 本研修では、「チーム学校」として組織的な教育相談体制を構築し、効果的に教育相談を実践する力を高め、教育相談の組織的な取組をマネジメントする力を身に付けて、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。						
受 講 対 象	各都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者。又は幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者。						
開 催 期 日	平成28年8月23日（火）～平成28年8月26日（金）				4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	82	参加率	136.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	80	2	0	0	0	0	82
割合 (%)	97.6	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	82	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・どれも即実践できるのもであり、また研修を企画する上でも大いに役立つ内容だった。</li> <li>・チーム学校として組織的な教育相談体制の構築、効果的に教育相談を実践する力、教育相談の組織的な取組をマネジメントする力について知ることができた。</li> <li>・講師は大学教授、現役のSSW、教師、行政担当者であり、教育相談について多面的な視点で学ぶことができた。</li> <li>・今まで、学校の中にある教育相談の体制や方法を引き継いでいるところが大きかったが、今回の研修で新しい情報ももらい、よいシステム作りができる。</li> <li>・チーム学校の考え方から、課題の整理、教育相談の基礎、マネジメントのやり方と、今後地元に戻ってから実践していきたい。</li> <li>・研修の立案は、今後の自分の仕事の中で大きなものの一つなので、もう少し学びたかった。</li> <li>・校内研修でも新しい視点で多くの情報を他の先生に伝えられ、教育相談について再考できる。</li> <li>・教育相談の実践の協議や演習を通して手法を学べるような内容があればよい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者相互が継続的・発展的に学びを深めることを目的として、20人程度の単位（ユニット）内でグループを編成し、演習や協議を行う。</li> <li>・国としての教育課題への取組やその方向性の理解に資するため、文部科学省からの行政説明の時間を初日に設けることとする。</li> <li>・27年12月の中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」を踏まえ、チーム学校として取り組む組織的な教育相談体制構築のため、今年度も学校や外部機関等の実践発表・協議を行うこととする。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で身に付けた知識を実践する力を高めるため、マネジメントに関する時間を増やす。</li> <li>・受講者からのニーズの高かった、教育相談とチーム学校との関わりをより詳しく結び付ける内容を盛り込む。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

日程表

平成28年度教育相談指導者養成研修日程表(案)

平成28年8月23日(火)～平成28年8月26日(金) 3泊4日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:20	9:40	10:10	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「チーム学校の構築と教育相談」 文部科学省初等中等教育局 生徒児童課 課長補佐 高橋 由紀				昼食・休憩				協議 「教育相談の現状と課題」 ～事前レポートの協議による課題分析～ センター主任指導主事 榎原 正策					リフレクシヨン
第2日	ユニットミーティング①	事例発表 「チーム学校の構築(1)」～実践事例から学ぶ～ ①学校現場 千葉県佐倉市立佐倉中学校 教諭 砂押 裕介 ②SSW 大阪府堺市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 水流添 綾 ③外部機関 兵庫県姫路市役所 健康福祉局 生活援護室 就労支援担当 課長補佐 佐野 奈緒美 東京都杉並区立天沼中学校 校長 藤川 章							昼食・休憩				協議・講義 「チーム学校の構築(2)」 ～組織的な教育相談体制の構築～ 東京都杉並区立天沼中学校 校長 藤川 章					リフレクシヨン
第3日	ユニットミーティング②				講義 「教育相談の効果的な実践(1)」 ～教育相談の理論と実践～ 高知大学 准教授 鹿嶋 真弓				昼食・休憩				演習・講義 「教育相談の効果的な実践(2)」 ～具体的な手立ての考察～ 高知大学 准教授 鹿嶋 真弓					リフレクシヨン
第4日	オリエンテーション②			講義 「教育相談に関するマネジメントの推進」 ～マネジメントの効果的な進め方～ 神田外語大学 教授 嶋崎 政男				昼食・休憩					協議・講義 「教育相談に関する研修の企画・ 運営・評価」 センター主任指導主事 小貫 香織					閉講式



## I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（中央指導者研修）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム						
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を行う。</p>						
受 講 対 象	<p>教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>						
開 催 期 日	平成28年5月9日（月）～平成28年5月13日（金）				5日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	109	参加率	90.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 408 人、参加率 113.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	104	4	0	0	0	1	109
割合 (%)	96.3	3.7	0.0	0.0	0.0	0.9	
	108	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの問題の基本的な捉え方に始まり、法的視点、指導的視点、連携や組織としての視点など多角的に研修できる素晴らしい構成だった。</li> <li>・教員として意識を変えるきっかけとなる研修となった。</li> <li>・様々な切り口から「いじめ」について専門的な知識や、より良い対応の仕方や未然防止等について深く学ぶことができた。情緒的、感覚的な対応ではなく、法に基づき組織的な対応を適切にできる学校の仕組みを作っていくために、大変有意義だった。</li> <li>・これからの生徒指導で加害・被害リスクの高いネットいじめの問題の背景と解決方法について、事例をもとに学ぶことができた。</li> <li>・いじめを広く認知することで、起こる問題点を共有することができ、そのことに対する解決方法について話し合うことができ、有意義であった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ研修効果を高めるため、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけた。</li> <li>・2日間期間を増やし、中央指導者研修として法及びネットいじめ、保護者対応の在り方について講座を設定する。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介する。</li> <li>・国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れ、現場での伝達や活用資する。</li> <li>・インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程(講師)

【中央指導者研修】5月9日(月)～5月13日(金)

8:30	9:00	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日	9:30 受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省 平居 秀一	屋食・休憩	講義 「いじめ問題の捉え方」 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司	事例協議 「いじめ問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通し て～ ※自校の基本方針と全体計画の交流 指導助言 山本 悟	諸 連 絡								
第2日	ユニット オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(1)」 ～問題対応への協働的学び～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	屋食・休憩	講義・協議 「いじめの問題への組織的な取組の考え方と実践(2)」 ～問題対応への協働的学び～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	諸 連 絡											
第3日	ユニット オリエンテーション③	講義・協議 「いじめの問題への適切な対応の在り方(1)」 ～法を踏まえた対応への協働的学び～ 日本女子大学 教授 坂田 仰	屋食・休憩	講義・協議 「いじめの問題への適切な対応の在り方(2)」 ～法を踏まえた対応への協働的学び～ 日本女子大学 教授 坂田 仰	諸 連 絡											
第4日	ユニット オリエンテーション④	講義・協議 「インターネット・携帯電話等におけるいじめの対応の在り方」 ～ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応～ 鳴門教育大学 教授 阪根 健二	屋食・休憩	講義・協議 「信頼関係構築を旨とした保護者対応の在り方」 ～いじめの問題のよりよい解決に向けた保護者対応への心得～ 京都教育大学 教授 樋谷 守	諸 連 絡											
第5日	ユニット オリエンテーション⑤	講義・協議 「いじめの問題」に取り組む指導者となるために」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 主任指導主事	屋食・休憩	講義・協議 「いじめの問題に関する研修 の企画・運営・評価」 ～研修企画書の検討～ 主任指導主事	閉講式											

## I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（仙台会場）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム						
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を行う。</p>						
受 講 対 象	<p>教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>						
開 催 期 日	平成28年5月17日（火）～平成28年5月20日（金）				4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	65	参加率	81.3%
開 催 場 所	TKPガーデンシティ仙台勾当台（宮城県仙台市）						

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 408 人、参加率 113.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	63	2	0	0	0	0	65
割合 (%)	96.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	65	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として大変有意義であり、参考になった。</li> <li>・法令に基づく取組・対応など、新しい情報や過去の事例との比較等を交えながらの講義が良かった。</li> <li>・役職の異なる先生方や、異校種の先生方との意見交換は視野が広がった。ワークショップ形式の講義・協議は大変有効だった。</li> <li>・多くの著名な方を講師にさせていただいており、スタンダードな話が聞けた。今回のような講師陣がベスト。</li> <li>・未然防止、適切な対応、保護者連携の3つの柱を押さえてもらえればよい。</li> <li>・国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義等があると、現場で伝達したり活用したりしやすい。</li> <li>・いじめ問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などが学べれば良かった。</li> <li>・インシデント・プロセス法による演習を体験してみたい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ研修効果を高めるため、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけた。</li> <li>・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点を踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけた。</li> <li>・昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介する。</li> <li>・国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れ、現場での伝達や活用資する。</li> <li>・インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成28年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

【仙台会場】5月17日(火)～5月20日(金)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省	12:00	12:30	13:00	13:30	講義 「いじめの問題の捉え方」 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
								屋食・休憩						事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～		
第2日	ユニットミーティング	講義・協議 「いじめの問題への組織的な取り組みの考え方と実践(1)」 ～問題対応への協働的学び～ 愛媛大学 教授 平松 義樹						屋食・休憩						講義・協議 「いじめの問題への組織的な取り組みの考え方と実践(2)」 ～インターネット等をはじめとするいじめの問題の解決に向けた組織的対応への協働的学び～ 愛媛大学 教授 平松 義樹		
第3日	ユニットミーティング	講義・協議 「いじめの問題への適切な対応の在り方」 ～法を踏まえた対応への協働的学び～ 弁護士 三ツ角 直正						屋食・休憩						講義・協議 「信頼関係構築を目指した保護者対応の在り方」 ～いじめの問題のよりよい解決に向けた保護者対応への心得～ 神田外語大学 教授 島崎 政男		
第4日	ユニットミーティング	協議 「いじめの問題に関するマネジメントの推進」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 主任指導主事					屋食・休憩		講義・協議 「いじめの問題に関する研修 の企画・運営・評価」 ～研修企画書の検討～ 主任指導主事							閉講式

## I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（大阪会場）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム						
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を行う。</p>						
受 講 対 象	<p>教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>						
開 催 期 日	平成28年5月24日（火）～平成28年5月27日（金）				4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	142	参加率	177.5%
開 催 場 所	新梅田研修センター（大阪府大阪市）						

※ 全体標準定員 360人、受講者数 408人、参加率 113.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	118	23	0	0	0	1	142
割合 (%)	83.7	16.3	0.0	0.0	0.0	0.7	
	141	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの問題に対する組織的対応の重要性を理解することができた。</li> <li>・いじめの問題に対する予防的措置や事後の対応について多くのアプローチの方法を学べた。今後の伝達でも生かしていきたい。</li> <li>・実践に活かせる講義や演習であった。</li> <li>・法律が決まったからいじめ問題を捉え直すという消極的な姿勢から、子どもを育てるために、よりよい学校をつくるために、いじめ問題を核として教育を見直すという前向きな姿勢を自分自身学ぶことができたことが有意義であった。</li> <li>・いじめ被害児童の保護者と面談する際に保護者の気持ちに寄り添うこと、労をねぎらうことの大切さについて、シュミレーションを通して理解することができた。日頃から人間関係づくりがいじめ問題に対応していく大きな力になると感じた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ研修効果を高めるため、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけた。</li> <li>・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点で踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけた。</li> <li>・昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介する。</li> <li>・国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れ、現場での伝達や活用資する。</li> <li>・インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れる。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成28年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程

【大阪会場】5月24日(火)～5月27日(金)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00			
第1日	受付	オリエンテーション	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省	昼食・休憩	講義 「いじめの問題の捉え方」 鳴門教育大学 特任教授 森田 洋司	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～	諸連絡	第2日	ユニットミーティング	講義・協議 「いじめの問題への組織的な取り組みの考え方と実践(1)」 ～問題対応への協働的学び～ 愛媛大学 教授 平松 義樹	講義・協議 「いじめの問題への組織的な取り組みの考え方と実践(2)」 ～インターネット等をはじめとするいじめの問題の解決に向けた組織的対応への協働的学び～ 愛媛大学 教授 平松 義樹	講義・協議 「信頼関係構築を目指した保護者対応の在り方」 ～いじめの問題のよりよい解決に向けた保護者対応への心得～ 社会福祉士 愛沢 隆一	諸連絡	第3日	ユニットミーティング	講義 「いじめの問題に関するマネジメントの推進」 ～マネジメント力の向上を目指して～ 主任指導主事	講義・協議 「いじめの問題に関する研修の企画・運営・評価」 ～研修企画書の検討～ 主任指導主事	閉講式



## I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（福岡会場）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 研修企画チーム							
研 修 目 的	<p>教員は、児童生徒の命を奪うことにもなるいじめの問題と向き合い、その未然防止及び早期発見と指導に努め、問題の根絶を目指さなければならない。</p> <p>本研修においては、法律及び国の基本方針への理解を深め、特にネットいじめへの対応や保護者との連携の在り方等について学び合うことを通して、組織を育てマネジメントを行う力を身につけた指導者の養成を行う。</p>							
受 講 対 象	<p>教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>							
開 催 期 日	平成28年5月31日（火）～平成28年6月3日（金）			4日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	92	人	参加率	115.0%
開 催 場 所	TKPガーデンシティ福岡渡辺通（福岡県福岡市）							

※ 全体標準定員 360 人、受講者数 408 人、参加率 113.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	79	13	0	0	0	0	92
割合 (%)	85.9	14.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	92	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・法や国の基本方針、いじめ認知件数の分析等の解説があり、今まで不明確だった部分が明確になった。</li> <li>・すばらしい講師の話を直に聞き、熱いメッセージを受け取ることができ、とても良かった。</li> <li>・つかむ→深める→生かすを実践できるプログラムだった。一流の講師の講義から、いじめについて深く知ることができた。</li> <li>・ビジョンが明確で、しかも具体的、大切なのは組織の中の一人の人としてどう周りをつながり、自分の持ち場の役割を果たすのかということだと感じた。</li> <li>・未然防止のための具体的な取組、ネットいじめ、保護者対応などについての対応事例を知りたい。</li> <li>・各地区で起きた重大事態に対する取組、課題などについて知りたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な協議・演習をより多く取り入れ研修効果を高めるため、1班20人の単位（ユニット）を基本に、研修や協議を行った。</li> <li>・いじめの態様で増加傾向にある、いわゆるネットいじめの対応を講座内容に位置づけた。</li> <li>・いじめ防止対策推進法の施行から3年経過する中で、法的な観点から踏まえたいじめの問題への対応の在り方について協議する講座を位置づけた。</li> <li>・昨年より1日期間を増やし、研修内容の充実を図った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題に組織的に対応して成果を上げた具体例などを紹介する。</li> <li>・国研の生徒指導リーフレット等を用いた講義を取り入れ、現場での伝達や活用資する。</li> <li>・インシデント・プロセス法による演習を2日目に取り入れる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり





## I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修【管理者用コース】							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者							
開催期日	平成28年6月21日（火）～平成28年6月22日（水）				2日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	40	人	受講者数	47	人	参加率	117.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 100 人、受講者数 120 人、参加率 120.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	41	6	0	0	0	0	47
割合 (%)	87.2	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	47	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導について課題を持っていたが、施策事業、具体的な各校の取組が紹介され、とても参考になった。</li> <li>・理論、現状、事例など自分の置かれている環境ではどう対応したらよいか考えながら聞くことができ、とても参考になった。演習をすることで、頭の中のイメージがより具体になり良かった。厳しい現状をつきつけられた感じはするが、いくらかすべき道筋が見えてきたのでとても有意義だった。</li> <li>・他市のそれぞれの実態と課題、そして有効な取り組みを聞くことができた。実態はだいぶ違うものの、これから増えていく可能性もあることをふまえ、しっかり行政でも案を出していきたい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1日目の講義3に、DLAの取組事例を入れた。</li> <li>・第2日目の講義4は「特別の教育課程」の導入による体制整備の内容だけでなく、整備を図ったときの実際に触れた内容とした。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生の一環として、平成29年度から独立行政法人教職員支援機構と三重県教育委員会との主催にし、三重県総合教育センターで実施する。</li> <li>・第2日目の講義4の内容について「特別の教育課程」の導入による体制整備の課題に触れる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修  
日程表

第1日	9:00	9:30	9:55	10:35	10:45	12:15	13:15	14:05	14:20	15:30	15:40	16:00	17:00				
6月21日(火)	開講式・オリエンテーション	面コース共通	9:00	9:30	9:55	10:35	10:45	12:15	13:15	14:05	14:20	15:30	15:40	16:00	17:00		
	【特別の教育課程】を踏まえた指導・支援体制づくりと実際	【事例発表】 愛知淑徳大学 松本 一子 非常勤講師	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	
6月22日(水)	【特別の教育課程】を踏まえた指導・支援体制づくりと実際	【事例発表】 愛知淑徳大学 松本 一子 非常勤講師	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	
	【特別の教育課程】を踏まえた指導・支援体制づくりと実際	【事例発表】 愛知淑徳大学 松本 一子 非常勤講師	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩	【事例発表】 山形市教育委員会 稲葉 健一 大阪市教育委員会 西堂 良紀 広島市立基町小学校 二宮 孝司 【指導助言】 愛知淑徳大学 小島 祥美	休 憩

<p>8:30 10:30 10:45 12:00 13:00 17:00</p>	<p><b>初期指導プログラム【講義・演習】</b> 講義 「日本語初期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」 演習 「日本語初期指導の活動計画の実践」</p> <p>波多野フミアリ スクール 学監 大藏 守久 愛知県豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築燧 博子</p> <p>◎目的：来日直後の外国人児童生徒等に対する初期段階の日本語プログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎（語彙・文型）」の学習指導計画を作成することを通して、初期段階の日本語指導について理解を深め、授業を実践する力を高める。</p>	<p><b>中期・後期指導プログラム【講義・演習】</b> 講義 「日本語中期・後期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」 演習 「日本語中期・後期指導（主に読む力、書く力を高める指導）の実践」</p> <p>東京女子大学 教授 石井 萬理子 江戸川区立一之江小学校 主任教諭 花島 健司</p> <p>◎目的：日常会話ができる児童生徒を対象とした「読む力・書く力」を高めるための日本語プログラムの内容と指導方法について知り、事例をもとに授業の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p>	<p><b>教科指導実践プログラム【講義・演習】</b> 講義 「JSSLカリキュラムの授業づくり」 演習 「JSSLカリキュラムの実践」</p> <p>東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 甲府市立大國小学校 教諭 今澤 大宮 京都市教育委員会 指導主事 佐紀子</p> <p>◎目的：JSSLカリキュラムの学習指導計画を作成し、教科と日本語を統合した授業についての理解を深め、授業を実践する力を高める。</p>
---	---	---	---

第4日	8:30	3プログラム共通 全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」	12:00	13:00	14:45	15:00
	6月24日(金)	<p>波多野フミアリスクール 愛知県豊橋市教育委員会 東京女子大学 江戸川区立一之江小学校 東京学芸大学 甲府市立大岡小学校 京都市教育委員会</p> <p>学監 外国人児童生徒教育相談員 教授 主任教授 教授 指導主事</p> <p>大藏 守久 築樋 博子 石井 恵理子 花島 健司 齋藤 ひろみ 今澤 倂 大菅 佐妃子</p>	<p>屋食・休憩</p>	<p><b>講義5</b> 「外国人児童生徒等教育を推進するリーダーとして～研修成果の活用に向けて～」 東京学芸大学 齋藤 ひろみ 教授</p>	<p>各ユニットで研修プログラムの共有</p>	閉講式

◎目的：各プログラムの代表班の学習指導計画についての発表をもとに、子供たちの言語習得・認知発達・社会的等の側面から、日本語指導の内容と方法についての理解を更に深める。

◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。

## I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修【日本語指導者用コース】						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者						
開催期日	平成28年6月21日（火）～平成28年6月24日（金）				4日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	73	参加率	121.7%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 100 人、受講者数 120 人、参加率 120.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	63	10	0	0	0	0	73
割合 (%)	86.3	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	73						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・DLAについて、講義後に、演習を行うことで、実践のポイントや診断シートの活用法が、よく分かり、とても参考になった。</li> <li>・授業の中に「教科の目標」と「日本語指導の目標」を位置づけることの大切さについて学べた、・JSL評価参照枠のステージ3、4から5、6へなかなか進めない要因とその解決のヒントや対応等を得ることができた。</li> <li>・受講者に何が必要か、受講者が何を求めているのかに合致した内容だった。また受講者の今後の取り組む姿勢に変化を与える内容だった。</li> <li>・わかっている、自分がやるとなると、いろいろな課題がグループから指摘されたりすることでみえてよかった。帰って使えるものになったと思った。また、長年教科指導でなんとなく焦点化といていたことなど、日本語指導をすることで見えてきた様に思う。教育のすごさを実感できる良い4日間だった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業のフィードバックを実施した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生の一環として、平成29年度から独立行政法人教職員支援機構と三重県教育委員会との主催にし、三重県総合教育センターで実施する。</li> <li>・全国の教員にとって参考となる実践を有している学校があるため、授業等の視察を実施する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



平成28年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修  
日程表

第1日	9:00	9:30	9:55	10:35	10:45	12:15	13:15	14:05	14:20	15:30	15:40	16:00	16:45	17:00
6月21日(火)	開講式・オリエンテーション	施設説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省初等中等教育局国際教育課 木下 雅仁 日本語指導係長 木下 雅仁	休憩	講義1 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 目白大学 学長 佐藤 郡衛	昼食・休憩	班別演習1 「情報交換による課題の共有」	休憩	講義2 「学校における日本語教育プログラムの立てるために～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	休憩	講義3 「外国人児童生徒等のためのJSL対話型アセスメントDLA～日本語能力の評価の在り方～」 【講義】東京外国語大学 教授 伊東 祐郎 【事例発表】門真市立砂子小学校 教諭 永田 耕平	DLAの取組事例の報告			

第2日	8:30	9:20	9:35	11:50	12:50	14:50	16:30	16:45	17:00					
6月22日(水)	管理者用コース 講義4 「『特別の教育課程』を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	休憩	事例協議1 「～指導・支援体制における連携と協働～外国人児童生徒等教育の先進的な取組」 【事例発表】山形市教育委員会 指導主事 稲葉 健一 大阪市教育委員会 指導主事 西堂 良紀 広島市立基町小学校 指導主事 二宮 孝司 【指導助言】愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美	昼食・休憩	班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美 山形市教育委員会 指導主事 稲葉 健一 大阪市教育委員会 指導主事 西堂 良紀 広島市立基町小学校 指導主事 二宮 孝司	講義5 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義6 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義7 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義8 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義9 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義10 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義11 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義12 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	講義13 「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくりと実際」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子

<p>8:30 10:30 10:45 12:00 13:00 17:00</p>	<p><b>初期指導プログラム【講義・演習】</b>  <b>講義</b>                  「日本語初期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」                  波多野フミアリ スクール 学監 大藏 守久                  愛知県豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築燧 博子</p> <p>◎目的：来日直後の外国人児童生徒等に対する初期段階の日本語プログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎（語彙・文型）」の学習指導計画を作成することを通して、初期段階の日本語指導について理解を深め、授業を実践する力を高める。</p>	<p><b>中期・後期指導プログラム【講義・演習】</b>  <b>講義</b>                  「日本語中期・後期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」                  東京女子大学 教授 石井 萬理子                  江戸川区立一之江小学校 主任教諭 花島 健司</p> <p>◎目的：日常生活ができる児童生徒を対象とした「読む力・書く力」を高めるための日本語プログラムの内容と指導方法について知り、事例をもとに授業の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p>	<p><b>教科指導実践プログラム【講義・演習】</b>  <b>講義</b>                  「JSLカリキュラムの授業づくり」                  東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ                  甲府市立大國小学校 教諭 今澤 大                  京都市教育委員会 指導主事 大宮 佐紀子</p> <p>◎目的：JSLカリキュラムの学習指導計画を作成し、教科と日本語を統合した授業についての理解を深め、授業を実践する力を高める。</p>
---	--	---	---

第4日	8:30	3プログラム共通 全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」	12:00	13:00	14:45	15:00
	6月24日(金)	<p>波多野フミアリスクール 愛知県豊橋市教育委員会 東京女子大学 江戸川区立一之江小学校 東京学芸大学 甲府市立大岡小学校 京都市教育委員会</p> <p>学監 外国人児童生徒教育相談員 教授 主任教授 教授 指導主事</p> <p>大藏 守久 築樋 博子 石井 恵理子 花島 健司 齋藤 ひろみ 今澤 倭 大菅 佐妃子</p>	<p>屋食・休憩</p>	<p><b>講義5</b> 「外国人児童生徒等教育を推進するリーダーとして～研修成果の活用に向けて～」 東京学芸大学 齋藤 ひろみ 教授</p>	<p>各ユニットで研修プログラムの共有</p>	閉講式

◎目的：各プログラムの代表班の学習指導計画についての発表をもとに、子供たちの言語習得・認知発達・社会的等の側面から、日本語指導の内容と方法についての理解を更に深める。

◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。

## I 研修概要

研修名	小学校における外国語教育指導者養成研修						
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研修目的	小学校の外国語教育を担当する教諭及び、指導主事等に、中学校との接続を意識し、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価、教員の外国語教育指導力向上のための研修の実施及び、今後の小学校外国語教育の方向性についての知識等を総合的に習得させることを通じて、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語教育推進の指導者としての活動を行う者						
開催期日	平成29年2月22日（水）～平成29年2月24日（金）				3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	120	人	受講者数	177	参加率	147.5%
開催場所	フェニックス・プラザ（福井県福井市）						

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	167	10	0	0	0	0	177
割合 (%)	94.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施に向けて、現在の外国語活動がどのように変わっていくのか、教科化のポイントについて、理論と実践の両面から深く理解する事ができ、大変有意義だった。</li> <li>・現場で教科化がどのように行われているのかが見ることができ、貴重な体験だった。</li> <li>・外国語活動と教科の違いがわかり、今後、どのようなことを意識して授業をつくっていくかのイメージをもつことができた。</li> <li>・講義や研究授業参観、研究協議を通して、外国語活動から「教科」としての外国語の目標、指導計画作成におけるポイントがよくわかった。</li> <li>・それぞれの講義や活動の後に、フィードバック（振り返り）を行う場面があるとより深まる気がした。</li> <li>・普段話すことのない他の自治体や他校種等の方々と議論することができ、とても有意義な時間だった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語教育推進に向けて必要な事項を整理し、その方策等を考察する演習を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、小学校における外国語教育の在り方についての研修内容・方法の検討を行う。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度小学校における外国語教育指導者養成研修 日程

2月22日(水)	9:30	10:00	10:30	12:00	14:00	16:50
	受付	オリエンテーション	講義1 外国語活動の現状と外国語教育の今後の方向性Ⅰ 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：学校教育における外国語活動の現状と課題を踏まえ、今後の外国語教育の重要性と方向性を理解する。	休息・移動 食	研究授業参観・研究協議 外国語活動の充実及び、外国語教育の今後のために求められること 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 敦賀市立看護大学看護学科 教授 大下 邦幸 仁愛大学人間学部コミュニケーション学科 教授 紺渡 弘幸 福井大学教育学部言語教育講座 教授 伊達 正起 福井県教育庁義務教育課外国語教育グループ 主任 水上 直子 福井県教育庁義務教育課外国語教育講座 指導主事 上田外史彦 各ユニットで内容の共有	

2月23日(木)	8:30	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
	受付	講義2 外国語活動の現状と外国語教育の今後の方向性Ⅱ 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：「研究授業参観・研究協議」の整理及び、外国語教育の今後の方向性の具体について理解する。	休息	講義3 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅰ 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 大里 弘美 教諭 三田村 有香 岐阜県多治見市立笠原小学校 教諭 勝部 佳純 ALT Robert Middleton ◎目的：外国語活動の推進、充実及び外国語(教科型)の実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・指導法を理解する。	休息 食	講義4 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅱ 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 大里 弘美 京都市立大宅小学校 教諭 三田村 有香 岐阜県多治見市立笠原小学校 教諭 勝部 佳純 ALT Robert Middleton ◎目的：外国語活動の推進、充実及び外国語(教科型)の実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・指導法を深める。	休息	演習1 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅲ 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 大里 弘美 ◎目的：外国語活動の推進、充実及び外国語(教科型)の実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・指導法を班別協議を通して深める。	各ユニットで内容の共有

2月24日(金)	8:30	9:00	9:30	10:50	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45
	受付	演習2 外国語教育を円滑に進める指導力向上のための方策Ⅳ 発表準備 代表班4つ選出(各会場2つずつ) 移動 代表班の発表 講評 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 大里 弘美 ◎目的：外国語活動の推進、充実及び外国語(教科型)の実施に向けて必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・指導法等を発表を通して深める。	休息 食	講義5 外国語教育を推進するための指導者として 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：本研修を振り返り、成果等をまとめるとともに、研修講師となるための課題を整理する。	閉講式				

## I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子供達を育成するため、全国の外国語指導助手（AL T）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を習得させる。（JETプログラムにより日本に招致した外国語指導助手（AL T）に対する来日直後オリエンテーション（一般財団法人自治体国際化協会主催）の一環として実施）						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムにより招致した外国語指導助手（AL T）						
開 催 期 日	(4月期) 平成28年4月11日(月)				1日間		
	(A日程) 平成28年7月25日(月)				1日間		
	(B日程) 平成28年8月1日(月)				1日間		
	(第2次) 平成27年8月22日(月)				1日間		
受 講 人 数	定員 (計画人数)	4月期	2,100人	受講者数	50人	参加率	—
		A日程			769人		—
		B日程			902人		—
		第2次			38人		—
		計			2,100人		計
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町(東京都千代田区) A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル(東京都新宿区)						

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった				あまり意義 なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計				
	大変有意義	おおむね有意義											
人数 (人)	806	56.8	538	37.9	71	5.0	4	0.3	0	0.0	340	21.7	1,759
割合 (%)	1,344		94.7										

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても組織立っていて効果的な研修会だった。有益で深い知識を得ることができた。</li> <li>・研修の早さがゆっくりで、内容が理解しやすく良かった。</li> <li>・多くの情報が得られ、元気付けられた。不安な気持ちを払拭できた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、引き続き自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行う必要がある。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



平成28年度来日直後オリエンテーション（4月）開催日程

時間	内容						会場		
7:00 - 8:30	朝食						エメラルド		
9:00 - 9:20	開会式						マーブル		
9:20 - 9:30	移動								
時間	ALT分科会(英語圏)	会場	ALT分科会(中国)	会場	時間	CIR分科会	会場		
9:30 - 9:50	重要事項の説明	サファイア	重要事項の説明	ルビー	9:30 - 9:50	重要事項の説明	ルビー		
9:50 - 10:00	休憩								
10:00 - 10:45	CLAIR「ALTの心得と任用団体が期待すること」	サファイア	CLAIR「ALTの心得と任用団体が期待すること」 ※通訳	サファイア	10:00 - 11:00	CIRとしての基礎知識 「CIRの心得と任用団体が期待すること」	ルビー		
10:45 - 10:55	休憩								
10:55 - 12:00	CLAIR「ALTに役立つ情報」	サファイア	CLAIR「ALTに役立つ情報」 ※通訳	サファイア	11:00 - 11:10	休憩			
11:10 - 12:00	CIR業務について「イベント企画・実施」						ルビー		
12:00 - 13:15	昼食						マーブル		
13:15 - 14:00	CLAIR「ALTパネルディスカッション」前半(共通)	サファイア	CLAIR「先輩ALTからのアドバイス」			CIRとしての基礎スキル「翻訳」	ルビー		
	CLAIR「ALTパネルディスカッション」後半(小・中学校)	サファイア							
	CLAIR「ALTパネルディスカッション」後半(高校)	ガーネット							
14:00 - 14:45	休憩								
14:45 - 15:00	休憩								
15:00 - 15:45	MEXT「学習指導要領の説明」	サファイア	MEXT「学習指導要領の説明」 ※通訳	サファイア	14:50 - 15:40	CIR業務について「学校訪問」	ルビー		
15:40 - 15:50	休憩								
15:45 - 16:00	休憩								
16:00 - 17:15	MEXT「チームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画」中学校・高校(クラスA)	ガーネット	MEXT「中国語教育の現状」	トパーズ	15:50 - 17:15	CIRとしての基礎スキル「日本のビジネスマナーの基礎」	ルビー		
	MEXT「チームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画」小学校(クラスB)	サファイア							
17:15 - 18:30	休憩								
18:30 - 20:00	歓迎夕食会						マーブル		
7:00 - 8:30	朝食						マーブル		
時間	ALT分科会(英語圏)	会場	ALT分科会(中国)	会場	時間	CIR分科会	会場		
9:00 - 10:30	CLAIR「日本で働く上でのマナー」(英語)	サファイア	CLAIR「日本で働く上でのマナー」(日本語)	トパーズ	9:00 - 10:25	CIRとしての基礎スキル「通訳」	ルビー		
10:30 - 10:45	休憩								
10:45 - 11:35	MEXTワークショップ	サファイア	MEXTワークショップ	トパーズ	10:25 - 10:35	休憩			
10:35 - 11:35	CIRとしての基礎知識「地方自治体の行政機構等について」						ルビー		
11:35 - 12:50	昼食						マーブル		
12:50 - 13:40	MEXTワークショップ	サファイア	MEXTワークショップ	トパーズ	12:50 - 14:50	CIRパネルディスカッション	ルビー		
13:40 - 13:55	休憩								
13:55 - 14:45	MEXTワークショップ	サファイア	MEXTワークショップ	トパーズ					
14:45 - 15:00	休憩								
15:00 - 15:50	MEXTワークショップ	サファイア	MEXTワークショップ	トパーズ	14:50 - 15:00	休憩			
15:00 - 15:50	CIR業務について「外国語講座」						ルビー		
15:50 - 16:05	休憩								
16:05 - 16:55	取りまとめ団体別ミーティング						マーブル・レスカル		
16:55 - 17:15	アンケート記入・提出						マーブル		
6:30 - 9:00*	朝食						マーブル		
7:00 - 9:00	出発								

4月11日(月)(1日目)

4月12日(火)(2日目)

4月13日(水)

## 平成28年度来日直後オリエンテーション(外国語指導助手研修)

A日程7月25日(月)・B日程8月1日(月)			第二次(C日程)8月22日(月)		
時間	内容	会場	時間	内容	会場
7:00 - 8:30	朝食				花(4F)・エミネンス(5F)
9:00 - 9:20	開会式				コンコード(5F)
9:20 - 9:35	休憩・移動				
時間	ALT分科会	会場	時間	ALT分科会	会場
9:35-9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(英語)	コンコード(5F)	9:35-9:55	JETプログラムに関する重要事項の説明(英語)	
9:55 - 10:10	休憩		9:55 - 10:10	休憩	
10:10-10:55	ALT全体会 「ALTの心得と任用団体が期待すること」	コンコード(5F)	10:00 - 11:00	ALT全体会 「ALTの心得と任用団体が期待すること」	
10:55-11:10	休憩		11:00 - 11:10	休憩	
11:10-12:00	MEXT「学習指導要領の説明」	コンコード(5F)	11:10 - 12:00	MEXT「学習指導要領の説明」	
12:00 - 13:15	昼食				
13:15 - 14:15	ALTIに役立つ情報(小中学校)	コンコード1(5F) 約800人	13:15 - 14:40	ALTIに役立つ情報(小中学校)	
	ALTIに役立つ情報(高校)	コンコード2(5F) 約400人		ALTIに役立つ情報(高校)	
14:15 - 14:30	休憩				
14:30 - 15:30	MEXT「チーム・ティーチングデモンストレーション」		14:30 - 15:30	MEXT「チーム・ティーチングデモンストレーション」	
	高校(クラス1)	錦(4F) 200人		中学・高校	
	高校(クラス2)	扇(4F) 200人			
	中学校(クラス3)	花A(4F) 150人		小学校	
	中学校(クラス4)	花B(4F) 150人			
	中学校(クラス5)	花C(4F) 150人			
小学校(クラス6)	花D(4F) 150人				
15:30 - 15:45	休憩				
15:45 - 17:15	CLAIR 「日本で働く上でのマナー」	エミネンス(5F) 約400人	15:45 - 17:15	CLAIR 「日本で働く上でのマナー」	スターライト(43F)
		錦(4F) 約300人			
		扇(4F) 約300人			
17:15 - 18:30	休憩				
18:30 - 20:00	歓迎夕食会				コンコード(5F)

## I 研修概要

研 修 名	英語教育海外派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課							
研 修 目 的	各地域において英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じ、指導力の向上及び確かな知識の習得を図り、その成果を各学校や地域における研修の講師や企画・立案等に活かし、グローバル化に対応する指導者を養成する。							
受 講 対 象	以下の者であって、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる者 ①中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者(年齢は平成28年度末現在) ④過去に文部科学省又は教育研修センターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者							
開 催 期 日	別紙のとおり			別紙のとおり				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	30	人	受講者数	31	人	参加率	103.3%
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 30人、受講者数 31人、参加率 103.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	29	2	0	0	0	0	31
割合 (%)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	31	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・研修のほとんどが、現地の学校でアメリカ人の子供たちに教えている先生方の講義でした。母語話者が母語話者に対して国語として英語を教える教授法と、私たち日本人が、日本人の児童生徒に外国語として英語を教える教授法は違ってくる。第二言語教育や外国語教育の専門家の講義が増えると良いと思いました。  
・大学の先生の授業を生徒の立場で受けてみて、次に教師の立場に戻って、この授業方法だとどんな利点があるか、また取り入れは可能かということ全員で議論した。議論していくうちに、どのように自分の指導法を変えていけばよいか、ということ自然而然に考えられるようになりました。  
・教職経験を積む中で、自分の指導方法に悩みや不安を感じていたところ、2ヶ月間、じっくりと英語教育について学び、考え、語り合うことができました。研修を終えた今、学んだことをどう実践するか、教室でどう活かすか、授業改善のきっかけを与えて頂いた点が大変有意義でした。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

・事前研修会の「研修主題協議・情報共有」、「大学研修及び生活面について」の設定された時間内では、十分な協議及び助言講師等の助言や質疑、大学研修の情報を得ることが出来ないとの意見から、協議等の時間を全体で25分間延ばし変更した。  
・学校訪問は、第二外国語を学んでいる様子を見るのが日本で英語を学ぶ生徒たちの状況と似ているので参考になるとの意見から、学校訪問の内容を第二言語として英語を学んでいる授業参観に重点を置いた。  
・学校訪問は、トップ校を訪問し、生徒、教諭の意識の高さやレベルの高い授業、日本との教授法の違いに刺激を受けたが、異なるタイプの普通レベルの学校も訪問して、相違など幅広く視察が出来ると良いとの意見から、異なる学校を選考した。  
・事後研修会の「大学別研修内容報告」及び「授業における活用事例」の発表は、内容がたくさんあり有益な内容も含んでいる。発表で使用したスライドをプリントアウトして資料として持ち帰れると更に有益であるとの意見から、授業で活かすことができるように資料として配付した。

### 次年度に向けて

・事前研修会の「研修主題協議・情報共有」(大学別)に入る前に、簡単な自己紹介をする時間があると、発表についての議論や質疑応答がより活発になるとの意見から、参加者が事前に自己紹介用のシートを作成し、各大学内で配付して協議がスムーズに行われるように改善する。  
・イギリス・アメリカそれぞれの大学の研修内容を基にして、「研修テーマ」を決定したいとの意見から、前年度の研修成果報告書をこれまで事前研修会で配付したが、次年度は、参加者決定通知時に送付するよう変更する。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数	事後研修会
イギリス	エクセター大学	10	5/9(月)～10(火) 教員研修センター (茨城県つくば市)	6/18(土)～8/15(月)	59	11/10(木)～11(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)
	バーミンガム大学	8		7/15(金)～9/11(日)	59	
アメリカ	デンバー大学	13		7/10(日)～9/6(火)	59	
計		31				

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (A-1: 教員の資質向上)					
担当グループ	基幹研修課					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開催期日	平成28年11月27日(日)～平成28年12月8日(木)				12日間	
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人
				参加率	※	
開催場所	別紙のとおり					

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	1	0	0	0	0	16
割合 (%)	93.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の教育状況・施策を知ることがとても大切なことだと実感しました。日本に先進的な教育施策を取り入れていくには、実際に現地訪問し、学ぶことが第一だとも痛感しました。</li> <li>海外の教育事情を学ぶことができ、大変有意義な研修だった。同様1件</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (A-2: 教員の資質向上)					
担当グループ	基幹研修課					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開催期日	平成28年11月7日(月)～平成28年11月18日(金)				12日間	
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	13	人
				参加率	※	
開催場所	別紙のとおり					

※ 全体標準定員 300人、受講者数 250人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	12	1	0	0	0	0	13
割合 (%)	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・特に印象に残っているのは「ダイバーシティ」という考え方である。視察先でもよく耳にする言葉であり、町に出るとそれを肌で感じる事ができました。多文化・多民族の都市トロントならではの貴重な体験をしました。  
 ・調査に関して質問等をする時間が足りないことが多くありました。相手先の都合もありますが、訪問先一か所あたりの時間をもう少し長く取ると調査がより深まります。

## III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ  
 ・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。  
 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (B-1 : アクティブ・ラーニングの推進)					
担当グループ	基幹研修課					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開催期日	平成28年10月24日(月)～平成28年11月4日(金)				12日間	
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	21	人
				参加率	※	
開催場所	別紙のとおり					

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	21	0	0	0	0	0	21
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の学校現場や教育機関で直に話が聞けたのが大変参考になりました。また、全国の教員の方々との情報交換も大変有意義でした。同様2件</li> <li>・テーマに沿った訪問ができ、とても参考になる部分が多かったです。この研修内容であれば、また行きたいと思うと同時に、他の教員にも自信をもってすすめることができます。</li> <li>・中核的教員だけではなく、将来性という長い目で見ると、若い教員も参加する意義があり、すごく大きな財産となります。</li> <li>・課題やテーマについては、背景や文化、システムが大きく違う国での学びであるため、視察した内容を日本でならどう活かせるのか、という議論の時間があるといいです。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (B-2 : アクティブ・ラーニングの推進)							
担当グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年10月24日(月)～平成28年11月4日(金)				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 (全体計画人数) 300 人、 受講者数 250 人、 参加率 83.3%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	18	2	0	0	0	0	20
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外派遣は、学校にいる時とは違う視点で物事を見ることができ、本当に有意義なもので、今後に活かされます。同様7件</li> <li>・多く授業を参観でき、また学校だけでなく教育機関や文化施設も視察できたことにより、教育の背景まで考えることができ、よかったです。</li> <li>・海外の授業を初めて見ることができ、とても刺激になり、じっくり1つのクラスの授業を見る機会もあり参考になりました。ただ残念だったのが、自分の英語力で先生と生徒のやりとりが大まかにしかわからなかったことです。。やり取りの中身が全てわかるような授業の見方ができると、更に良かったです。同様1件</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1：PISA型学力の育成）							
担当グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年10月17日（月）～平成28年10月28日（金）				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	13	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	13	0	0	0	0	0	13
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・訪問校が、午前1校午後1校だったので良かったのですが、団員は様々な校種があるので、学校訪問の校種もできるだけ均等になるように設定して欲しいです。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (C-2 : PISA型学力の育成)					
担当グループ	基幹研修課					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開催期日	平成28年10月3日(月)～平成28年10月14日(金)				12日間	
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人
				参加率	※	
開催場所	別紙のとおり					

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	1	0	0	0	0	15
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場では学ぶことのできない、主体的・協働的な学びの場で多くの事を学ぶことができました。今後の教育実践の中で生かせるように、日々、努力して参ります。</li> <li>・カナダのオンタリオ州の中で、どのように子どもたちの実態をとらえ、具体的にどのような戦略に基づいて教育が進められているのか等について、州としてそれぞれの学校としての取り組みを深く学ぶことができました。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (D-1: 生徒指導の充実)					
担当グループ	基幹研修課					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開催期日	平成28年10月3日(月)～平成28年10月14日(金)				12日間	
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	21	人
				参加率	※	
開催場所	別紙のとおり					

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	21	0	0	0	0	0	21
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・海外派遣研修を通して外国の学校現場を多数見られ大変貴重な体験ができ、今後の教育にしっかり生かしていきたいです。同様1件</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (D-2 : 生徒指導の充実)							
担当グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年10月3日(月)～平成28年10月14日(金)				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	1	0	0	0	0	16
割合 (%)	93.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・フランスの歴史・教育制度また文化に触れ、自分の視野を広げる素晴らしい体験をさせて頂きました。今回の研修成果を、お互いの教育活動にいかし、多くの仲間と共に活かしたいです。同様1件  
 ・フランスの教育、外国の教育を知り、文化の違いを感じ取り、その中で今後考えていくべきことを思い巡らす、素晴らしい体験ができました。次年度以降もぜひ、海外派遣研修を実施し、より多くの先生方に次の教育に生きる素敵な時間を過ごしていただきたいです。  
 ・生徒指導についてのテーマでフランスを訪問したが、選定した学校が優秀な学校が多く、課題が見えにくい点もあったので、一般的な学校も視察したかったです。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。  
 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (E-1: キャリア教育の充実)							
担当課グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年10月17日(月)～平成28年10月28日(金)				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300人、受講者数 250人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	12	2	0	0	0	0	14
割合 (%)	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な経験をすることができ、多くの感動を得ることができました。アメリカと日本の教育の違いを知ることもでき、これからの仕事に生かしていきたいです。同様2件</li> <li>・キャリア教育に関して、なぜアメリカを調査・研究するかの意図が明確でなかったので、意図を明確にした方がより調査・研究の内容が深まります。</li> <li>・訪問校によっては授業参観が多く、協議・聞き取りの時間が少ないところがありましたので、質疑などの時間を増やして欲しいです。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (F-1：スポーツ教育の推進)					
担当グループ	基幹研修課					
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者					
開催期日	平成28年11月21日(月)～平成28年12月2日(金)				12日間	
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人
				参加率	※	
開催場所	別紙のとおり					

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	2	0	0	0	0	16
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・海外派遣研修は全体的に大変良い研修で、教育に関する視野が広がりました。同様6件  
 ・派遣テーマに幅があり、予習で、事前研修会までに何をしたら良いのかよく理解できず偏ったものとなり、研修のねらいの中にどうしてその国へ研修に行くのかということが分かれば、理解や予備知識の準備が出来ます。

## III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ  
 ・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。  
 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (G-1: 学校教育の情報化・ICTの活用)							
担当課 グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年11月7日(月)～平成28年11月18日(金)				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300人、受講者数 250人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	17	0	0	0	0	0	17
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・訪問先によっては、派遣団として調査したいことと少し隔たりや、事前に質問事項が伝わっていないのかと感ずることがありましたが、今、イギリスでは「ICT」から「コンピュータサイエンス」「Computing」へと変わってきているということもあり、仕方のないことなのかなとも思いました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (H-1: 特別支援教育の充実)							
担当グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年11月14日(月)～平成28年11月25日(金)				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	19	0	0	0	0	0	19
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	19	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・派遣団で決めた質問、調査したい事項について、訪問国の言語に訳して最初に渡せたら、もっとの的を射た答えが返ってくるように思い、通訳との打ち合わせが大事と感じました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (I-1: 学校と地域等の連携)							
担当グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年10月31日(月)～平成28年11月11日(金)				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	11	2	1	0	0	0	14
割合 (%)	78.6	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	
	13	92.9					

2. 研修内容に関する主な意見

・研修テーマがあまりにも広すぎると、課題も多岐に渡ることになるので、幅広く課題を設定しないほうがよいと思いました。  
 ・全て視察は半日の訪問だったが、例えば1校は全日の訪問として、授業を1時間すべて参観したり、先生方とじっくり意見交換するなどの機会があれば、さらによかったです。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。  
 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-2：学校と地域等の連携）							
担当グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年10月31日（月）～平成28年11月11日（金）				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	11	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	9	2	0	0	0	0	11
割合 (%)	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

・訪問先はとても優秀な学校等ばかりでしたが、いわゆる「普通」のレベルの学校も視察先としてあると良かったです。同様2件  
 ・訪問先に予め調査及び質問事項等を知らせて、学校紹介のプレゼンテーション等の中で答えていただくと、調査・研究がより深まります。

## III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。  
 ・言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (J-1: チーム学校の推進)							
担当グループ	基幹研修課							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開催期日	平成28年11月14日(月)～平成28年11月25日(金)				12日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体標準定員 300 人、受講者数 250 人、参加率 83.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	20	1	0	0	0	0	21
割合 (%)	95.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣研修は、訪問先の教育事情を知るのみならず、派遣テーマを越えて、様々に自他の教育の在り方を考える極めて有意な研修であると実感しました。同様1件</li> <li>海外の教育事情を知ることで、日本の教育を考えるよき視点を得られました。同様1件</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長、副校長、教頭も含む教育行政機関の職員を中心とした、教育制度や教育改革の動向、研修制度の調査を行うための派遣テーマ「教員の資質向上」を設けた。</li> <li>言語力・コミュニケーション力の育成の内容も含む「アクティブラーニングの推進」を新たなテーマとした。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## I 研修概要

研修名	体力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	<p>子供の体力が低い水準で推移していることや運動する子供とそうでない子供の二極化傾向、また、子供の生活習慣の乱れなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにしたり、健康三原則に基づいた生活習慣を形成したりするなど、子供の運動意欲を高めるとともに心と体の一体化を図る取組が求められている。</p> <p>本研修では、運動やスポーツに親しむ資質・能力及び運動が健康に果たす役割、健康な生活を実践するための資質・能力の育成を図るなど、調和のとれた子供の体力の向上を図るための知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者を養成する。</p>							
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</p> <p>幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であつて、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う者</p>							
開催期日	平成28年5月17日（火）～平成28年5月20日（金）				4日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	227	人	参加率	113.5%
開催場所	水戸市総合教育研究所（茨城県水戸市） 他							

※ 全体標準定員 400 人、受講者数 451 人、参加率 112.8%（西部ブロックを含む）  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	207	20	0	0	0	0	227
割合 (%)	91.2	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	227	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・理論と演習を通して、研修を深めることができた。参加者が主体となって演習内容、模擬授業など検討したことで、実践的な意義のある学びとなった。</li> <li>・全国の先生方と共通の話題で意見交換でき、とても意義があった。また、日頃の指導計画等でのより効果的な進め方について理解を深めることができた。</li> <li>・子供目線に立って実際に体を動かすことができた。系統性、指導と評価の一体化について具体的な内容を学べた。</li> <li>・異校種の先生方の熱意や工夫を学ぶことができた。講師の先生方も一生懸命な指導であり、とても集中して学ぶことができた。</li> <li>・内容は非常に有意義だったが、グループで話し合える時間があるともっと理解ができると思った。</li> <li>・講師の先生方に恵まれ、とても有意義な研修だった。（中止となった西部ブロックから）東部ブロックに参加できてよかった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の喫緊課題への対応として、「体育活動中の事故防止について」の講義を新設した。また、「運動事故防止に関するコース」を新設した。</li> <li>・子供の生活習慣の乱れが体力低下の一要因であることをうけ、「保健と体育から子供の健康増進・体力の向上を考察するコース」を新設した。また、「運動嫌いの子供に対する運動習慣の形成を図るコース」も新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全体をとおした子供の体力向上を図るための指導者養成を目的とした研修とする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成28年度体力向上指導者養成研修 日程表

	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00		17:00
1 日 目 5/17 (火)	受 付	開 講 式 ・ オ リ エン テー ション	<b>【講義1】(全体会)</b> <子供の体力の向上を図るための指導者の役割> ・指導者の役割, 学習指導要領改訂のポイントや体力の向上の在り方を理解する。	昼 食	<b>【講義・演習1】(全体会・コース)</b> <学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方> ・学校の教育活動を通じて行う体力向上, 体育に関する指導の全体計画の立案及び実践についての理解を深める。		
2 日 目 5/18 (水)	9:00	12:00			13:00		17:00
	<b>【講義・演習2】(コース)</b>						
	<各コースの重点テーマについての講義・演習> ・学習指導要領の主旨を踏まえ, 子供の体力向上に関する学習指導の在り方についての理解を深める。						
3 日 目 5/19 (木)	9:00	12:00			13:00	15:00	17:00
	<b>【講義・演習2】(コース)</b>			昼 食	<b>【講義・演習3】(コース)</b>		<b>【講義・演習4】(コース)</b>
	<各コースの重点テーマについての講義・演習> ・学習指導要領の主旨を踏まえ, 子供の体力の向上に関する学習指導の在り方についての理解を深める。				<指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方> ・指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方についての理解を深める。		<各コースの重点テーマにおける解決策等の整理・まとめ> ・各コースの重点テーマにおける解決策等を整理し, 研修講師や研修企画者としての力量を高める。
4 日 目 5/20 (金)	9:00	12:00			13:00	14:30	15:00
	<b>【講義・演習5】(全体会・コース)</b>			昼 食	<b>【講義2】(全体会)</b>	<b>【講義3】(全体会)</b>	閉 講 式
	<適切かつ効果的な運動部活動の推進と地域連携について> ・運動部活動での指導のガイドラインに基づき, 体罰の根絶・科学的な指導内容や方法について基本的な考え方や留意点を学び, 適切かつ効果的な運動部活動の推進等についての理解を深め, 地域連携の在り方についても考察する。				<体育活動中の事故防止について> ・体育活動中に起こりがちな事故について, 安全かつ適切な指導の在り方について理解を深める。	<子供の体力の向上を図るための指導者として> ～研修講師・企画者としての心構えと留意点～ ・研修内容を振り返るとともに, 研修講師等として活動するために留意すべきポイントを整理する。	

## I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（第1回）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実等について、必要な知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各学校や地域において本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開催期日	平成28年7月12日（火）～平成28年7月15日（金）				4日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	140	人	受講者数	142	人	参加率	101.4%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 280 人、受講者数 297 人、参加率 106.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	123	19	0	0	0	0	142
割合 (%)	86.6	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	142						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの講義・演習もとても充実した内容であり、今後、地域で健康教育の充実のために、研修会の企画などを行ってきたい。</li> <li>・アクティブ・ラーニングを踏まえた頭を使った研修が非常に有意義だった。</li> <li>・日を追うごとに、研修の意義が明確となり、講義・演習を進めていくことで、様々な方向性が見えてきた。</li> <li>・全国の教員と演習をすることにより、各学校、自治体の相違点を知る事ができた。また、普段はなかなか話すことができない指導主事と、同じ課題に向かって話し合いができたことは貴重な体験だった。</li> <li>・管理職、指導主事、養護教諭、保健主事が同じ研修を受けることができたところに大きな意義があると感じた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・③部会「児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応」については定着してきたことから、さらに領域を広げ、「保健管理の在り方」として講義・演習を設定した。</li> <li>・③部会の「個別の保健指導」と「健康相談の進め方」が連携する内容であるため、一つにまとめ、「個別の保健指導と健康相談の進め方」として実施した。</li> <li>・危機管理への対応として、第1回に講義・演習4「学校における救急処置に関する研修の在り方」を新設、また、医薬品についての学校現場での取り扱いや指導について学ぶため、第2回に講義・演習3「学校における医薬品教育の在り方」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習4について、救急処置と児童虐待の2テーマを設定し、受講者が希望するテーマを受講できるようにする。</li> <li>・①部会について、「心の健康」、「医薬品・喫煙・飲酒・薬物乱用」、「現代的な疾病の予防」の3課題を設定し、受講者が希望する課題で演習に取り組めるようにする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度健康教育指導者養成研修 日程表 (第1回)

平成28年7月12日(火)～15日(金) 独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)

	9:00	9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
7/12 (火) 第1日目		受付	オリエンテーション	講義1(55分) 健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する スポーツ庁 教科調査官 森 良一	休憩	講義2(55分) 保健管理の在り方 ◎目的: 保健管理の現状と課題、学校保健安全法施行規則の一部改正に伴う児童生徒等の健康診断について理解する 文部科学省 健康教育調査官 岩崎 信子	屋食・休憩	講義3(55分) 保健教育の在り方 ◎目的: 現代的な健康課題を解決するために、特別活動、総合的な学習の時間等を活用した保健教育の進め方について理解を深める 茨城大学 准教授 上地 勝	休憩	講義4(55分) 学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 筑波大学 教授 柳沢 和雄 潮来市立津知小学校 教頭 豊田 敬慈	休憩	講義・演習1(105分) 学校における子供の心のケア ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ あさかホスピタル 児童精神科医 本間 博彰

	8:15	8:30	12:00	13:00	17:00	
7/13 (水) 第2日目		受付	講義・演習2-1(210分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 茨城大学 准教授 上地 勝 京都市教育委員会 副主任指導主事 上田 元司 喫煙・飲酒・薬物乱用 文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 佐賀県唐津市立加唐小中学校長 福井 宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢 和雄 茨城県潮来市立津知小学校 教頭 豊田 敬慈 ③保健管理の在り方(健康観察の実際) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 名古屋市教育委員会 主任指導主事 山口 純枝	屋食・休憩	講義・演習2-2(240分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 茨城大学 准教授 上地 勝 京都市教育委員会 副主任指導主事 上田 元司 喫煙・飲酒・薬物乱用 文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 佐賀県唐津市立加唐小中学校長 福井 宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢 和雄 茨城県潮来市立津知小学校 教頭 豊田 敬慈 ③保健管理の在り方(個別の保健指導と健康相談の進め方) ◎目的: 学校における個別の保健指導と健康相談の進め方について学ぶ 順天堂大学 教授 采女 智津江	各ユニットで内容の共有

	8:15	8:30	11:30	12:30	14:40	14:55	17:00		
7/14 (木) 第3日目		受付	講義・演習2-3(180分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 茨城大学 准教授 上地 勝 京都市教育委員会 副主任指導主事 上田 元司 喫煙・飲酒・薬物乱用 文部科学省 健康教育調査官 小出 彰宏 佐賀県唐津市立加唐小中学校長 福井 宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢 和雄 茨城県潮来市立津知小学校 教頭 豊田 敬慈 ③保健管理の在り方(事例検討会の進め方) ◎目的: 学校における事例検討会の進め方や指導助言のあり方を学ぶ 【小学校】滋賀県長浜市立北郷里小学校 教頭 伊部 加代 【中学校】岩手県立釜石高等学校長 佐藤 一也 【高等学校】FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	屋食・休憩	発表	講義・演習2-4(130分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 心の健康 茨城大学 上地 勝 京都市教委 上田 元司 喫煙・飲酒・薬物乱用 文部科学省 小出 彰宏 加唐小中学校 福井 宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制について理解を深める 筑波大学 教授 柳沢 和雄 津知小学校 教頭 豊田 敬慈 ③保健管理の在り方(疾病管理) ◎目的: 学校における疾病管理と地域の関係機関との連携について学ぶ 公益財団法人日本学校保健会 専務理事 弓倉 整	各ユニットで内容の共有	移動・休憩	講義・演習3(125分) 学校における感染症対策の在り方 ◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深める 社会福祉法人恩師財団済生会支部 大阪府済生会中津病院 臨床教育部長兼感染管理室長 安井 良則

	8:15	8:30	11:45	12:45	15:00	15:15	
7/15 (金) 第4日目		受付	講義・演習4(195分) 学校における救急処置に関する研修の在り方 ◎目的: 学校における救急処置に関する校内研修の企画や、シミュレーションによる研修の進め方について学ぶ 兵庫県姫路市立高浜小学校 養護教諭 三村 理加	屋食・休憩	講義・演習5(135分) 健康教育の指導者として ◎目的: 健康教育に関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める 文部科学省 健康教育調査官 岩崎 信子	各ユニットで研修プランの共有	閉講式



## I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（第2回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実等について、必要な知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各学校や地域において本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成28年12月19日（月）～平成28年12月22日（木）				4日間		
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	140	人	受講者数	155	参加率	110.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体標準定員 280 人、受講者数 297 人、参加率 106.1%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	126	28	1	0	0	0	155
割合 (%)	81.3	18.1	0.6	0.0	0.0	0.0	
	154	99.4					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の内容がとても充実しており、よかった。また、研修や情報交換会をとおして全国の教員と交流でき、自分の財産になった。</li> <li>・全国の教員と演習をとおしての意見交換は、視野が広がった。また、校種・職種の違う教員と一緒に研修を受ける機会が少ないため、とても勉強になり有意義な4日間を過ごすことができた。</li> <li>・目的を明確にした研修運営の方法が大変勉強になった。相手に伝えたいことは何か、指導者として明確に持ち、研修の目的を達成するための工夫を行っていききたい。</li> <li>・健康教育を推進していく立場として、最新の情報や取組について学ぶことができ、大変有意義だった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課題は毎年新たな課題が生まれ、年々増えていくと思うので、今後も健康課題に即した教育内容の研修をお願いしたい。健康課題に学校現場がついていくためには、この研修はなくてはならない存在だと感じた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・③部会「児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応」については定着してきたことから、さらに領域を広げ、「保健管理の在り方」として講義・演習を設定した。</li> <li>・③部会の「個別の保健指導」と「健康相談の進め方」が連携する内容であるため、一つにまとめ、「個別の保健指導と健康相談の進め方」として実施した。</li> <li>・危機管理への対応として、第1回に講義・演習4「学校における救急処置に関する研修の在り方」を新設、また、医薬品についての学校現場での取り扱いや指導について学ぶため、第2回に講義・演習3「学校における医薬品教育の在り方」を新設した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習4について、救急処置と児童虐待の2テーマを設定し、受講者が希望するテーマを受講できるようにする。</li> <li>・①部会について、「心の健康」、「医薬品・喫煙・飲酒・薬物乱用」、「現代的な疾病の予防」の3課題を設定し、受講者が希望する課題で演習に取り組めるようにする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度健康教育指導者養成研修 日程表 (第2回)

平成28年12月19日(月)～22日(木) 独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)

12 / 19 (月) 第1日目	9:00	9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
		受付	オリエンテーション 開講式	講義1(55分) 健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する 文部科学省 健康教育調査官 森 良一	休憩	講義2(55分) 保健管理の在り方 ◎目的: 保健管理の現状と課題、学校保健安全法施行規則の一部改正に伴う児童生徒等の健康診断について理解する 文部科学省 健康教育調査官 岩崎 信子	昼食・休憩	講義3(55分) 保健教育の在り方 ◎目的: 現代的な健康課題を解決するために、特別活動、総合的な学習の時間等を活用した保健教育の進め方について理解を深める 東海大学 教授 岡崎 勝博	休憩	講義4(55分) 学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島市教育委員会 竹下 公博	休憩	講義・演習1(105分) 学校における子供の心のケア ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ あさかホスピタル 児童精神科医 本間 博彰

12 / 20 (火) 第2日目	8:15	8:30	12:00	13:00	17:00
	受付	部会別演習	部会別演習	部会別演習	各ユニットで内容の共有
		講義・演習2-1(210分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 東海大学 教授 岡崎 勝博 (がんを含む) 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 感染症(エイズを含む) 宇都宮大学 名誉教授 和唐 正勝 栃木県教育委員会事務局河内教育事務所 副主幹 吉川 真弓 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島市教育委員会 主幹兼保健給食係長 竹下 公博 ③保健管理の在り方(健康観察の実際) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 名古屋市教育委員会 主任指導主事 山口 純枝	昼食・休憩	講義・演習2-2(240分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 東海大学 教授 岡崎 勝博 (がんを含む) 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 感染症(エイズを含む) 宇都宮大学 名誉教授 和唐 正勝 栃木県教育委員会事務局河内教育事務所 副主幹 吉川 真弓 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島市教育委員会 主幹兼保健給食係長 竹下 公博 ③保健管理の在り方(個別の保健指導と健康相談の進め方) ◎目的: 学校における個別の保健指導と健康相談の進め方について学ぶ 順天堂大学 教授 采女 智津江	各ユニットで内容の共有

12 / 21 (水) 第3日目	8:15	8:30	11:30	12:30	14:40	14:55	17:00
	受付	部会別演習	部会別演習	発表	移動・休憩		
		講義・演習2-3(180分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 東海大学 教授 岡崎 勝博 (がんを含む) 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 感染症(エイズを含む) 宇都宮大学 名誉教授 和唐 正勝 栃木県教育委員会事務局河内教育事務所 副主幹 吉川 真弓 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島市教育委員会 主幹兼保健給食係長 竹下 公博 ③保健管理の在り方(事例検討会の進め方) ◎目的: 学校における事例検討会の進め方や指導助言の在り方を学ぶ 【小学校】滋賀県長浜市立北郷里小学校 教頭 伊部 加代 【中学校】岩手県立釜石高等学校長 佐藤 一也 【高等学校】FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	昼食・休憩	講義・演習2-4(130分) ①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 生活習慣病 岡崎 勝博 (がんを含む) 丸山 洋生 感染症(エイズを含む) 和唐 正勝 吉川 真弓 ②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島市教育委員会 竹下 公博 ③保健管理の在り方(疾病管理) ◎目的: 学校における疾病管理と地域の関係機関との連携について学ぶ 公益財団法人日本学校保健会 専務理事 弓倉 整	各ユニットで内容の共有	講義・演習3(125分) 学校における医薬品の教育の在り方 ◎目的: 医薬品の教育の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を学ぶ 【小学校】愛知県安城市立篠目中学校 主任養護教諭 山下 和美 【中学校】京都市立旭丘中学校 教諭 上田 裕司 【高等学校】鹿児島県立大島高等学校 教諭 富岡 剛	移動・休憩

12 / 22 (木) 第4日目	8:15	8:30	11:45	12:45	15:00	15:15
	受付			昼食・休憩		閉講式
		講義・演習4(195分) 児童虐待への対応 ◎目的: 児童虐待への気づきのポイント、その後の対応、支援について事例を通して学ぶ 静岡県健康福祉部東部児童相談所 相談判定課判定班長 市原 真記		講義・演習5(135分) 健康教育の指導者として ◎目的: 健康教育に関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、研修講師としての必要な知識や技術等についての理解を深める 文部科学省 健康教育調査官 岩崎 信子		



## I 研修概要

研修名	食育指導者養成研修（第1回）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 ②小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ③食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ④その他、上記①～③に準ずる者							
開催期日	平成28年9月6日（火）～平成28年9月9日（金）				4日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	98	人	参加率	122.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 160 人、受講者数 174 人、参加率 108.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	87	11	0	0	0	0	98
割合 (%)	88.8	11.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の評価について理解が深まった。PDCAサイクルを意識して、次につなげる食育が推進されるよう、今回の学びを研修等で生かしたい。</li> <li>・講義だけでなく、演習で班のメンバーと交流でき、とてもよかった。情報交換もたくさんできた。</li> <li>・国の最新事情についての講義を聞き、とても勉強になった。指導案は授業をする上で必要であり、指導案の書き方について手順・内容等を学ぶことができ、よかった。学校の食に関する全体計画の作成も熟読し、見直し、実践する機会にしたい。</li> <li>・研修全体をとおして、自らが課題に対して考える場面設定がされていて、主体的に学ぶことのできるカリキュラムが組まれており、ありがたかった。</li> <li>・講義を聞きながら、所属校で「まだできていない事」「どのように進めていけばよいか」など、具体的なイメージを浮かべることができた。今回の研修で得たものを、学校に戻って様々な場面で実践していきたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回と第2回の内容の違いを明確にするため、各コース名（「主に校内における食に関する指導の充実に図るコース」、「主に地域等における食に関する指導の充実に図るコース」）について具体的に実施要項に明記し、受講対象者が明確になるようにした。</li> <li>・「全体計画」については、受講者全員で考察すべき内容のため、部会から全体会へと変更した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の学びをより深めるため、部会の分け方、発表方法を変更する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度食育指導者養成研修(第1回) 日程

9:00	9:30	10:00	11:10	11:20	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	受付	オリエンテーション	講義1 学校における食育の推進 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 学校における食育の果たす 役割や食育を推進するため の基本的な考え方を理解す る	講義2 学校給食を活用した食育 の推進 文部科学省初等中等教育局 学校給食調査官 齊藤るみ 学校給食を活用した食育 を推進するための基本的 な考え方を理解する	講義3 食に関する指導の全体計画の 作成について 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 学校全体で取り組む食に関する 指導にかかると、作成の意義、 盛り込むべき内容、作成手順等 について理解を深める	講義4 学校給食を推進するための 特色ある教育課程の編成に向け て 専門教育大学 教授 村川 雅弘 休 憩	講義5 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導のポイント 家庭、技術・家庭 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 筒井 恭子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を 深める	演習1 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 休 憩	演習2 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 休 憩

8:30	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	13:45	14:00	15:00	15:15	17:00
	受付	講義4 学校全体で計画的・組織的に食 に関する指導を行うにあたり、前 提となる基本的な考え方を理解 する	講義5 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導のポイント 家庭、技術・家庭 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 筒井 恭子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を 深める	講義6 食育を推進するための 指導者として 文部科学省 初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 研修内容をふりかえ り、講師として必要な 内容を整理する	講義7 食に関する指導の全体計画の 作成について 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 学校全体で取り組む食に関する 指導にかかると、作成の意義、 盛り込むべき内容、作成手順等 について理解を深める	講義8 食に関する指導の全体計画の 作成について 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 学校全体で取り組む食に関する 指導にかかると、作成の意義、 盛り込むべき内容、作成手順等 について理解を深める	講義9 食に関する指導の全体計画の 作成について 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 学校全体で取り組む食に関する 指導にかかると、作成の意義、 盛り込むべき内容、作成手順等 について理解を深める	演習3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 休 憩	演習4 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 休 憩	演習5 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 休 憩

8:30	9:00	12:00	13:00	14:30	17:00
	受付	演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 ①家庭、技術・家庭 猪野 典子 ②体育、保健体育 上園 竜之介 ③特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 休 憩	演習3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 ①家庭、技術・家庭 猪野 典子 ②体育、保健体育 上園 竜之介 ③特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 休 憩	演習4 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 ①家庭、技術・家庭 猪野 典子 ②体育、保健体育 上園 竜之介 ③特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 休 憩	演習5 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 ①家庭、技術・家庭 猪野 典子 ②体育、保健体育 上園 竜之介 ③特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 休 憩

8:30	9:00	12:20	13:20	14:30
	受付	演習6 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 ①家庭、技術・家庭 猪野 典子 ②体育、保健体育 上園 竜之介 ③特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 休 憩	演習7 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 ①家庭、技術・家庭 猪野 典子 ②体育、保健体育 上園 竜之介 ③特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 休 憩	演習8 学校全体で取り組む食に関する指導にかかると、各教科等における食に関する指導の全体計画の改善案の検討 ①家庭、技術・家庭 猪野 典子 ②体育、保健体育 上園 竜之介 ③特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 休 憩

## I 研修概要

研 修 名	食育指導者養成研修（第2回）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 ②小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ③食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 ④その他、上記①～③に準ずる者							
開 催 期 日	平成28年10月11日（火）～平成28年10月14日（金）			4日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	80	人	受講者数	76	人	参加率	95.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 160 人、受講者数 174 人、参加率 108.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	72	4	0	0	0	0	76
割合 (%)	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	76	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の研修をとおして、食育は学校教育全体を通じて行うというイメージを明確に持つことができるようになった。</li> <li>・今、私たちに求められているもの、教育の流れなど多くのことを学ぶことができた。教科における指導のポイントやキーワード、観点などこれからの職務に生かしていきたい。</li> <li>・講義、演習、全ての内容において、今後勤務地で活用できるものばかりであった。勤務地に戻ってからの普及についてのイメージを広げながら時間を過ごすことができた。情報交換により得られた事例等たくさんの持ち帰りができることを喜んでいる。</li> <li>・指導案の書き方、授業の流れの作り方など、すぐに役立つことばかりだった。</li> <li>・タイムリーな講義が聞けてよかった。各教科指導者が食育指導者養成研修を積極的に受講してもらいたいと感じた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回と第2回の内容の違いを明確にするため、各コース名（「主に校内における食に関する指導の充実に図るコース」、「主に地域等における食に関する指導の充実に図るコース」）について具体的に実施要項に明記し、受講対象者が明確になるようにした。</li> <li>・「全体計画」については、受講者全員で考察すべき内容のため、部会から全体会へと変更した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の学びをより深めるため、部会の分け方、発表方法を変更する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成28年度食育指導者養成研修(第2回) 日程

10月11日(火)	9:00	9:30	10:00	11:10	11:20	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
		受付	オリエンテーション	講義1 学校における食育の推進 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 学校における食育の果たす役割や食育を推進するための基本的な考え方を理解する	講義2 学校給食を活用した食育の推進 文部科学省初等中等教育局 学校給食調査官 齊藤のみ 学校給食を活用した食育を推進するための基本的な考え方を理解する	休食	講義3 食に関する指導の全体計画の作成について 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等について理解を深める	休食	演習1 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の改善案の検討 文部科学省初等中等教育局 食育調査官 横嶋剛 班別演習を通して、学校全体で取り組む食に関する指導の在り方について理解を深めるとともに、各地域の取組を知る	

10月12日(水)	8:30	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	13:45	14:00	15:00	15:15	17:00
		受付	講義4 食育を効果的に推進するための特色ある教育課程の編成に向け 専門教育大学 教授 村川 雅弘 学校全体で計画的・組織的に食に関する指導を行うにあたり、前提となる基本的な考え方を理解する	講義5 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる各教科等における食に関する指導のポイント 特別活動(学級活動) 共栄大学 客員教授 今村 信哉 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	休食	休食	特別活動(学校行事等) 福岡教育大学 教授 脇田 哲郎 総合的な学習の時間 愛知教育大学 教育学部 准教授 加納 誠司	休食	演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる各教科等における食に関する指導の改善案の検討 ①特別活動(学級活動) 小泉 雅彦 ②特別活動(学校行事等) 脇田 哲郎 ③総合的な学習の時間 加藤 智		

10月13日(木)	8:30	9:00	12:00	13:00	13:00	17:00
		受付	演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる各教科等における食に関する指導の改善案の検討 ①特別活動(学級活動) 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 ②特別活動(学校行事等) 福岡教育大学教職実践講座 教授 脇田 哲郎 ③総合的な学習の時間 愛知淑徳大学文学部 准教授 加藤 智 班別演習を通して、各教科等における食に関する指導の在り方及び指導計画について理解を深める	休食	休食	各ユニットで内容の共有

10月14日(金)	8:30	9:00	12:20	13:20	14:30
		受付	演習3 「特別活動(学級活動)」、「特別活動(学校行事等)」及び「総合的な学習の時間」の指導計画の発表 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 福岡教育大学教職実践講座 教授 脇田 哲郎 愛知淑徳大学文学部 准教授 加藤 智 (~10:00) 各教科等における食に関する指導の在り方及び指導計画について理解を深める	休食	閉講式 各ユニットで研修プログランの共有

## I 研修概要

研 修 名	学校安全指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における生活安全・交通安全・災害安全に関し、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の園長、副園長、校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者 可能な限り、各都道府県から一人は教育行政関係者の参加があることが望ましい							
開 催 期 日	平成28年9月12日（月）～平成28年9月16日（金）				5日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	169	人	参加率	105.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	158	11	0	0	0	0	169
割合 (%)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	169						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・校種別グループでの部会の時間を多く設定していただいたことで、より特支について勉強になり、学校種に合わせたマニュアルを作成することができた。</li> <li>・あらゆる危険を想定して、安全な状態を維持することは大切なことであるし、子どもを預かる上で1番優先されることだと思った。教科と関連させた指導計画づくり、訓練の意味など、学校に帰って伝えていきたい。</li> <li>・学校管理、3つの段階、3領域、ハザード・リスク、危機管理マニュアルの作成、演習方法等、知識・技能を身に付けると共に、ご遺族の方からのお話より、意識を高く持つことができた。</li> <li>・初日はメモをとることや理解することで精一杯だったが、研修が進むごとに演習班での親友も深まり、活発な意見交換の中から、様々な発想が生まれた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校種毎の班において各講義・演習の内容を共有するとともに、「危機管理マニュアル」を作成した。</li> <li>・学校種毎の班にて作成した「危機管理マニュアル」を踏まえ、地域の実態等に応じた研修企画の立て方についての演習を行った。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育の中期計画に対する「評価」の観点整理の経験をもとに「生活安全領域」に関わる具体的な教材作成作業（指導案作成を含む）を含めた演習を検討する。</li> <li>・「教育（防災教育）」に関する内容の講義・演習を検討する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに



## 平成28年度学校安全指導者養成研修 日程表

### 第1日

9月12日(月)	受付	9:00	9:30	10:00	11:20	11:30	12:30	13:30	17:00
		開講式・オリエンテーション	<b>講義1</b> 学校安全の現状と課題 研修の全体構成説明 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官 口門 直子 ◎目的:学校安全の現状等について理解するとともに、本研修の全般的構成について理解する。	<b>講義2</b> 学校安全の基礎 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 休憩 ◎目的:学校安全の概念・構造等の基本的事項について理解する。	昼食・休憩	<b>講義・演習1</b> 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について(学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導するための指導者としてのポイントを整理する。			

### 第2日

9月13日(火)	9:00	12:30	13:30	17:00
	<b>講義・演習2</b> 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について(学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導するための指導者としてのポイントを整理する。	昼食・休憩	<b>講義・演習3</b> 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について(学校種別 講義・演習) 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、学校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導するための指導者としてのポイントを整理する。	

### 第3日

9月14日(水)	9:00	9:50	10:00	10:50	11:00	12:00	13:00	13:20	13:50	14:00	17:00
	<b>講演1</b> 学校事故事例報告① 酒井 智恵 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	休憩	<b>講演2</b> 学校事故事例報告② 桐淵 博 桐田 寿子 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	休憩	<b>講演3</b> 「学校事故対応に関する指針」を踏まえた安全管理 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的:講演を踏まえ、「学校事故対応に関する指針」について理解を深める。	昼食・休憩	<b>演習①</b> 危機管理マニュアルの作成 全体説明 ◎目的:学校種毎の班により、各講義・各学校種の内容を共有するとともに、「危機管理マニュアル」を作成する。	休憩	<b>演習②</b> 危機管理マニュアルの作成		

### 第4日

9月15日(木)	9:00	12:00	13:00	16:00	16:15	17:00
	<b>演習③</b> 危機管理マニュアルの作成 ◎目的:学校種毎の班により、各講義・演習の内容を共有するとともに、「危機管理マニュアル」を作成する。	昼食・休憩	<b>演習④</b> 危機管理マニュアルの作成 ・部会内発表と代表班決定 ◎目的:学校種毎の班により、各講義・演習の内容を共有するとともに、「危機管理マニュアル」を作成する。	休憩・移動	・振り返り	

### 第5日

9月16日(金)	9:00	11:00	11:15	12:00	13:00	14:30	14:45
	<b>演習⑤</b> 危機管理マニュアルの作成と研修企画 ・代表班の発表と講評 ・研修企画 ◎目的:学校種毎の班により作成した「危機管理マニュアル」を発表することで、情報や課題の共有を図る。また、「危機管理マニュアル」を踏まえ、地域の実態等に応じた研修企画の立て方について理解する。	休憩	昼食・休憩	<b>講義4</b> 学校安全教育を推進するリーダーとして 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官 口門 直子 ◎目的:研修全体を振り返り、安全教育の推進者としての自覚を促す。	閉講式		

◆運営協力者(演習時指導助言)◆

【小学校】掛川市教育委員会学校教育課 指導主事 高塚 秀和

【中学校】宮城県教育庁スポーツ健康課 指導主事 遠藤 貞悟

【高等学校】岡山県教育庁保健体育課 指導主事 松村 和憲

【特別支援学校】千葉県教育庁東上総教育事務 所山武分室 指導主事 瀧川 猛

## I 研修概要

研 修 名	言語活動指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むべき方策や最新の情報について必要な知識等を習得し、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等（特に研究主任や研修主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開 催 期 日	平成28年12月13日（火）～平成28年12月15日（木）			3日間				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	160	人	受講者数	164	人	参加率	102.5%
開 催 場 所	秋田県総合教育センター（秋田県潟上市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	146	18	0	0	0	0	164
割合 (%)	89.0	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	164	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年12月8日の中央教育審議会教育課程部会の答申（案）を受けて、最新のカリキュラム・マネジメントの考え方や、それを見える化した学校のグランド・デザインが設計できて、本当に有意義であった。早速自校バージョンにしたデザインを管理職に見ていただくよう準備したい。</li> <li>言語活動の全教科にわたる意義や実践の広げ方、教科の枠組みを突き抜ける方策の検討、カリキュラム・マネジメントの意義と手法など、すべてが言語活動の充実する場と関連した内容であり、変革期の困難に対し、多くの示唆が得られた。</li> <li>「言語活動の充実」を校内研の主題にしている。「主体的・対話的・深い学び」と言語活動の関連等を学ぶことができ、たくさんの実践例を知ることができたことで、校内研で先生方にお伝えし、研究を深めることができた。</li> <li>せっかくの秋田なので、言語活動に限らない教育活動を知ったり、（できれば参観したり）できるとありがたかった。</li> <li>具体的な実践の授業を場面で紹介していただけたら良かったと思った。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方創生の一環として、平成28年度から独立行政法人教員研修センターと秋田県教育委員会との主催にし、秋田県総合教育センターで実施した。</li> <li>「講義・事例発表」を「事例発表」に改め、国内での先進校の取組に絞り、受講者にとってより実践できるような取組を発表する内容とした。</li> <li>研究協議1における協議後、各部会の指導助言者より事例発表の講評を行い、言語活動の意義を一層深めた。</li> <li>研究協議2における昨年度の実践発表を充実させるため、前年度に限定せず、よりよい実践発表を選定できるよう対象を広げた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋田県において具体的な言語活動の充実を実践した授業の視察をする。</li> <li>実施要項・日程表において、次期学習指導要領の示された内容に沿った講義・演習の内容とする。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



平成28年度言語活動指導者養成研修 日程表

12月1日 第1日目	12:00	12:30	13:10	14:00	15:15	15:30	16:30	17:00
	講義	オリエンテーション	講義	事例発表	休憩・移動	研究協議1	講評	
12月13日 第2日目	12:00	12:30	13:10	14:00	15:15	15:30	16:30	17:00
12月15日 第3日目	12:00	12:30	13:10	14:00	15:15	15:30	16:30	17:00

12月12日 第2日目	8:30	12:00	13:00	14:00	15:15	15:30	16:30	17:00
	コース別演習	昼食・休憩	休憩	【中等分科会】	休憩	研究協議2	講評	
12月14日 第3日目	8:30	12:00	13:00	14:00	15:15	15:30	16:30	17:00
12月15日 第4日目	8:30	12:00	13:00	14:00	15:15	15:30	16:30	17:00

12月12日 第2日目	8:30	11:00	11:10	11:40	12:40	14:00	14:15	17:00
	全体会	移動	研究協議2	閉講式	閉講式	閉講式	閉講式	
12月15日 第3日目	8:30	11:00	11:10	11:40	12:40	14:00	14:15	17:00
12月16日 第4日目	8:30	11:00	11:10	11:40	12:40	14:00	14:15	17:00

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者							
開催期日	平成28年5月16日（月）～平成28年5月20（金）				5日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	200	人	受講者数	266	人	参加率	133.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 968 人、参加率 121.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	252	14	0	0	0	0	266
割合 (%)	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	266	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科化を迎えるにあたり、今、必要な知識を得たり、再確認したりすることができた。また、そのことを念頭に、授業づくりをすることで、現場で子供の指導にあたる先生方へのアドバイスの視点をもつことができた。</li> <li>・研修3日目までに教えていただいたことをもとに、研修4日目に行った授業づくりが何より財産になった。明確な指導観をもった授業づくりの根幹を、少しでも多くの方に伝えていきたいと思う。</li> <li>・研修を受けて、道徳教育の充実のために、道徳教育推進教師が中心となって行っていくことの大切さを改めて実感できた。全体計画や道徳の時間の授業づくりを話し合っていく中で、他県の取り組みや効果的な指導方法について学ぶことができた。</li> <li>・研修の中において、各職種別（校長、指導主事、教諭等）で協議、演習できる場があるとよい（それぞれが還元する内容は異なると思うので）。</li> <li>・演習は「こなす」ことに精一杯でフィードバックや思考の再構成・再構築、あるいは積み上げを行う時間が足りないように感じた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政説明の時間を40分から60分に延長した。</li> <li>・体験活動に関する講義時間を75分から90分に延長した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の受講者が道徳教育をどの程度してきたのかがわかるよう、推薦名簿で経験年数を聞くこととした。</li> <li>・高等学校部会の講義は、現在の高等学校の道徳教育の改善に関する内容にする。</li> <li>・特別活動が道徳的実践の学習の場であるということが伝わるよう、講義目的に記載する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 道德教育指導者養成研修（中央指導者研修）

日程表

【1日目】	9:00	9:40	10:20	11:20	11:30	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
							<b>昼食・休憩</b>			
5月16日(月)		受付	<b>オリエンテーション</b>	<b>行政説明</b> 「道德教育の充実について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 小野 賢志	<b>講義1</b> 「今、求められる道德教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一			<b>休憩</b>	<b>演習1</b> 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	◎目的：実践事例から、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進上の課題をもつ

【2日目】	8:30	10:50	11:00	12:30	13:30	15:30	15:45	17:00
						<b>昼食・休憩</b>		
5月17日(火)	受付	<b>事例発表・協議・講義</b> 「体験活動や実践活動を通じた道德教育」【授業づくりの要点1】 <講師> 國學院大学 教授 杉田 洋 <事例発表> 熊本市立大江小学校 教諭 中尾 聡 尚子 同 教諭 中島 尚子	<b>講義2</b> 「心を育てる道德教育の具体的な展開」【授業づくりの要点2】 東京学芸大学 教授 永田 繁雄	<b>事例発表・協議</b> 「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の実践と課題」 小学校：東京都千代田区立九段小学校 校長 鈴木 邦夫 中学校：愛媛県西条市立河北中学校 校長 坂井 毅治	<b>講義3</b> 「わたし（私）たちの道德を生かした道德教育の推進」 さいたま市子ども未来局 幼児未来部 参事 藤澤 美智子 (前さいたま市立芝川小学校校長) ◎目的：「わたし（私）たちの道德」について、執筆者からいろいろな活用方法について具体的に学ぶ	<b>休憩</b>	<b>講義3</b> 「人間としての在り方生き方を考える」 国立音楽大学 教授 及川 良一	◎目的：人間としての在り方生き方を見つめなおし、生徒とともによりよい生き方を求める姿勢を育む

【3日目】	8:30	9:25	9:35	10:45	11:00	12:30	13:30	15:55	16:10	17:00
	小・中学校部会	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「わたし（私）たちの道徳」の生かし方も含めて）」	休憩	講義4 「『道徳の時間』の充実を図るために」 【授業づくりの要点4】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 【授業づくりの要点5】	屋 食 ・ 休 憩	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用等、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る」	15:55	16:10	17:00
5月18日	受 付	演習2・3 指導助言者） 秋田公立美術大学 聖徳大学大学院 秀明大学 学校教師学部 東京都杉並区立済美教育センター	教授 毛内 嘉威 吉本 恒幸 生形 章 福田 鉄雄	東京都教職員研修センター 東京女子体育大学 四天王寺大学 宇都宮大学	教授 峯川 一義 教授 小林 福太郎 准教授 杉中 康平 准教授 和井内 良樹	特別准教授 小林 幹夫 准教授 飯島 英世 講師 五十嵐 由和 校長 森岡 耕平	14:00	14:15	15:45	16:00
	高等学校部会	講義4 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深める	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 広島県立河内高等学校 教諭 川原 栄治 ◎目的：具体的事例を通して、高等学校における道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 谷田 増幸 秋山 博正 小泉 博明	全体会・演習のまとめ	◎目的：魅力ある教材の開発と活用等、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る	14:00	14:15	15:45
(水)	8:30	10:00	10:15	11:30	12:30	13:30	14:00	14:15	15:45	16:00

【4日目】	8:30	9:25	9:35	10:45	11:00	12:30	13:30	13:40	15:55	16:10	17:00
	小・中学校部会	演習4-1 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅰー学習指導案の作成・検討Ⅰ」	休憩	演習4-2 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅱー模擬授業の発表・協議Ⅰ」	屋 食 ・ 休 憩	演習4-2 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅱー模擬授業の発表・協議Ⅰ」	◎目的：各分科会ごとに模擬授業を行い、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深める	15:55	16:10	17:00	
5月19日	受 付	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	
	高等学校部会	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明	演習4-1 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の作成・検討Ⅰ」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正 文京学院大学 教授 小泉 博明
(木)	8:30	8:40	12:00	13:00	14:45	15:00	14:45	15:00	17:00		

8:30		11:30		12:30		15:00	
5月20日(金)	<p>受付</p>	<p><b>演習4-3</b> 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅲ-代表班による模擬授業の発表・協議-」</p> <p>文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一</p> <p>(小中部分)◎目的：各分科会の代表班が模擬授業を行い、「道徳の時間」の充実に向けた指導の展開方策について理解を深める (高校部分)◎目的：小・中学校における「道徳の時間」の授業の実際について理解を深める</p>	<p><b>休憩</b></p>	<p><b>屋食・休憩</b></p>	<p><b>講義5</b> 「道徳教育を推進するリーダーとして」</p> <p>文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一</p> <p>◎目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめる中で、道徳教育を推進するリーダーとしての知見を深める</p>	<p><b>閉講式</b></p>	

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（北海道・東北ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域に本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開催期日	平成28年10月24日（月）～平成28年10月26日（水）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	88	人	参加率	88.0%
開催場所	コラッセふくしま（福島県福島市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 968 人、参加率 121.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	77	11	0	0	0	0	88
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳の時間の充実を図るためには、道徳科の特質を理解することが大切であること、また道徳的価値を自覚できるよう指導方法を工夫することが重要であることを知り、あらためて「どんな生徒にしたいか」の思いをもつことが大事であることを実感した。

・道徳教育の現状と課題について小・中学校についてはとても分かりましたが、高校における今後について、更なる理解を深めたかった。

・演習は校種や立場、所属のちがう方々とグループであったため、交流や情報交換という意味では広がりがあったが、話し合いが表面的で深まらなかった。

・実際に道徳の授業を参観し（映像資料を用いて）協議する場があれば、授業改善の視点や協議方法等をより深く学べたのではないかと思った。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設した。
- ・体験活動に関する講義時間を75分から90分に延長した。

### 次年度に向けて

- ・研修の受講者が道徳教育をどの程度してきたのかがわかるよう、推薦名簿で経験年数を聞くこととした。
- ・高等学校部会の演習内容を道徳中央研修で実施している全体計画案の作成・発表・協議に変更する。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり





## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（関東・甲信越ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域に本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開催期日	平成28年7月25日（月）～平成28年7月27日（水）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	122	人	参加率	122.0%
開催場所	東京都教職員研修センター（東京都文京区）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 968 人、参加率 121.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	106	16	0	0	0	0	122
割合 (%)	86.9	13.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科化に向けての動向や、年間計画、別葉のことなど、学びたいと思っていたことを学ぶことができ、大変有意義だった。パワーポイントが資料として手元にあるのもよかった。講義と演習のバランスがよく、気持ちを切りかえながら研修に臨めた。</li> <li>・道徳教育を高校で行うということに対して、身構えてしまう部分があったが、教師の側に「道徳的価値に気づかせる」という意識があれば、どのような教育活動でも道徳教育になりうると教えていただき、いい意味で肩の力を抜いて指導にあたることができるようになったと感じた。</li> <li>・講義内容が他の講義と重なることがいくつかあったと感じた。</li> <li>・道徳主任になったこともなく、今まで「心情」を追う授業をしてしまっていたこと、全体計画や別葉を生かしていただかなかったことを振り返り、反省することができた。また、特別の教科道徳の導入による変更に対応する準備、意識・授業の改善を少しでも広めていけるよう努力したいと思う。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設した。</li> <li>・体験活動に関する講義時間を75分から90分に延長した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の受講者が道徳教育をどの程度してきたのかがわかるよう、推薦名簿で経験年数を聞くこととした。</li> <li>・高等学校部会の演習内容を道徳中央研修で実施している全体計画案の作成・発表・協議に変更する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【関東・甲信越ブロック】

日程表

【1日目】	9:20	9:40	10:20	11:00	11:10	12:30	13:30	15:15	15:30	17:00
7月25日(月)	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行 課長補佐 小野 賢志	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	昼食・休憩	演習1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	休憩	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」 小学校：国分寺市立第五小学校 校長 太田 圭子 主任教諭 野場 志保 同 教諭 大日向 隼 同 教諭 杵淵 桂一朗 中学校：世田谷区立千歳中学校 主任教諭 桶川 希三子 ◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	
【2日目】	9:00	10:00	10:15	11:30	12:30	15:00	15:15	17:00		
7月26日(火)	小・中学校部会	講義(小中①) 「『わたし(私)たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 高崎区教育委員会 指導室 田中 博 ◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆者から具体的に学ぶ。	講義(小中②) 「『道徳の時間』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	昼食・休憩	演習2 「子供の心に響く道徳教育の実践 —学習指導案の作成・検討—」 ＜指導助言者＞ 渋谷区立笹塚小学校 校長 染谷 由之 練馬区立練馬東小学校 校長 渡邊 万里子 武蔵野市立第五中学校 校長 菅野 由紀子 府中市立府中第三中学校 校長 森岡 耕平	休憩	発表・協議			
7月26日(火)	高等学校部会	講義(高校①) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校：東京都立練馬高等学校 成昭 正木 成昭 主幹教諭 正木 成昭 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	昼食・休憩	演習2-1 「学校の教育活動全体を通しての在り方生き方に関する教育の展開」 人間としての在り方生き方に関する教育的な教材研究・実践	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の在り方に関する教育的な教材研究・実践」	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩		
【3日目】	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15			
7月27日(水)	受付	講義2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 國學院大学 教授 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特徴を生かした道徳教育の意義や役割について理解する。	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行 ◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める。	昼食・休憩	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる。	閉講式				

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（東海・北陸ブロック）						
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域に本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者						
開催期日	平成28年10月18日（火）～平成28年10月20日（木）				3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	126	参加率	126.0%
開催場所	AOSSA(アオッサ) (福井県福井市)						

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 968 人、参加率 121.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	95	31	0	0	0	0	126
割合 (%)	75.4	24.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	126	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・多面的・多角的が具体的にわかりました。また主題設定の理由、指導観の大切さを改めて感じました。  
 ・「私たちの道徳」だけでなく、今後の教科書のことも含め、道徳が「特別の教科」であることとの関連の話が聞けて良かった。  
 ・文部科学省の調査官から直接話を聞くことができ、これからの指導、助言に生かすことができる充実した3日間の学びであった。指導案検討、研修計画を他県の方等とグループで話し合うことができ、見方・考え方が変わることもでき、とても充実した研修だった。  
 ・講義の内容がすばらしいものだけに、十分に理解して、演習に入りたいところだったが、時間の関係もあるのか、テンポも速く、資料の説明のカットなど、理解が難しかった。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設した。
- ・体験活動に関する講義時間を75分から90分に延長した。

### 次年度に向けて

- ・研修の受講者が道徳教育をどの程度してきたのかがわかるよう、推薦名簿で経験年数を聞くこととした。
- ・高等学校部会の演習内容を道徳中央研修で実施している全体計画案の作成・発表・協議に変更する。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【東海・北陸ブロック】

日程表

10月18日(火)	9:20	9:40	10:10	10:20	11:10	12:30	13:30	15:15	15:30	17:00
	受付	オリエンテーション	休憩	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 小野 賢志	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解することともに、推進の在り方について理解を深める	昼食・休憩	講義1 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例から、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題をもつ	休憩	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：坂井市立春江小学校 教諭 山田 俊行 中学校：越前町立越前中学校 教諭 大佛 尚彦 ◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点をもつ	
10月19日(水)	9:00	9:00	10:00	10:15	11:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	小・中学校部会	講義(小中①) 「『わたし(私)たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 京都産業大学 教授 柴原 弘志 ◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆者から具体的に学ぶ。 ◎目的：「道徳の時間」における学習指導要領の作成および部会内で発表を行うことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める	休憩	講義(小中②) 「『道徳の時間』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	昼食・休憩	講義2 「子供の心に響く道徳教育の実践 ―学習指導案の作成・検討―」 ＜指導助言者＞ あわら市金津東小学校 黒川 智子 小京市立小浜小学校 竹中 一暹 福井市栗中学校 教諭 田中 秀幸 勝山市立勝山中郡中学校 教諭 吉田 昌次	休憩	発表・協議		
10月20日(木)	9:00	9:30	10:45	11:45	12:45	14:10	14:25	15:45	16:00	17:00
	高等学校部会	講義(高校①) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸 ◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、ラーマゴとの現状、課題、解決策等について知識・方法を確る	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校： 岡山県立邑久高等学校 教諭 矢野 祥子 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	昼食・休憩	演習2-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	
10月20日(木)	9:00	9:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00		
	講義2 「体験活動や実践活動を通して道徳教育」 元文部科学省 初等中等教育局 視学官 宮川 八岐 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休憩	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策―研修プランの作成―」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 赤堀 博行 ◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める	昼食・休憩	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーと教科調査官」 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式				

※日種等について変更することがあります



## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（近畿ブロック）						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。						
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域に本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者						
開催期日	平成28年8月3日（水）～平成28年8月5日（金）				3日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	123	参加率	123.0%
開催場所	和歌山県自治会館（和歌山県和歌山市）他						

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 968 人、参加率 121.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	105	17	1	0	0	0	123
割合 (%)	85.4	13.8	0.8	0.0	0.0	0.0	
	122	99.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育に関する知識が整理できた。また、他校種、他府県の先生方と交流でき、実践から学ぶことも多かった。文科省の調査官の講義もあり、国の動向が理解でき、教科化に向けて、見通しがもてた。演習の時間もあり、今後、ここで学んだことを基礎に授業づくりの指導をすることができると思った。</li> <li>・道徳の教科化に向け、指導要領の趣旨や、校内での体制づくり、児童が主体的に学ぶ道徳の学習など、改善のポイントが明確になった。</li> <li>・演習での話し合う時間や、ブラッシュアップする時間が短く感じた。特に演習では、演習に対する評価までするための時間を確保してもらわないと、意識が高まらないと感じた。</li> <li>・全国のすぐれた実践発表だけでなく、同じような道徳的課題をかかえる多くの学校と情報交換ができたこと、小中高の連携の大切さを改めて感じられたことなど様々なことを学ぶことができた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設した。</li> <li>・体験活動に関する講義時間を75分から90分に延長した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の受講者が道徳教育をどの程度してきたのかがわかるよう、推薦名簿で経験年数を聞くこととした。</li> <li>・高等学校部会の演習内容を道徳中央研修で実施している全体計画案の作成・発表・協議に変更する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



平成28年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【近畿ブロック】

日程表

8月3日(水)	9:00	9:20	9:40	10:20	11:00	11:10	12:30	13:30	15:15	15:30	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 小野 賢志	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義1 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義1 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	演習1 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校： 田辺市立上養小中学校 同 教諭 山崎 寛子 中学校： 御坊市立御坊中学校 教諭 森 忠之		
8月4日(木)	9:00	9:00	10:00	10:15	11:30	12:30	12:30	15:00	15:15	15:15	17:00
	受付	講義(小中①) 「『わたし(私)たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 大阪市立豊仁小学校 校長 服部 敬一	講義(小中②) 「『道徳の時間』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義(小中②) 「『道徳の時間』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	演習2 「子供の心に響く道徳教育の実践 ―学習指導案の作成・検討―」 <指導助言者> 和歌山市立松江小学校 校長 藤本 典子 紀の川市立長田小学校 校長 嘉本 知子 田辺市立高雄中学校 校長 阪本 博只 橋本市立紀見北中学校 校長 西川 光	演習2 「子供の心に響く道徳教育の実践 ―学習指導案の作成・検討―」 <指導助言者> 和歌山市立松江小学校 校長 藤本 典子 紀の川市立長田小学校 校長 嘉本 知子 田辺市立高雄中学校 校長 阪本 博只 橋本市立紀見北中学校 校長 西川 光	演習2 「子供の心に響く道徳教育の実践 ―学習指導案の作成・検討―」 <指導助言者> 和歌山市立松江小学校 校長 藤本 典子 紀の川市立長田小学校 校長 嘉本 知子 田辺市立高雄中学校 校長 阪本 博只 橋本市立紀見北中学校 校長 西川 光	演習2-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 <指導助言者> くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 <指導助言者> くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 <指導助言者> くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	
8月5日(金)	9:00	10:30	10:45	11:45	12:30	13:30	15:00	15:15	15:15	15:15	17:00
	受付	講義(高校①) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校： 広島県立河内高等学校 教諭 川原 栄治 <指導助言者> くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策―研修プランの作成―」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田 浩一	閉講式		

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（中国・四国ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域に本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開催期日	平成28年8月22日（月）～平成28年8月24日（水）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	96	人	参加率	96.0%
開催場所	香川県社会福祉総合センター（香川県高松市）							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 968 人、参加率 121.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	73	23	0	0	0	0	96
割合 (%)	76.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	96						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が、明確な指導観を基に、意図をもって指導や指導方法の計画を立て、児童に「どういう学習をさせたいのか」具体化しなければならないということを学んだ。また評価をするにあたって、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすことの必要性も学ぶことができた。</li> <li>・ 多くの先生方のご意見を聞くことで、より多様な手法を考えられた。また、目的あつての手法であり、全体計画をもう一度手直ししようという意欲をもてた。</li> <li>・ 演習のテーマが大きなものだったので、話し合いもおおまかなものになってしまうこともあったような気がした。また、演習は同じ課題の者どうしの方が協議がさらに深まるように思った。</li> <li>・ 演習2の指導案作成の時間が十分とれなかったことや、演習の講評だけでなく指導をしてもらえると勉強になったと思う。他の受講者の指導案も頂けると今後の参考になると思った。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設した。</li> <li>・ 体験活動に関する講義時間を75分から90分に延長した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の受講者が道徳教育をどの程度してきたのかがわかるよう、推薦名簿で経験年数を聞くこととした。</li> <li>・ 高等学校部会の演習内容を道徳中央研修で実施している全体計画案の作成・発表・協議に変更する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【中国・四国ブロック】

日程表

	9:20	9:40	10:10	10:20	11:10	12:30	13:30	15:15	15:30	17:00
8月22日(月)	受付	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 第一係長 栗林 芳樹	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	昼食・休憩	演習1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」 小学校：小豆島町立安田小学校 教諭 坂口 幸子 中学校：三豊市鷺寺市立学校組合立三豊中学校 教諭 豊島 正子			
			講義(小中②) 「『道徳の時間』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	講義(小中①) 「『わたし(私)たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 全国小学校道徳教育研究会 顧問 馬場 喜久雄	演習2 「子供の心に響く道徳教育の実践 ―学習指導案の作成・検討―」 ＜指導助言者＞ 高松市立国分寺南小学校 校長 日下 哲也 さぬき市立志度小学校 校長 岡田 保 高松市立古高松中学校 教頭 小竹 正吾 坂出市立瀬居中学校 教頭 谷本 里都子	演習3 「道徳教育の推進上の課題をもつて行う道徳教育の推進上の課題をもつ」 ◎目的：実践事例から、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題をもつ	◎目的：実践事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ			
8月23日(火)	受付	講義(高校①) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 高等学校： 香川県立多度津高等学校 校長 雅人 主幹教諭 塚藤 雅人 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	演習2-1 「学校の教育活動全体を通しての在り方生き方に関する教育の展開」	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正				
		講義3 「道徳教育の効果的な推進方策―研修プランの作成―」 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、授業改善への視座を得る。	◎目的：「道徳の時間」における学習指導案の作成および部会内で発表を行うことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める。	◎目的：各地域で道徳教育推進教師名を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果をまとめる					
8月24日(水)	受付	講義2 「体験活動や実践活動を通して道徳教育」 國學院大学 教授 杉田 洋	講義3 「道徳教育の効果を理解するとともに、演習成果を生かし方について理解を深める」	演習3 「道徳教育の効果を理解するとともに、演習成果を生かし方について理解を深める」	閉講式					
		◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	◎研修成果の生かし方について理解を深める	◎研修成果の生かし方について理解を深める	◎目的：各地域で道徳教育推進教師名を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果をまとめる					

※日程等について変更することがあります

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（九州・沖縄ブロック）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域に本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開催期日	平成28年8月17日（水）～平成28年8月19日（金）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	147	人	参加率	147.0%
開催場所	ホテル熊本テルサ（熊本県熊本市）他							

※ 全体標準定員 800 人、受講者数 968 人、参加率 121.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	123	24	0	0	0	0	147
割合 (%)	83.7	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	147						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大事なポイント等は、何度も繰り返し教えて頂いたので、参加する前よりも、道徳についての知識を身に付けることができたと思う。</li> <li>・ 教科化の経緯を踏まえながら、教育活動全体で行う道徳教育のあり方、道徳の授業等の実践的な研修の機会をいただき、とても有意義だった。特に教育活動全体で行う道徳教育については、今までは漠然とした理解にとどまっていたが、意図的、計画的な実践のあり方を示していただき、参考になった。</li> <li>・ 演習時間が足りずに少しもの足りなさも感じた。授業を進めていく上で、自分たちで指導案を作成するのも大切だが、模擬授業や、指導案（例）評価（例）などの資料があるとよりわかりやすかった。</li> <li>・ 参加している高校が少ないと感じた。高校における道徳教育が行なわれている学校が多いのかどうか気になった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「特別の教科 道徳」が、平成30年度以降に完全実施されることを受け、より一層「道徳の時間」の理解を深めるための講義を新設した。</li> <li>・ 体験活動に関する講義時間を75分から90分に延長した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の受講者が道徳教育をどの程度してきたのかがわかるよう、推薦名簿で経験年数を聞くこととした。</li> <li>・ 高等学校部会の演習内容を道徳中央研修で実施している全体計画案の作成・発表・協議に変更する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【九州・沖縄ブロック】

日程表

【1日目会場：ホテル熊本テルサ】		10:10 10:20		11:10		12:30		13:30		15:15 15:30		17:00		
8月17日（水）	受付（3階たい樹前）	開講式	オリエンテーション	行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 課長補佐 小野 實志	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 赤堀 博行	屋敷・休憩	演習1 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 赤堀 博行	休題	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校： 甲佐町立乙女小学校 教諭 三嶋 剛正 中学校： 天草市立本渡中学校 教諭 松本 祥司	◎目的：実践事例から、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題をもつ	◎目的：具体的な事例を通して、道徳教育の充実に向け新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ			
【2日目会場：ホテル熊本テルサ】														
8月18日（木）	受付（3階たい樹前）	講義（小中①） 「『わたし（私）たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 東京都 荒川区立ひぐらし小学校 校長 山本 洋	休題	講義（小中②） 「『道徳の時間』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 赤堀 博行	屋敷・休憩	演習2 「子供の心に響く道徳教育の実践 ―学習指導案の作成・検討―」 ＜指導助言者＞ 上天草市立上小学校 教頭 河野 満理 荒尾市立平井小学校 教頭 柳井 雅衣 合志市立西合志南中学校 校長 中島 栄治 合志市立合志南小学校 校長 大江 剛	休題	演習3 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、授業改善への視座を得る。	◎目的：道徳の時間における学習指導案の作成および部会内で発表を行うことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める。	発表・協議			
【3日目会場：熊本県庁本館地下大会議室】														
8月19日（金）	受付（地下大会議室前）	講義2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 安部 恭子	休題	演習3 「道徳教育の効果的な推進方策―研修プランの作成―」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 澤田 浩一 教科調査官 赤堀 博行	屋敷・休憩	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省 初等中等教育局 教科課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式							

※日程等について変更することがあります



## I 研修概要

研修名	学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うため、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（学校教育の情報化のための整備活動に関わる者を含む）であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開催期日	平成28年10月24日（月）～平成27年10月28日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	65	人	参加率	108.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 120 人、受講者数 145 人、参加率 120.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	61	4	0	0	0	0	65
割合 (%)	93.8	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	65						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域から集まった先生方と協働での研修は、活動しながら多くのことが学べた。また、タブレットに多くの資料が入っており、見直したり確認したりすることができて、とても便利だった。研修の準備・運営、そしてトラブル対応等、研修がスムーズに行なえるよう配慮があった。研修の成果を学校や地域で活用できるよう努めたい。</li> <li>・講師の先生方からのお話、事例発表、演習と様々な研修の形になっていて、学びやすかった。また、グループ分けもいろいろな地域の先生方と情報交換ができるように工夫されていて、有意義な研修であった。</li> <li>・今まで、本や資料等を通じて、自分なりに解釈をし、研修を進めていた。しかし、今回わかりやすい講義を受けたり、新しい手法を取り入れた演習等を行った中で、伝えるポイントが整理することができた。わかりやすい研修の方法も学ぶことができた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報の科学的な理解を深めるための指導」と「学校教育の情報化を推進する研修の企画と運用」のコマを新設し、研修日数を4日間から5日間に変更した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティに関する研修を重点的に取り入れることを予定している。</li> <li>・定員人数が増えるため、演習時に部屋を分けることを検討する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



# 平成28年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）

## 表

## 程

## 日

1日目	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00	
第一回 10月24日 <月>	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「新しい時代における学校教育の情報化」 講師：文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 新津 勝二 ◎目的：中央教育審議会で議論されている学習指導要領改訂などの教育改革の方向性を見据え、現状と課題とを踏まえた学校教育の情報化推進方策の全体像を捉える。	屋休 み	講義2 「国内外における学校教育の情報化の取組」 講師：東北大学教授 堀田 龍也 ◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例などもあわせて学校教育の情報化を推進する上で重要なポイントを理解する。	休憩	演習 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 ◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。 センター主任指導主事	
2日目	8:30	12:00	13:00	17:00					
第一回 10月25日 <火>	連絡事項	講義・事例発表・演習1 「情報の科学的な理解を深める指導」 講師：文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報企画振興室 教科調査官 鹿野 利春 事例発表：東京都品川区立京陽小学校 主任教諭 西下 義之 宮城教育大学附属中学校 教諭 浅水 智也 東京都立町田高等学校 指導教諭 小原 格 ◎目的：情報の科学的な理解を育むことの重要性について考え、発達段階に応じて、どのような指導を行えばよいかを検討する。	屋休 み	講義・事例発表・演習2 「情報活用の実践力を育む学習活動の設計」 講師：東北学院大学 准教授 稲垣 忠 事例発表：仙台市教育センター 指導主事 野中 映里 ◎目的：情報活用の実践力をさまざまな教科・単元で育成する方法を考え、児童・生徒のICT11活用を含めてどのような学習活動を設計すればよいかを検討する。	休憩				17:00
3日目	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00			
第一回 10月26日 <水>	連絡事項	講義・事例発表・演習3 「分かりやすい授業づくりのための教科指導におけるICT活用」 講師：東京学芸大学 准教授 高橋 純 事例発表：愛知県春日井市立出川小学校 校長 水谷 年孝 山形県米沢市立第二中学校 教諭 金 隆子 ◎目的：各教科等の目標の実現に向けて、アクティブラーニングの考え方も踏まえ、ICTの効果的かつ計画的な活用による授業改善について検討する。	屋休 み	休憩	講義・事例発表 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師：宮崎大学 教授 新地 辰朗 事例発表：大分県教育庁 教育財務課 情報化推進班 課長補佐（総括） 塚田 清隆 南足柄市教育研究所 指導主事 加藤 徹 ◎目的：校務の情報化の目的と、それによって教員の業務だけでなく教育活動がどのように変化するかを知り、校務の情報化を推進する方策について検討する。				17:00
4日目	8:30	12:00	13:00	17:00					
第一回 10月27日 <木>	連絡事項	講義・事例発表・演習4 「情報モラル教育と情報社会に参画する態度を育む指導」 講師：金城学院大学教授 長谷川 元洋 事例発表：創造教育研究所 代表 尾崎 廉 ◎目的：情報モラルを育て情報社会に参画する態度を育む指導の在り方を考え、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策と学校の指導計画への位置付け、地域・家庭との連携について検討する。	屋休 み	講義・演習 「学校教育の情報化を推進する研修の企画と運用」 講師：愛知教育大学 教授 江島 徹郎、准教授 齋藤 ひとみ ◎目的：教科指導におけるICT活用に関する校内研修リーダー養成研修の企画・運用を例として、学校教育の情報化の推進に資する研修の企画・運用能力を身に付ける。	休憩				17:00

5日目

<p>第一回 10月28日 (金)</p>	<p>8:30</p>	<p>講義・事例発表・演習 5</p>	<p>休憩</p>	<p>11:30</p>	<p>昼休み</p>	<p>12:30</p>	<p>14:00</p>	<p>15:00</p>	<p>15:15</p>	
<p>連絡事項</p>	<p>「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」          講師：横浜国立大学 教授 野中 陽一          事例発表：つくば市教育局 総合教育研究所 所長 毛利 靖          ◎目的：本研修における講義や演習の全体を踏まえ、教育の情報化を推進するための学校の体制づくりと戦略を考える。学校教育改革のためのICT活用戦略を考案、発表し、協議する。</p>									
		<p>課題協議</p>			<p>「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」          講師：薩摩川内市立川内中央中学校 校長 辻 慎一郎          ◎目的：学校教育の情報化を推進するリーダーとなるための力量と姿勢を改めて確認する。</p>					
					<p>閉講式</p>					

## I 研修概要

研修名	学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研修目的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うため、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。						
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（学校教育の情報化のための整備活動に関わる者を含む）であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者						
開催期日	平成29年1月30日（月）～平成29年2月3日（金）				5日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	80	参加率	133.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 120 人、受講者数 145 人、参加率 120.8%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数	71	9	0	0	0	0	80
割合 (%)	88.8	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	80	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校種、多地域の教員の中で、多面的で広く、深い視点で協議ができた事が非常に有意義だった。とても力ある講師の先生方のリードでICTについて学ぶことができた。魅力ある事例の紹介によって自分が今後研修を企画・運営をする際の参考になった。</li> <li>・全国の先生方と交流することで、日本全体のICT活用について知ることができた。その上で、自分の地域の進んでいる点はさらに伸ばし、そうでない点は早急に対策を練る必要性を感じることができた。今後の日本に必要なと言われる、アクティブラーニングやプログラミング教育などについて個々の理解にとどまらず、関連づけて、ICTを活用して教育していくことの大切さを感じることができた。ICTを推進していく立場として、今後どのような技術、どのようなシステムが必要なのかを学ぶことができたことは、大変有意義であった。</li> <li>・新学習指導要領の変更点をふまえて、国の指針から具体的な学習計画まで広く研修することができた。講演や事例発表も、すばらしい人選と実践を聞いてとてもよかった。パワーポイントの資料がタブレットで見られて、しかも持ち帰れるのがとてもよい。</li> <li>・ICTを中心とした情報教育についての研修だと思っていたが、研修を通じて、「どんな生徒にしたいのか」ということが根底にあった。それを実践するためにICTを活用したり、情報活用能力を育成するという視点であったので、すぐに現場に伝えられるものも多くあった。情報やICTを前面に出して学んだことを学校や地域に伝えるというよりも「どんな生徒にしたいのか」というスタンスで伝えたいと思った。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報の科学的な理解を深めるための指導」と「学校教育の情報化を推進する研修の企画と運用」のコマを新設し、研修日数を4日間から5日間に変更した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティに関する研修を重点的に取り入れることを予定している。</li> <li>・定員人数が増えるため、演習時に部屋を分けることを検討する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）  
表  
程  
日

1日目	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00			
第二回 1月30日 (火)	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「新しい時代における学校教育の情報化」 講師：文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 新津 勝二 ◎目的：中央教育審議会が議論されている学習指導要領改訂などの教育改革の方向性を見据え、現状と課題とを踏まえた学校教育の情報化推進方策の全体像を捉える。	昼休み	講義2 「国内外における学校教育の情報化の取組」 講師：東北大学教授 堀田 龍也 ◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例などもあわせて学校教育の情報化を推進する上で重要なポイントを理解する。	休憩	演習 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 ◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。 センター主任指導主事			
2日目	8:30	12:00	13:00	17:00	講義・事例発表・演習1 「情報の科学的な理解を深める指導」 講師：文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報企画振興室 教科調査官 鹿野 利春 事例発表：大阪府大阪市立苗代小学校 教諭 金川 弘希 宮城教育大学附属中学校 教諭 浅水 智也 東京都立町田高等学校 指導教諭 小原 格 ◎目的：情報の科学的な理解を育むことの重要性について考え、発達段階に応じて、どのような指導を行えばよいかを検討する。	昼休み	講義・事例発表・演習2 「情報活用の実践力を育む学習活動の設計」 講師：東北学院大学 准教授 稲垣 忠 事例発表：仙台市教育センター 指導主事 野中 映里 ◎目的：情報活用の実践力をさまざまな学習活動を設計すればよいのか検討する。	休憩	17:00		
3日目	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00	講義・事例発表 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師：宮崎大学 教授 新地 辰朗 事例発表：大分県教育庁 教育財務課 情報化推進班 課長補佐(総括) 塚田 清隆 南足柄市教育研究所 指導主事 加藤 徹 ◎目的：校務の情報化の目的と、それによって教員の業務だけでなく教育活動がどのように変化するかを知り、校務の情報化を推進する方策について検討する。	連絡事項	講義・事例発表・演習3 「分かりやすい授業づくりのための教科指導におけるICT活用」 講師：東京学芸大学 准教授 高橋 純 事例発表：愛知県春日井市立出川小学校 校長 水谷 年孝 山形県米沢市立第二中学校 教諭 金 隆子 ◎目的：各教科等の目標の実現に向けて、アクティブラーニングの考え方も踏まえ、ICTの効果的かつ計画的な活用による授業改善について検討する。	休憩	17:00
4日目	8:30	12:00	13:00	17:00	講義・事例発表・演習4 「情報モラル教育と情報社会に参画する態度を育む指導」 講師：金城学院大学教授 長谷川 元洋 事例発表：創造教育研究所 代表 尾崎 廉 ◎目的：情報モラルを育て情報社会に参画する態度を育む指導の在り方を考え、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策と学校の指導計画への位置付け、地域・家庭との連携について検討する。	昼休み	講義・演習 「学校教育の情報化を推進する研修の企画と運用」 講師：愛知教育大学 教授 江島 徹郎 愛知教育大学 准教授 梅田 恭子 ◎目的：教科指導におけるICT活用に関する校内研修リーダー養成研修の企画・運用を例として、学校教育の情報化の推進に資する研修の企画・運用能力を身に付ける。	休憩	17:00		

<p>8:30 第二回 2月3日 (金)</p>	<p>連絡事項</p>	<p>11:30</p>	<p>休息</p>	<p>12:30</p>	<p>昼休み</p>	<p>8:30</p>	<p>14:00</p>	<p>15:00</p>	<p>15:15</p>
<p>講義・事例発表・演習 5</p> <p>「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 講師：横浜国立大学 教授 野中 陽一 事例発表：つくば市教育局 総合教育研究所 所長 毛利 靖</p> <p>◎目的：本研修における講義や演習の全体を踏まえ、教育の情報化を推進するための学校の体制づくりと戦略を考える。学校改革のためのICT活用戦略を考案、発表し、協議する。</p>		<p>課題協議</p> <p>「学校教育の情報化を推進するリーダーとして」 講師：薩摩川内市立川内中央中学校 校長 辻 慎一郎</p> <p>◎目的：学校教育の情報化を推進するリーダーとなるための力量と姿勢を改めて確認する。</p>		<p>閉講式</p>					



## I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	<p>学校教育には、児童生徒に人権感覚を身につけさせ、人権意識を尊重して行動できるような教育を実施することが求められており、各学校においては、「人権教育の指導方法等のあり方について（第三次とりまとめ）」の提言を踏まえ、人権教育の指導方法等の改善・充実を図ることが求められている。</p> <p>本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するため、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。</p>							
受 講 対 象	<p>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者（人権教育担当者を含む）</p> <p>・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者（人権教育の指導的立場を担う者）</p>							
開 催 期 日	平成28年7月13日（水）～平成28年7月15日（金）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	120	人	受講者数	136	人	参加率	113.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	114	21	1	0	0	0	136
割合 (%)	83.8	15.4	0.7	0.0	0.0	0.0	
	135						
	99.3						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い学びがあり大変有意義であった。人権教育の基本（知的側面）歴史を踏まえ、態度的側面、価値的側面を生徒や先生方に体験してもらい人権に関する理解が深まるよう、帰校後努めたい。</li> <li>・人権教育について理解する講義、事例発表、グループ協議、資料作成、発表エンカウンターなど様々な研修内容があり、充実した3日間であった。人権教育を推進するための取組、方法等を学ぶよい機会となった。これからの人権教育に生かしていきたい。</li> <li>・全国から人権教育の中心者が一堂に会し、たくさんの講義・講演・演習を受ける中で、深く繋がることができた。また国の動向だけでなく、各都道府県の取組や提案を聴くことができ、貴重な体験となった。特に「みんなで作るみんなの学校」の講義は、自身の教職経験の上でも、大きな糧となる印象深いものであった。素晴らしい研修を受けることができ、今後の自身の実践を広げていきたい。</li> <li>・講義では、人権教育が学校教育の基盤であり、学校全体の組織的な対応が大切であることを学ぶことができた。演習では、同じ班の仲間と協議（対話）することを通して、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりをしていく上で大切な視点を学ぶことができた。また、他の班の発表を聞き、更に学びを深めることができた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権教育を推進するリーダーとして」のコマとエンカウンターのコマを統合し、講義の外に、演習を行うこととし、時間を2時間30分とした。</li> <li>・特別講義については、通常の講義として、実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職大学院の院生受入の関係より4日間の研修へ移行する。</li> <li>・事前課題を協議する時間を新たに設置する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



平成28年度人権教育指導者養成研修  
日程表

1 7月13日 (水)	9:00	9:15	9:45	10:00	11:30	11:40	12:30	13:30	15:10	15:20	17:15
	受	開	行政説明	講義	講義	講義	講義・課題協議	事例発表・協議	休憩	事例発表・協議	休憩
	付	式									
			文部科学省 初等中等 教育局 児童生徒課 長補佐 文孝 鈴木 文孝	「みんなが つくるみんな の学校」 元 大阪市立 大空小学校 校長 泰子 木村 泰子	休 憩	「性に関する 自己意識や性 的指向に関し て学校に求め られる対応等 について」 岡山大学大 院保健学研 科 教授 中塚 幹也	昼 休 息 み	「国内外の動きと学 校における人権教育」 筑波大学名誉教授 ・(公財)人権教育 啓発推進センター 上級特別研究員 福田 弘 ◎目的：人権及び人権 教育をめぐる内外の 動向を踏まえ、国際 的な視点からも普遍 的な人権教育が学校 教育において必要で あることを学ぶ。	休 憩	「人権教育推進上の課題と改善策等について ー「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」等を踏まえてー」 事例発表 埼玉県立蓮田松韻高等学校 教諭 馬橋 秀明 大阪府高槻市立赤大路小学校 教諭 久保 公子 指導助言 筑波大学名誉教授・(公財)人権教育啓発推進 センター上級特別研究員 福田 弘 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 神野 ちどり ◎目的：人権教育の先進的な取組を知るととも に各地域の取組を共有すること、演習に向 けて課題を明確化する。 15:20～16:20 事例発表・質疑応答等 16:20～16:30 休憩 16:30～17:15 班別協議	

2 7月14日 (木)	8:30	8:30									
	演習	「学校における人権教育の改善・充実についてー「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」等を踏まえてー」									
	(課題)	A 教育委員会等における効果的な教職員向け研修プログラム等の作成									
	B 学校としての組織的な取組										
	C 指導内容・指導方法・学習環境づくり等の工夫・改善										
	◎目的：各テーマにおける現状と課題について協議を深めることにより、人権教育を推進するための資料 (研修成果を活かすための資料)を作成し、改善・充実に係る知識・方法を修得する。										
	(指導助言者)	A (A1～A10班) B (B1～B9班) C (幼小) (C1～C2班) C (中高) (C3～C6班)	元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 神野 ちどり 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 筑波大学名誉教授・(公財)人権教育啓発推進センター上級特別研究員 福田 弘								17:00
	8:30～8:40 演習内容についての留意事項説明										
	8:40～12:00 事前課題説明 (10分/人) 質疑応答、意見交換、 研修成果物作成										
	12:00～13:00 昼休み										
	13:00～15:00 研修成果物作成 (14:30までに骨子を講師に みせる)										

7月15日 (金)	8:30	<p><b>演習</b></p> <p>「学校における人権教育の改善・充実について-全体発表・協議-まとめ-」</p> <p>筑波大学名誉教授・(公財)人権教育啓発推進センター 上級特別研究員 福田 弘 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 神野 ちどり</p> <p>8:30～ 8:35 説明準備 8:35～ 9:35 発表×4班程度(各グループ1班) (発表10分+質疑5分) 9:35～ 9:45 休憩 10:00～11:00 講評(指導助言者1人 15分) 11:00～11:30 作成資料の再検討(30分) ※ 演習の進行については、おおむね、以上の通りとするが、一部予定を変更する場合があります。</p> <p>◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の活かし方について理解を深める。</p>	11:30	<p><b>休憩</b></p>	12:30	<p><b>課題協議</b></p>	<p><b>休憩</b></p>	15:00	15:15	<p><b>閉講式</b></p>
--------------	------	--	-------	------------------	-------	--------------------	------------------	-------	-------	-------------------

## I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修(第1回)							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開 催 期 日	平成28年6月6日(月)～平成28年6月10日(金)				5日間			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	120	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体標準定員 200人、受講者数 212人、参加率 106.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	105	14	0	0	1	0	120
割合 (%)	87.5	11.7	0.0	0.0	0.8	0.0	
	119	99.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を通して何を指すのかという視点に立って、初めて教育活動全体を通じて行うキャリア教育の姿が見えてくるのではないかと思います。また、行事等に偏りぎみであったキャリア教育の視点を各教科等の特性(宝)に移すことで、より、本来目指すべき教育の姿に近づくのではないかと思います。日を追うごとに研修内容が積み重なっていくのが実感でき、大変有意義な5日間であった。</li> <li>・実践から学ぶことも意義のあることだが、それは県レベルでもできないことではないので、キャリアコンサルティングのやり方・キャリアプランのつくり方などを5日間をステップアップしていくように考えて5日目には完成できるようにテーマをしぼって大学の先生の講義を聞くなどの内容であるともっと良かった。</li> <li>・キャリア教育の絶対的必要性や縦、横の連携、地域や企業との連携の重要性が理解できた。それには、各学校の実態に応じた目標設定、目指す児童像を明確にさせなければならないこともよくわかった。何よりも全国の教育事情や教育形態、個性あふれる指導主事・教頭・教諭の方々と情報交換できたことがかけがえのない財産になった。</li> <li>・事例を多く聞いたこと、演習中心の内容だったこと等、とても実践的な研修で、戻ってからの実践や研修にすぐに活かせるものだった。研修内容はもちろんだが、他県の先生方と様々情報交換でき、抱えている悩みや解決策について共有できたことも有意義だった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研修センター(つくば市)での年2回の開催を見直し、教員研修センターにおいて対象都道府県をそれぞれ指定した上で、年2回で開催した。</li> <li>・地方創生の一環として、平成28年度の第2回研修を独立行政法人教員研修センターと富山県教育委員会で実施することが決定し、会場をパレプラン高志会館で実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートを踏まえて何かを考えるようにした内容の講義を新設する。</li> <li>・キャリア教育と特別活動の学級活動との関係についても取り入れた講義を新設する。</li> <li>・学校教育課程における資質・能力の向上において、キャリア教育は重要な鍵となっているため、質と量を確保する観点から富山県で2回実施する。</li> <li>・研修2日目午後の富山県の事例協議について、可能であれば各回共通で演習に富山県のPTAや企業の関係者が協議をする際の班に、1人は入るような形で実施する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 キャリア教育指導者養成研修（第1回） 日程表

1日目	9:30	10:00	12:15	13:15	17:00	
	開講式	課題協議 「キャリア教育の現状と本研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革PT 生徒指導調査官 長田 徹 【第二研修棟2階】 座席：①都道府県別	休憩	屋 休 み	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1 ～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 国立大学法人筑波大学 名誉教授 渡辺 三枝子 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 研究員 立石 慎治 事例発表 宮城県登米市立登米小学校 教諭 佐藤 修 岡山県奈義町立奈義中学校 教諭 小林 里江 和歌山県立桐蔭高等学校 教諭 崎山 智昭 【第二研修棟2階】 座席：②学校種別(1)	休憩
2日目	9:00	12:00	13:00	14:15 14:30	17:00	
	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2 ～校種間連携の方策～」 小中連携 講師 大阪府高槻市教育委員会教育管理部総務課 副主幹 山本 佐和子 事例発表 大阪府高槻市立第四中学校 首席 馬場 彰一 中高連携 講師 昭和女子大学 准教授 望月 由起 事例発表 青森県立名久井農業高等学校 教頭 古館 行雄 【第二研修棟2階】 座席：③学校種別混合	休憩	屋 休 み	課題協議 「社会と協働して進めるキャリア 教育～社会が求める資質・能 力」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼品質保証部長 清川 卓二 【第二研修棟2階】 座席：③学校種別混合	休憩	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3 ～地域社会と学校の連携推進のために～」 座席：④⑤⑥学校種別(1) 【特別研修棟1階研修室A】 ○小学校部会 講師 姫路市総合教育センター 所長 西田 耕太郎 事例発表 仙台市立西中田小学校 校長 田辺 泰宏 ○中学校部会 講師 横浜市教育委員会 総務部 教育政策推進課 指導主事 熊切 隆 事例発表 鹿児島県日置市立日吉中学校 教諭 久士目 真弓 ○高等学校部会 講師 有限会社オーション21 代表取締役社長 翁長 有希 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 研究員 立石 慎治 事例発表 兵庫県立東灘高等学校 教諭 井上 珠郁 【第二研修棟2階】 座席：⑦学校種別(2)
3日目	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
	課題協議 「キャリアアカウンティングの 基盤としてのコミュニケーション スキル向上」 東京都立府中高等学校 主任教諭 本城 慎二 【第二研修棟2階】 座席：⑦学校種別(2)	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革PT 生徒指導調査官 長田 徹 大阪府教育委員会事務局 市町村教育室 小中学校課 指導主事 竹中 重雄 青森県教育庁 西北教育事務所 教育課 指導主事 番場 亜由美 福岡県教育センター 教育指導部 部長 和田 美千代	休憩	屋 休 み	休憩	休憩

4日目

両コース共通		経営コース	
9:00	10:50	14:50	15:00
17:00			
6月9日 (木)	事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 東京都荒川区立第三中学校 校長 清水 隆彦 【特別研修棟 1階研修室A】 座席：⑧学校種別(経営コース)	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 関西大学 社会学部 教授 川崎 友嗣 【特別研修棟 1階研修室A】 座席：⑧学校種別(経営コース)
推進コース		推進コース	
11:00	11:00	17:00	17:00
昼休み	昼休み	休憩	休憩
演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革PT 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 兵庫県教育委員会 義務教育課 課長 西田 健次郎 高知県教育委員会 高等学校課 指導主事 戎井 崇 東京都足立区立六甲中学校 主任教諭 佐藤 学			【第二研修棟 2階】 座席：⑨学校種別(推進コース)

5日目

両コース共通		両コース共通	
9:00	11:45	12:45	15:15
15:30			
6月10日 (金)	演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革PT 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 社会学部 教授 川崎 友嗣 東京都足立区立六甲中学校 主任教諭 佐藤 学 【特別研修棟 1階研修室A】 座席：⑧学校種別(経営コース)	課題協議 「研修講師となるために」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革PT 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 社会学部 教授 川崎 友嗣 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 東京都足立区立六甲中学校 主任教諭 佐藤 学	閉講式
推進コース	推進コース	推進コース	
9:00			
事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 【第二研修棟 2階】、座席：⑨学校種別(推進コース)			【第二研修棟 2階】 座席：①都道府県別



## I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修(第2回)							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者として必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者							
開催期日	平成28年8月29日(月)～平成28年9月2日(金)					5日間		
受講人数	標準定員 (計画人数)	100	人	受講者数	92	人	参加率	92.0%
開催場所	パレブラン高志会館(富山県富山市)							

※ 全体標準定員 200人、受講者数 212人、参加率 106.0%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	86	6	0	0	0	0	92
割合(%)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	92	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・地方創生戦略の一環として、中央研修の一部を地方主管として実施された第1回目の研修ということであったが、非常に有意義であり、地域への経済効果としても利点は多かったと思う。初めて富山県にきてみて、地域の文化に触れることもでき、全国の先生方とも交流、情報交換ができ、前向きに、向上心を持って研修を受講することができた。

・高岡理事から、「ネットワークの構築と地方からの情報発信」について、石井知事からは、「キャリア教育こそ人づくり」という話をいただいた。5日間の本研修を通して、全国のキャリア教育同志とつながることができたこと、そして、豊富な先進事例や課題協議を通じて、キャリア教育推進のための具体的な手立て、評価、改善の方策について学ぶことができたのは、今の自分自身にとって大変有意義なものであった。

・キャリア教育とは子どもの将来に向けての目的を持った教育活動であると分かった。その実施のためには、めざす生徒像をしっかりと描き、それに向けての計画をしっかりと立てることが大切だと感じた。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

・教員研修センター(つくば市)での年2回の開催を見直し、教員研修センターにおいて対象都道府県をそれぞれ指定した上で、年2回で開催した。

・地方創生の一環として、平成28年度の第2回研修を独立行政法人教員研修センターと富山県教育委員会で実施することが決定し、会場をパレブラン高志会館で実施した。

### 次年度に向けて

・キャリアパスポートを踏まえて何かを考えるようにした内容の講義を新設する。

・キャリア教育と特別活動の学級活動との関係についても取り入れた講義を新設する。

・学校教育課程における資質・能力の向上において、キャリア教育は重要な鍵となっているため、質と量を確保する観点から富山県で2回実施する。

・研修2日目午後の富山県の事例協議について、可能であれば各回共通で演習に富山県のPTAや企業の関係者が協議をする際の班に、1人は入るような形で実施する。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



平成28年度 キャリア教育指導者養成研修（第2回） 日程表

1日目	9:30	10:00	12:15	13:15	17:00	
8月29日 (月)	開講式	課題協議 「キャリア教育の現状と本研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課/高校教育改革PT 生徒指導調査官 長田 徹	休憩	昼 休憩	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1 ～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 国立大学法人筑波大学 名誉教授 渡辺 三枝子 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 研究員 立石 慎治 世田谷区立尾山台小学校 教諭 白石 香澄 奈良市教育委員会奈良市教育センター 教育支援課 指導主事 野々村 テル 【嘉月の間】 山梨県立塩山高等学校 教諭 古守 やす子 座席：②学校種別（1）	休憩
2日目	9:00	12:00	13:00	14:15 14:30	17:00	
8月30日 (火)	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2 ～校種間連携の方策～」 小中連携 講師 高槻市教育委員会教育管理部総務課 副主幹 山本 佐和子 事例発表 高槻市立第四中学校 首席 馬場 彰一 中高連携 講師 昭和女子大学 准教授 望月 由起 事例発表 富山県立八尾高等学校 校長 佐野 友昭	昼 休憩	課題協議 「社会と協働して進めるキャリア教育～社会が求める資質・能力」 清川メッキ工業株式会社 専務取締役兼品質保証部長 清川 卓二	休憩	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3～ 地域社会と学校の連携推進のため～」 座席：④⑤⑥学校種別（1） 【麗花の間】 ○小学校部会 講師 仙台市立六郷小学校 校長 菅原 弘一 事例発表 水見市立朝日丘小学校 校長 谷内口 まゆみ 【カルチャーホール】 ○中学校部会 講師 横浜市教育委員会 総務部 教育政策推進課 主任指導主事 熊切 隆 事例発表 高岡市立戸出中学校 教頭 山森 義人 【嘉月の間】 ○高等学校部会 講師 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 研究員 立石 慎治 事例発表 富山県立高岡南高等学校 校長 林 誠一	
3日目	9:00	10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
8月31日 (水)	課題協議 「キャリアアカウンセンリング の基盤としてのコミュニケーション の向上」 追手門学院大学心理学部 教授 三川 俊樹 【嘉月の間】 座席：⑦学校種別（2）	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課/高校教育改革PT 生徒指導調査官 長田 徹 大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課 主任指導主事 竹中 重雄 青森県教育庁 西北教育事務所 教育課 指導主事 番場 亜由美 福岡県教育センター 教育指導部 部長 和田 美千代	昼 休憩	【嘉月の間】 座席：③学校種混合	【嘉月の間】 座席：③学校種混合	休憩

4日目

9月1日 (木)	両コース共通		経営コース	
	9:00	10:50	11:00	14:50 15:00 17:00
	事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵 【嘉月の間】 座席：①都道府県別	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 【麗花の間】 座席：⑧学校種別（経営コース）	休憩	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 関西大学 社会学部 教授 川崎 友嗣 【麗花の間】 座席：⑧学校種別（経営コース）
	11:00	11:00	17:00	
	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革 PT 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 国立大学法人京都教育大学 教授 初田 幸隆 高知県教育委員会 高等学校課 指導主事 戎井 崇 足立区立六月中学校 主任教諭 佐藤 学 【嘉月の間】 座席：①都道府県別	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革 PT 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 国立大学法人京都教育大学 教授 初田 幸隆 高知県教育委員会 高等学校課 指導主事 戎井 崇 足立区立六月中学校 主任教諭 佐藤 学 【嘉月の間】 座席：①都道府県別	休憩	休憩

5日目

9月2日 (金)	経営コース		両コース共通	
	9:00	11:45	12:45	15:15 15:30
	演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革 PT 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 社会学部 教授 川崎 友嗣 足立区立六月中学校 主任教諭 佐藤 学 【麗花の間】 座席：⑧学校種別（経営コース）	昼 休 み	課題協議 「キャリア教育を推進するリーダーとして-研修講師、企画・運営に向けて」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課／高校教育改革 PT 生徒指導調査官 長田 徹 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 関西大学 社会学部 教授 川崎 友嗣 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 足立区立六月中学校 主任教諭 佐藤 学	閉 講 式
	9:00	11:45	12:45	15:15 15:30
	事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 【嘉月の間】 座席：⑨学校種別（推進コース）	事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 【嘉月の間】 座席：⑨学校種別（推進コース）	休憩	【嘉月の間】 座席：①都道府県別

## I 研修概要

研修名	幼児教育指導者養成研修【平成28年度新規】							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	子ども・子育て支援新制度の施行を踏まえ、質の高い幼児教育を全国の全ての子供に保障するため、幼児教育を担当する指導主事等に対し、幼児教育の指導の充実や小学校教育との円滑な接続、評価を含めたカリキュラム・マネジメントの適正な実施など、幼児教育の指導者として必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市の幼児教育担当指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者。（認定こども園、保育所の指導・助言を行う者を含む。） 国公立私立幼稚園・保育所・認定こども園の教職員であって、各学校や地域における本研修内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者。							
開催期日	平成28年11月30日（水）～平成28年12月2日（金）				3日間			
受講人数	標準定員 (計画人数)	60	人	受講者数	99	人	参加率	165.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	91	8	0	0	0	0	99
割合 (%)	91.9	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内でお話を聞くことができない著名な先生方からの講義は大変有意義だった。また、全国でそれぞれに幼児教育を推進する方々と様々な情報交換ができ、今後のヒントをもらうことができた。立場が違う方々の声を聞くことができたのも、非常にありがたかった。</li> <li>・研修の内容が多岐にわたっており、しかもポイントが凝縮されており、とても3日間とは思えないほど、多くのことを学ぶことができた。</li> <li>・現代・現在の社会状況に促した内容であり、すぐに生かしていける、参考にしていきたい研修だった。保育・教育の大切さを改めて再確認し、子どもたちのことを、必死に考えている行政の皆さんが沢山いること、また、なかなかない交わりの機会となった研修だった。</li> <li>・慌しいというイメージが強かったので、もう少しゆったりと、そしてじっくりお話（講義）を聞きたかった。</li> <li>・どの講義の後にも「質疑応答」がなかったのは、残念だった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度新規で開設した研修のため、反映状況なし。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部講義を、幼小接続の観点から、小学校の先生方に対して、幼児教育の動向、重要性を伝える内容にする。</li> <li>・幼児教育の推進体制構築事業（幼児教育アドバイザー、幼児教育センター）に係る事例を入れた講義を入れる。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度 幼児教育指導者養成研修 日程表

		9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	14:15	14:30	15:40	15:50	17:00
11月30日(水)			オリエンテーション	行政説明 「幼児教育行政の最新の動向」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 伊藤 学司	講義 「幼児教育の現状と課題」 白梅学園大学子ども学部 教授兼子ども学研究科長 無藤 隆	講義・演習① 「『非認知的能力』の重要性とそれを育む援助」 千葉大学教育学部 准教授 砂上 史子	休憩				
		受付	開講式	○目的：最新の幼児教育行政の動向を知る。	○目的：幼児教育をめぐる現状、そして課題について、最新の幼児教育の動向を踏まえながら、理解する。	○目的：幼稚園教育要領の改訂の方向性を踏まえ、特に、重視される課題として「非認知的能力」を取り上げ、その重要性とそれを育む援助の在り方について、子供理解とも関連させた講義と演習を通して理解する。					
12月1日(木)		受付	講義・演習② 「乳幼児理解（特に0～2歳）と保育者の援助の在り方について」 大阪総合保育大学 児童保育学部 教授 大方 美香	講義・演習③ 「幼児理解（3～5歳）と指導の在り方等について」 國學院大学人間開発学部 教授 神長 美津子	講義・演習④ 「幼小接続～小学校教育の観点から～スタート・カリキュラム」 広島大学大学院 教育学研究科 教授 朝倉 淳	講義・演習① 「幼児期における子育て支援、家庭や地域との連携に関する班別協議」 和洋女子大学人文学群 子ども発達学類 教授 鈴木 みゆき 認定こども園 ゆうゆうのもり幼児園 園長 渡邊 英則	休憩				
			○目的：幼児教育においては、小学校教育だけではなく、乳幼児との接続も非常に重要であり、特に0～2歳の乳幼児期の保育の基本と保育者の援助の在り方について、保育実践事例を基にしながら、理解する。	○目的：前の講義・演習②を受け、3～5歳の幼児の発達の状況を踏まえつつ、幼稚園修了までに育ってほしい姿を見過しながら、この時期にふさわしい教育の在り方について、理解する。	○目的：幼小接続について、現状から、小学校教育の観点から、幼児教育の在り方について理解する。	○目的：幼児の生活は、家庭、地域社会、幼稚園と連続的に含まれており、幼児教育と家庭、地域社会との連携が非常に重要であることとを踏まえ、幼児教育施設と家庭、地域社会との連携の在り方、望ましい子育て支援の在り方など、その方向性の理解と各園での取組への生かし方に関して、班別協議を行い、情報を得る。	休憩				
12月2日(金)		受付	講義・演習⑥ 「幼小接続を重視した指導案の作成」 國學院大学人間開発学部 教授 神長 美津子 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課 研修研究支援専門員 大竹 節子	講義・演習⑦ 「幼児教育を推進するリーダーとして研修の企画・立案の在り方」 高知学園短期大学幼児保育学科 准教授 山下 文一	閉講式						
			○目的：接続期の指導案の作成及び発表を行うことを通じて、幼児期の指導計画の作成の基本を確認するとともに、幼小接続の具体的な指導の在り方について理解を深める。	○目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめるとして、幼児教育を推進するリーダーとして、幼児教育を推進するリーダーとして、各地域で幼児教育の研修講師となるための課題を整理する。	閉講式						

※日程等について変更することがあります。

## I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業A-1）「生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習」							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成28年8月1日（月）～平成28年8月5日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	15	人	参加率	75.0%
開催場所	クリエイト浜松、京丸園、スマイルベリー（静岡県浜松市）							

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	0	0	0	0	0	15
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目担当者として、周囲に説明できる力がついた。生徒への科目選択指導をはじめ、科目編成の場で役立ちます。</li> <li>・内容が具体的、理論的で理解しやすいものでした。本校の現状を考える機会になり、文科省がすすめる農業教育の本質の部分を知ることができた。</li> <li>・初日に課題の明確化を行ったことで、研修に参加されている先生たちの現状や課題を全体で共有することができ、グループ及び全体でのワークがスムーズに行え、課題解決に向けた新たな知見が得られた。また、企業や大学教授の講義では、自分が生産者目線でしか農産物をとらえることができていなかったことに気づかされた。今後、6次産業化を念頭に置いた教育活動を行うため、指導法や教材研究を練りなおし、実践していきたい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

## 平成28年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 特定非営利法人 しずおかユニバーサル園芸ネットワーク

日 時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	12:30	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
2016/8/1 (月)			開講式	【研究協議】 自己紹介・交流プログラム紹介 (久保田・1)	【演習】 課題の明確化 (久保田・1)	昼休み	【講義】 新しい農業の可能性 (加藤・2)	【講義】 生物活用・グリーンライフの可能性 (久保田・2)	【演習】		諸連絡
2016/8/2 (火)	【講義】 プロジェクトマネジメントについて (久保田・1.5)	【講義】 交流活動の運営と評価 (久保田・1.5)	【演習】 6次産業化の実際 (伊藤・1)	【講義】 園芸の特性と活用 (豊田正博・2)	【講義】 観光農園の実際 (スマイルベリー・1.5)	昼休み	【講義】 交流プロジェクトの計画 (久保田・2)	【演習】 交流プログラム指導案 (久保田・2)	【講義】 地域資源の活用 (稲垣・2)		諸連絡
2016/8/3 (水)	【講義】 グリーンツーリズムについて (豊田由美・1.5)	【演習】 新たな授業の視点・交流プログラム指導案発表 (久保田・2)	【演習】 観光農園の実際 (スマイルベリー・1.5)	【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2.5)	【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2.5)	昼休み・移動	【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2.5)	【実習】 ユニバーサル農業の実際 (京丸園・1.5)	【実習】 ユニバーサル農業の実際 (京丸園・1.5)		諸連絡
2016/8/4 (木)	【講義】 生物活用・グリーンライフの現状と課題 (田畑・1)	【演習】 新たな授業の視点・交流プログラム指導案発表 (久保田・2)	【演習】 観光農園の実際 (スマイルベリー・1.5)	【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2.5)	【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2.5)	閉講式	【講義】 農業生産法人の可能性 (鈴木・2.5)	【実習】 ユニバーサル農業の実際 (京丸園・1.5)	【実習】 ユニバーサル農業の実際 (京丸園・1.5)		諸連絡
2016/8/5 (金)											

実施会場： クリエイト浜松、京丸園、スマイルベリー (静岡県浜松市)



## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B-1）「教科「工業」における授業改善に関する講義と演習～工業科におけるPBL実践法～」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成28年8月23日（火）～平成28年8月27日（土）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	30	人	参加率	150.0%
開 催 場 所	金沢工業大学扇が丘キャンパス（石川県野々市市）							

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	29	1	0	0	0	0	30
割合 (%)	96.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PBL教育」について講義を受講して様々なことを学ぶことが出来ました。また、演習により実際にグループで活動することにより、進行の流れや、ワークシートの活用についても把握することが出来た。そして生徒の視点からも様々なことが体験したことで、生徒の議論が進行しにくい段階などの原因も理解できた。これから教材研究をして指導に生かしたい。</li> <li>・校務分掌等日々の業務に追われて、学習指導に対する振り返りが十分できていなかった中で、このような研修を受けることができ、気持ちを新たにしていかなければならないと感じた。これまでも、容易に最適解を与えないようにして生徒が自主的に取り組むように導いていたつもりであったが、明確な基準等もなく曖昧なものでしかなかったのので、この研修は大変有意義なものになった。これを生かして授業を展開していけるよう、自校で検討を重ねていきたい。</li> <li>・また、より多くの先生方に伝達できるようにしたい。</li> <li>・学生が行うPBLを短期間の中で学生の立場で体験するものであったが、新しい考え方を身に付けることができた。全体を高校教育の中に盛り込むのは難しだが、細分化して普段の授業や、課題研究の中で活かしたい。また、ルーブリックによるパフォーマンス評価は、実習や課題研究の中で用いることが有効であると考えている。適用に向けて検討し、所属科で提案していきたい。</li> <li>・現行の学習指導要領の中で記載されている言語活動の充実を図る手立てについて、今研修で問題解決学習PBLを通して、研修することができた。PBLの理論や、生徒の立場になった実践、実践に当たったワークシートの活用、教員の立場からのルーブリックを用いた評価法など幅広く学習できた。学校現場において今研修の成果を生徒へ還元していきたい。</li> <li>・今回の研修ではPBLに関しての知識や理論だけでなく、実際の授業における手法やその際における注意事項など、短期間で様々な内容について学ぶことができた。本当に有意義な研修だった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成28年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程表

【工業B-1】

団体名： 金沢工業大学

時 限	1 時 限 8:40～10:10	休 憩	2 時 限 10:30～12:00	休 憩	3 時 限 13:00～14:30	休 憩	4 時 限 14:50～16:20	自主活動時間 16:30～18:00
日 時	8:40 9:00	10:00	11:00 12:00	12:00	13:00 14:00	14:00 15:00	16:00	17:00 18:00
8月23日 (火)	開講式 オリエンテーション (約20分)	休 憩	(講義) PBL概論 PBL教育と技術者倫理	屋 休 み	(講義) プロジェクトデザイン教育① 金沢工業大学のPBL教育	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ①	交 流 会
8月24日 (水)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ②	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ③	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ④	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅰ⑤	
8月25日 (木)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ①	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ②	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ③	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ④	
8月26日 (金)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑤	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅱ⑥	屋 休 み	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ①	休 憩	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ②	
8月27日 (土)	(講義・演習) プロジェクト活動Ⅲ③	休 憩	(演習) プロジェクトデザイン教育② 受講者と講師陣による 意見交換とまとめ	閉講式 12:00 ～12:40	<備 考> プロジェクト活動Ⅰ： テーマの発見・気付きに至る、情報収集・分析を通してのテーマの絞り込み活動を体験し、その難しさを体験。 プロジェクト活動Ⅱ： 取り組む内容が具体的にになった段階のプロジェクトテーマから、コンセプトを示す何らかのモノを試作し、外部アピールまでを体験。 プロジェクト活動Ⅲ： 工業高校で適用する場合の評価方法について、ルーブリックを作成し相互に評価を体験。			

実施会場：金沢工業大学 雨が丘キャンパス 23号館パフォーミングスタジオ

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C-1）「アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた教科「商業」における授業改善に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成28年8月1日（月）～平成28年8月5日（金）			5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	40 人	受講者数	38 人	参加率	95.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）					

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	34	4	0	0	0	0	38
割合 (%)	89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	38	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・地方の学校にいと、なかなか経験すること、学習することのできない内容を、実践を交えて学ぶことができ、大変有意義な時間となった。学校に戻った時に、それをどのようなタイミングで、どのような手法を授業を取り入れるのかが、今後の課題になるかと思うが、まずは失敗をおそれずチャレンジしてみることを心がけていきたい。

・商業教育の授業改善が言われるなか、このようなアクティブラーニングに絞った研修会に参加できてとても勉強になった。様々な手法（伝え方）を知ることで、授業にどのように取り入れるか、考えることはまだまだあるが、是非これからの授業で実践していきたい。

・研修内容・方法については、アクティブ・ラーニングの手法を専門家から学ぶことができ、たいへん有意義であった。アクティブ・ラーニングについては、県の研修や書籍等で学ぶ機会があったが、細部まで理解できないところも多々あった。しかし、生徒の立場で複数の手法を体験したことで、より深く学ぶことができた。研修環境についても問題は無く、千葉商科大学の先生方や職員の方々の細かなサポートがあり、たいへん感謝している。

・アクティブラーニング、ファシリテーターなどは（手法ではあるものの）、どのような人材を育てたいかという目的・目標が明確であれば、やり方はいくらかでもあることを学べた。何より、自身の専門性を高め、教材研究に工夫を凝らすことの重要性の再認識になった。また、高校と大学、高校と専門学校などといった連携・接続を意識しながら今後の授業改善につなげていきたいと思う。

## III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ	・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて	・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成28年度産業・情報技術者等指導者養成研修日程

(商業、C-1)

団体名：千葉商科大学

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
8月1日 (月)	1限(9:00~10:30) 9:30受付	開講式 10:00 開始	商業教育は変わったか～学習指導要領実施3年 間を振り返る～ (西村) ① (飯島)	休	3限(13:10~14:40) ファシリテーション能力の向上② (飯島)	4限(14:50~16:20) ファシリテーション能力の向上③ (飯島)	休	5限(16:30~18:00) 説明 グループ活動① 【自己紹介・振り返り】	休	18:10～ 懇親会
8月2日 (火)	ワークショップ・デザイン (後藤) 90分	商業教育の課題 【ワールド・カフェ実践】 (後藤・近藤) 90分 テーマについてワールド・カフェ形式で話し合い	商業教育の課題 【ワールド・カフェ実践】 (後藤・近藤) 90分 テーマについてワールド・カフェ形式で話し合い	昼休み	3限(13:10~14:40) アイデア創出の指導① (石井) 90分	4限(14:50~16:20) アイデア創出の指導② (石井) 60分	休	5限(16:30~18:00) アイデア創出の指導③ (石井) 60分	休	
8月3日 (水)	商業高校におけるケースメソッドの利用 【ケースメソッド実践】 (小川) 90分	商業高校におけるケースメソッドの利用 【ケースメソッド実践】 (小川) 90分	商業高校におけるケースメソッドの利用 【ケースメソッド実践】 (小川) 90分	昼休み	3限(13:10~14:40) ダイアログの指導① (神永) 90分	4限(14:50~16:20) ダイアログの指導② (神永) 60分	休	5限(16:30~18:00) ダイアログの指導③ (神永) 60分	休	
8月4日 (木)	ケーススタディを取り入れた財務諸表分析の指導① 【実践事例など】 (千葉) 90分	ケーススタディを取り入れた財務諸表分析の指導② 【ケーススタディ実践】 (千葉) 90分	ケーススタディを取り入れた財務諸表分析の指導③ 【ケーススタディ実践】 (千葉) 90分	昼休み	3限(13:10~14:40) 思考力・判断力・表現力等を育む授業展開① 【事例など】 (笠木) 60分	4限(14:50~16:20) 思考力・判断力・表現力等を育む授業展開② 【事例など】 (笠木) 60分	休	5限(16:30~18:00) 商業教育の課題とその解決策 【ワールド・カフェ実践】 (近藤) 90分	休	
8月5日 (金)	会計教育 【会計分野】 (小島) 90分	グループ活動⑤ 【教材研究】 授業案の作成 90分	グループ活動⑥ 【教材研究】 授業案の作成 30分	グループ発表 【教材研究】 授業案の発表 60分	総評等 時間調整 整合	閉講式	16:00終了予定			

実施会場：千葉商科大学



## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E-1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成28年7月26日（火）～平成28年7月29日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	22	人	参加率	110.0%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区）、文化服装学院（東京都渋谷区）、東京誠心調理師専門学							

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	22	0	0	0	0	0	22
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	22	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>どの講義もこの研修に参加しなければ分からない、かつ最新の情報ばかりで、データや調査にもとづいた内容だったので大変有意義な4日間であった。家庭科の全分野が組み込まれており、1つ1つの講義内容にもっと知りたい、もっと話しを聞きたいと思った。どの分野も専門として指導されている方、研究されている方、最前線で活躍されている方からの興味深いもので、楽しみながらもたくさんの教材を得ることができた。</li> <li>この4日間で家庭科の様々な分野をみっちり研修できて大変勉強になった。14の講義・演習・実習は全て興味深く、学校現場で活用したいと思うものばかりであった。その道のプロの方からの話は、盛りだくさんで時間以上の学びがあった。また全国の家家庭科の先生方との交流も楽しく、学校現場のこと共有できた。</li> <li>多岐にわたる分野の専門的なことを学ぶ機会が普段ないので、大変有意義で貴重な研修であった。どの講義も気づきや学びが多く、これからの教育活動のヒントを多く得ることができた。実習も多く、本物に触れることの大切さを痛感するとともに、これからの実習のあり方について深く考えさせられた。家庭科の重要性と教員自身の指導力向上に向けての研修の大切さを改めて感じた。</li> <li>他県の教員との交流が持て、それぞれの実情など情報交換ができたことが良かった。また、各分野で優れた取り組みや仕事をされている講師の講義は家庭科の内容だけでなく、現代の若者（学生など）に対する見方をさらに広げてくれたように感じた。家庭科教員として今後どうしていかなければいけないかを考えさせられた。同時に、「学ぶ」楽しさを実感できた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		午前2(11時～12時30分)		午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		会場
	9:30	10:00	11:00	12:00	12:30	13:30	15:00	16:00	
7月26日 (火)	【開講式】	【講義】 「家庭科における 授業改善の視点」 文部科学省教科調査官 市毛 祐子	【講義】 元校長 門脇 千里	【講義】 「暮らしと地域に関わる家庭科教育の実践」	【講義】 授業実践事例 「被服における技術の定着を図る指導の工夫」 岐阜県立岐阜城北高等学校 教諭 今井 明世	【講義】 「消費者市民を育む消費者教育の実践について」 消費者教育支援センター 総括主任研究員 柿野 成美	全国高等学校長協会 家庭部会事務局 会議室(千代田区)		
7月27日 (水)	【講義】 「ファッション業 界の動向につ いて」 文化服装学院 キャリア支援室 室長補佐 池田 衛	【講義・見学】 文部科学省委託事業 「ファッション産業人材育成 高校連携プロジェクト ～感性向上に向けての カリキュラム開発」 文化服装学院 生涯学習部 部長付 井手口 和子	【講義】 「産業革命×教育革命→世界が目目！ 復活する“メイド・イン・ジャパン”と 今、教師と生徒に求められる情報受発信力」 日本初ものづくり提言プロジェクト発起人 久米繊維工業(株) 取締役会長 一社)墨田区観光協会 理事 明治大学商学部 講師 久米 信行	【講義・実習】 「個性を引き出し、発想力、思考力、表現力を育てる造形教育」 文化服装学院 生涯学習部 生涯学習・通信教育指導主事 丸山 晴美	【講義・実習】 「個性を引き出し、発想力、思考力、表現力を育てる造形教育」 文化服装学院 生涯学習部 生涯学習・通信教育指導主事 丸山 晴美	文化服装学院 (渋谷区)			
7月28日 (木)	【講義】 「現代の食生活の課題やトレンド、フードビジネ ス等について」 東京誠心調理師専門学校 講師 竹森 美佐子	【実習】 「おいしさの科学と調理」 東京誠心調理師専門学校 講師 鈴木 歩	【実習】 「暮らしを楽しむ住まいの工夫」 公益社団法人インテリア産業協会 資格制度検討委員会委員 日本女子大学家政学部住居学科 文化学園大学造形学部デザイン・造形学科 非常勤講師 三井のリフォーム住生活研究所所長 西田 恭子	【講義・演習】 「盛り付けの基本知識」 東京誠心調理師専門学校 講師 齋藤 利昭	【講義・演習】 「盛り付けの基本知識」 東京誠心調理師専門学校 講師 齋藤 利昭	東京誠心 調理師専門学校 (大田区)			
7月29日 (金)	【講義】 「幼児を取り巻く環境の現状と保育の課題」 聖徳大学大学院 教授 篠原 孝子	【演習】 「発達に応じたたかかわりを考える」 聖徳大学大学院 教授 篠原 孝子	【演習】 「発達に応じたたかかわりを考える」 聖徳大学大学院 教授 篠原 孝子	【演習】 「発達に応じたたかかわりを考える」 聖徳大学大学院 教授 篠原 孝子	【演習】 「発達に応じたたかかわりを考える」 聖徳大学大学院 教授 篠原 孝子	東京誠心調理師専門学校 (大田区)			



## I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F-1）「保健医療福祉の変化に対応し、生徒の基礎的・基本的看護実践力を育成する授業に関する講義と演習」						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開催期日	平成28年8月8日（月）～平成28年8月10日（水）				3日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	16	参加率	80.0%
開催場所	九州看護福祉大学（熊本県玉名市）						

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	9	7	0	0	0	0	16
割合 (%)	56.3	43.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に戻り、すぐに授業に取り組める、活用したいと思える内容の学びがたくさんあった。グループワークや講義を聞き、自分の授業をこうしようとイメージしながら具体的に計画ができた。自分だけが問題、課題、悩みを抱えているのではなく、看護教員が共通して問題、課題、悩みを抱えていることも分かり、課題に取り組んでいこうと、前向きな気持ちが高まった。日々の生徒との関わりに今回の研修での学びや感じた思いを活かしたい。</li> <li>・アクティブラーニングによる演習授業が、とても勉強になった。シナリオを活用した授業展開は、とても興味があり、資料を活用し、授業に活かしていきたいと思う。また、他校の先生方とグループワークをとおり色々な考え方や学校の情報を得ることができた。</li> <li>・コミュニケーションやアクティブラーニング等、今教育の現場で、必要とされていることだったので学校に持ちかえり、さっそく活かしてみようと感じた。自分の中の違った一面を知ることができた。</li> <li>・アクティブ・ラーニングやワールドカフェを取り入れ、コミュニケーション力をつける技法を学ぶことができ、とても勉強になった。日程の問題もあるが、もう少し他校の先生との交流の時間が欲しかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成28年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

大学名 茨城県立医療大学

(看護, F-1)

日時	9:00	10:30	13:00	14:00	15:00	17:00				
8月31日 (水)	9:30	10:00	10:45	11:45	12:45	13:30	14:30	15:30	15:30	17:00
	受付	開講式	(講義・演習1) 「コミュニケーション技術の教授法 ー演習を通じた学習方法ー」	昼食 (交流会)	(演習2) 「コミュニケーション まとめと発表	(講義) 「看護教育の現 状と課題(仮)」	休 憩	(講義) 「本学付属病院の 取り組みについて」		
9月1日 (木)		(講義1) 「アクティブラーニ ングによる魅力あ る授業の取り組 み」	休 憩	(講義2) 「アクティブラー ニングによる魅 力ある授業の取 り組み」	昼食	(講義3・演習) 「アクティブラー ニングによる魅力ある授業の取り組み」				
9月2日 (金)		(講義) 「地域包括ケアシ ステムについてI」	休 憩	(講義) 「地域包括ケアシ ステムについて II」	昼食	研修全体の 振り返り・ 総括	(講義) 「今後の 看護教育に ついて」	閉講式		

実施会場：茨城県立医療大学 (茨城県稲敷郡阿見町)

[交流会] 1,000円程度の会費をご負担いただきます。

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G-1）「ネットワーク・プログラミング・Webアプリケーション等に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成28年8月1日（月）～平成28年8月5日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	11	人	参加率	55.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	10	1	0	0	0	0	11
割合 (%)	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	11	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育について、関心はあったが、自分が担当する機会がほとんどない状態で、研修に臨んだ。情報教育の動向から、専門的な技術指導まで、5日間で非常に内容が多い研修であると感じた。</li> <li>・研修では、自分に知識・技術がただでなく、生徒の指導方法に関するテクニック、webサイトの効果的な利用方法を知る事ができた。また、全国から集まった先生方との情報交換は、非常に有意義な時間であった。毎回指導していただく講師の先生方が限られた時間の中で多くの内容を教えてくださり感謝したい。</li> <li>・全ての講義について有意義なものであった。技術的な講義に先立って、情報教育の視座や、中教審の新学習指導要領の話を聴けたことは大変意味があった。技術指導ではなく、問題解決の手法や思考のための方法として、情報の授業デザインに活用するという心構えで2日目以降の講義を受講できた。</li> <li>・まだまだ自分の力不足を感じるとともに、今回の研修から積極的に指導者として、取り組みたいと意欲が沸いた。他県の先生とも交流ができ、ネットワーク作りもできた。さらに研鑽を重ね、生徒に最大限の知識、技術、喜びを与えていきたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

## 平成28年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名:千葉商科大学

(情報,G-1)

日 時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
8月1日(月)		受付	開講式 1101教室	研修を受講するに情報科担当教員に求めること(永井) 1102教室	ファシリテーション能力の向上① (飯島) 1101教室	12:10~13:10 昼休み	ファシリテーション能力の向上 (飯島) ②③ 1101教室	情報教育の現状・課題及びこれからの動向について (鹿野) 1102教室			懇親会 18:10~
8月2日(火)			プログラミング (三輪) 9:00~12:10 (休憩含) 第4コンピュータ室				プログラミングツール (橋爪) 13:10~18:00 (休憩含) 第4コンピュータ室				
8月3日(水)			ネットワークの基礎・応用 (SFC) 9:00~12:10 (休憩含) 3号館教室				Webサーバの構築・Webアプリケーション (SFC) 13:10~18:00 (休憩含) 3号館教室				
8月4日(木)			ダイナミックHTML (SFC) 9:00~12:10 (休憩含) 3号館教室				ダイナミックHTML (SFC) 13:10~18:00(休憩含) 3号館教室			14:50~18:00 ダイナミックHTML実習 (グループによる作品制作)	
8月5日(金)			データベース (並木) 9:00~12:10 (休憩含) 第4コンピュータ室				情報教育の最近の動向(山本) 13:10~14:40 3号館教室		~16:00 閉講式 (永井) 1101教室		

実施会場:千葉商科大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（福祉H-1）「実践的介護の知識及び技能の向上を図るための講習（教員介護知識技能講習）」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成28年8月17日（水）～平成28年8月19日（金）				3日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	46	参加率	153.3%
開 催 場 所	名古屋市立西陵高等学校（名古屋市西区）						

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	42	3	0	0	1	0	46
割合 (%)	91.3	6.5	0.0	0.0	2.2	0.0	
	45	97.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段教材研究では身につけることのできない分野について話を聞くことができた。各講義とも、その領域のスペシャリストの方が講師であることも大変意味があった。</li> <li>・ 今回初めて参加し、毎日新しい発見と学びのある充実した3日間であった。知識の習得だけでなく、教授法の観点から効果的な声かけの方法や姿勢について教えがあり、日々の業務に追われることを言い訳に教材研究を不十分な状態にしてはいけないということを痛感した。確かな知識と高度な技術を身に付けさせ、より視野の広い福祉の心を醸成するためには、まず教員が日々学ぶことが先決であると気付いた。</li> <li>・ 介護技術から専門職の方々の話、当事者の思いなど幅広く、参考になることが多くあった。また教授方法という視点で話があり、日頃から悩んでいることに直結し、活用していきたいと思う。また専門職方々や当事者の方との出会いは、生徒たちにもっと必要だと感じた。様々な刺激となることや感情を揺れ動かされることにつながる機会になった。</li> <li>・ 初めての受講であったが、大変有意義な研修内容であった。技術を教えていく際のポイントや進め方について理解でき、すぐに活かせるものばかりであった。現場経験が少ない先生や教員実習（3～5年）では補えない内容を修得できたと思う。当事者の方からの話も改めて福祉について考えられる機会になった。もっと各校の先生方で情報交換を行いたかった。学校・科での取り組み（カリキュラムも）等についての紹介などもあれば良いと思った。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



( 別紙様式1 )

平成28年度 産業・情報技術等指導者養成研修 日程

( 福祉、H-1 )

団体名 全国福祉高等学校長会

日時	13:00	13:15	14:45	15:00	16:30
8月17日 (水)		開講式	介護技術① 移動・移乗の介助①	介護技術② 移動・移乗の介助②	
日時	9:15	10:45	11:00	12:30	12:30
8月18日 (木)	講義・演習① 義肢装具の理解	講義② 当事者の思いを知る	昼休み	介護技術③ 歯科衛生・口腔ケア①	介護技術④ 歯科衛生・口腔ケア②
日時	10:00	12:00	12:00	12:45	12:45
8月19日 (金)	施設見学 ユニットケアの特徴(介護現場の現状と課題) 施設と学校の連携について(実習指導) 会場:名古屋市北区	昼休み	14:15	14:15	14:30
			高校福祉教育の現状と 今後の動向について	閉講式	

実施会場:名古屋市立西陵高等学校(名古屋市西区)



## I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-1）「これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価」					
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開催期日	平成28年7月25日（月）～平成28年7月29日（金）			5日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	20 人	受講者数	28 人	参加率	140.0%
開催場所	宮城教育大学(徳島県鳴門市)					

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	25	3	0	0	0	0	28
割合 (%)	89.3	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の授業ですぐに使える内容や、授業でのヒント、今後のアイデアとなるものが多くあった。</li> <li>・5日間を通して、技術の4つの内容について、基礎的な内容から最先端の取り組みまで知ることができ、実習・体験をすることができて大変有意義であった。また、日本全国から多くの技術の教員が集まることで、貴重な情報交換をじっくり行うことができた。今後もこのような機会があれば、是非参加したいと感じた。</li> <li>・多くの先生方と意見を交わしながら、技術に関する最新の情報を学ぶことができた。自分が勤務する県と他県との違いなど、この研修に参加したからこそ得られたものなどが多くあった。また、実習した内容で持ち帰れるものも多く、今後の実践に役立てたい。</li> <li>・普段体験できないようなことや、大学ならではの最新の情報を得ることができた。新学期から活かせることも多く、有意義であった。改めて学ぶこと、新しい情報をどんどん取り入れることの大切さが分かった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成28年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭(技術), I-1)

団体名 宮城教育大学

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月25日 (月)	受付 9:00-	開講式 9:30-9:50	(講義) 今後の社会を支える技術分野の在り方 - 中央教育審議会における検討を踏まえて - 10:00-11:30	(実習) 材料加工(鉋の刃研ぎ治具・木材加工小作品の製作) 11:40-12:40	昼休み	(実習) 材料加工(鉋の刃研ぎ治具・木材加工小作品の製作) 13:30-15:00	(実習) 材料加工(鉋の刃研ぎ治具・木材加工小作品の製作) 15:10-17:10		
7月26日 (火)	(講義/実習) 新しいものづくり教材と技術科教育 9:00-10:30	(講義) 電気の基礎知識とLED 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 省エネルギー照明としてのLEDの活用(1) 13:00-15:00	(講義/実習) 省エネルギー照明としてのLEDの活用(2) 15:10-17:10				
7月27日 (水)	(講義/実習) ロボットを活用したコンピュータ制御学習(1) 9:00-10:30	(講義/実習) ロボットを活用したコンピュータ制御学習(2) 10:40-12:10	昼休み	(講義/実習) 往復スライダクランク機構の設計・製作と機構解析 13:00-14:30/14:40-16:10	(講義/実習) デジタル工作機械の教育利用(3Dプリンタほか) 16:20-17:20				
7月28日 (木)	(講義) 生物育成分野の目的・作物栽培技術の基礎 9:00-10:30	(実習) 作物の管理方法(圃場作物の観察と管理実習) 10:40-12:10	昼休み	(実習) 養液栽培の体験 13:00-15:00	(実習) 作物バイテク実験室の見学と簡単な実験体験 15:10-17:10				
7月29日 (金)	(講義/実習) ロボットを活用したコンピュータ制御学習(3) 9:00-10:00	(講義) システム的な授業設計 10:10-11:40	昼休み	(講義/実習) 技術科に求められるプログラミング教育 12:30-14:00	(講義/実習) ものづくりとしてのプログラミング 14:10-15:40	閉講式 15:50-16:20			

実施会場：宮城教育大学(宮城県仙台市)

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）「技術・家庭科における食育、幼児理解に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにこれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成28年8月1日（月）～平成28年8月4日（木）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	24	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	横浜国立大学(神奈川県横浜市)							

※ 全体受講定員 270 人、受講者数 315 人、参加率 116.7%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	22	2	0	0	0	0	24
割合 (%)	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの授業にもしっかりと課題を持つこと、何をねらいとするか、何と評価するかということ、指導者がしっかりとおさえておかなければならないと再確認した。地区の先生方にも広めていきたい。</li> <li>・様々な先生方の講義や研究発表を聴いたり、他県の先生方と情報収集する中で、自分が悩んでいたことを1つ1つ解消することができた。</li> <li>・食生活や幼児とのかかわり方など、“実習をしました”で終わりがちな内容を、理論的に指導する方法がわかった。また、全国の家庭科の先生方と交流することができ、自分の財産になった。学校に戻ったら、近隣の先生方にぜひ伝えたい。</li> <li>・学校に一人しかいない中、多少の不安や疑問に目をつぶって行っていたことに対して、払拭することができた。これからの実践に自信をもつことができた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成28年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭：J-1)

団体名：横浜国立大学

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月1日 (月)		開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会	受付	昼食	(報告)「技術・家庭科(家庭分野)における食及び幼児に関する指導の実践事例」20分×2人、質疑応答30分 (担当) 大川美子(宇都宮市立陽西中学校教諭) 今北恵子(神戸市立湊翔楠中学校教諭) (講義)「3学年間を見通した指導計画」 (担当) 筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00	(報告)「技術・家庭科(家庭分野)における食及び幼児に関する指導の実践事例」20分×2人、質疑応答30分 (担当) 大川美子(宇都宮市立陽西中学校教諭) 今北恵子(神戸市立湊翔楠中学校教諭) (講義)「3学年間を見通した指導計画」 (担当) 筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00	休憩十分	休憩十分	(講義)「幼児との触れ合い活動の留意点」 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 16:10-17:10
8月2日 (火)	(実習)「保育所における幼児との触れ合い活動」 森のルーナ保育園 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学准教授)	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における食育・幼児理解に関する指導の充実」 (担当) 筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:35-12:00	昼食	昼食	(演習)「幼児の観察・触れ合い活動のまとめと発表」 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	(演習)「幼児の観察・触れ合い活動のまとめと発表」 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	休憩十分	(講義)「幼児理解につながる触れ合い活動とは」 (担当) 園田菜摘(横浜国立大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 14:35-16:00	(演習)「幼児の観察や触れ合い活動における指導の工夫」 グループ討議 16:10-17:10
8月3日 (水)	(講義・演習) 「栄養を考ええた献立作成の指導」 (担当) 三戸夏子(横浜国立大学准教授) 教育人間科学部講義棟7号館210室、第1研究棟311室食品栄養学実験室 9:00-12:00	(実習)「調理科学の視点を重視した実習指導」調理実習 (担当) 杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部第1研究棟312室 調理学実験実習室 9:00-12:00	昼食	昼食・移動	(演習)食の現代的問題1 「環境に配慮した調理」 (担当) 真坂泰子(東京ガス株式会社「食」情報センター) (株)東京ガス横浜ショールーム クッキングスタジオ 13:30-14:55	(演習)食の現代的問題1 「環境に配慮した調理」 (担当) 真坂泰子(東京ガス株式会社「食」情報センター) (株)東京ガス横浜ショールーム クッキングスタジオ 13:30-14:55	休憩十分	(講義)食の現代的問題2 「食育における食品安全性」 (担当) 山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 研究員) (株)東京ガス横浜ショールーム ホール 15:05-16:30	(演習) 「献立作成に関する指導の工夫」 グループ討議 16:40-17:30
8月4日 (木)			昼食	昼食	(演習)食の現代的問題1 「環境に配慮した調理」 (担当) 真坂泰子(東京ガス株式会社「食」情報センター) (株)東京ガス横浜ショールーム クッキングスタジオ 13:30-14:55	(演習)食の現代的問題1 「環境に配慮した調理」 (担当) 真坂泰子(東京ガス株式会社「食」情報センター) (株)東京ガス横浜ショールーム クッキングスタジオ 13:30-14:55	休憩十分	(講義)食の現代的問題2 「食育における食品安全性」 (担当) 山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 研究員) (株)東京ガス横浜ショールーム ホール 15:05-16:30	(演習) 「献立作成に関する指導の工夫」 グループ討議 16:40-17:30

実施会場：横浜国立大学教育文化ホール、(株)東京ガス横浜ショールーム

## I 研修概要

研修名	産業教育実習助手研修（農業）「教科「農業」及び農業科指導法に関する講義と実習」							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受講対象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開催期日	平成28年8月1日（月）～平成28年8月5日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	25	人	参加率	125.0%
開催場所	南九州大学都城キャンパス(宮崎県都城市)							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 83 人、 参加率 138.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	22	3	0	0	0	0	25
割合 (%)	88.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	25	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから先の農業教育において、今までの指導方法にとどまらず、先を見据えることで、生徒達に今まで以上に興味・感心を持たせ、関連産業へ進めるように取り組んで行こうと思った。また、たくさんの他県の先生達と意見交換することができ、非常に良かった。</li> <li>・講義ばかりではなく、適度に演習があり集中して研修を受講することができた。農業科教育法では、次の学習指導要領の話から農業教育の目的と役割など幅広く学ぶことができた。職業指導では、授業が分からない生徒の気持ちや企業の話など多岐に渡って色々な話があり、良かった。以後、役に立てていきたい。</li> <li>・内容が深く、とても参考になった。国は、県は、子どもを国の発展を考え動いているという熱い想いを知ることができた。ということは私自信は現場の作業に追われ、今回学んだことをふまえた指導ができていなかったということだった。他にも、そのような先生方がいるのではないかとも思った。上部ではいろいろな方針が出て、末端までには浸透していないのかも…とも思った。逆に言えば、浸透すれば日本が変わると思った。</li> <li>・現在の教育やその在り方、課題等がよくわかり大変良かった。演習の時間がもう少し多ければと思った。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

## 平成28年度産業教育実習助手研修日程

(農業科教育法、職業指導)

時間 月・日・(曜日)	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
8月1日(月)		10:30 受付	農業科教育法:講義	農業科教育法:講義	農業科教育法:講義・演習
		11:00～12:10 開講式	「学習指導要領と教育課程」	「農業における主体的学 びの教育」	「農業における主体的な 学び教育の実践」
8月2日(火)		農業科教育法:講義	1217教室	1217教室	1217教室
		「農業の社会的な意義や 役割」	農業科教育法:講義	農業科教育法:講義	農業科教育法:講義
8月3日(水)		1411教室	「造園空間の創造」	「農業教育の目的と役割」	「食品の安全性」
		農業科教育法:講義・実験	1411教室	1411教室	1411教室
8月4日(木)		「植物色素科学〈色素の機 能性〉」	職業指導:講義	職業指導:演習	職業指導:講義・演習
		1508教室	「植物バイオテクノロジー 〈花の色素〉」	「職業指導の現状」	「職業指導の実践」
8月5日(金)		職業指導:講義	1411教室	1411教室	1411教室
		「高校生の進路選択とそ の支援」	「採用側から見た職業指導 の在り方」	「農業科教育と職業指導」	「高校の進路指導①」
8月5日(金)		1411教室	1411教室	1411教室	1411教室
		職業指導:講義	職業指導:演習	レポート提出	閉講式
	「キャリア教育における各 種機関の協力」	「高校教育の視点から職業 指導を考える」			
	1411教室	1411教室			



## I 研修概要

研修名	産業教育実習助手研修（工業）「教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習」							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受講対象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開催期日	平成28年8月22日（月）～平成28年8月26日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	38	人	参加率	190.0%
開催場所	足利工業大学(栃木県足利市)							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 83 人、 参加率 138.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	36	2	0	0	0	0	38
割合 (%)	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	38	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業における最新の情報や安全教育など職場に戻り活用できる事がたくさんあり、大変有意義な研修を受ける事ができた。また、卒業後のアンケートや技術者としての心構えなど自分にとっても指導者、技術者として知識や経験を積むことの大切さを実感した。</li> <li>・教育法について、現在までの変遷を詳細に解説した講義があった。概論は、現在注目されている内容で、非常に有意義であった。職業教育は、現在のことと、今後の方向性を聞くことができて良かった。</li> <li>・今回の研修では、工業科教育法の中で工業高校や工業科を設置している高校の卒業後の進路状況など把握できた。その中からアクティブラーニングの重要性をグループワークを通じて、意見交換ができ、実際の学校現場でも活かせる大変有意義な研修であった。演習について、パソコンを使用し、プログラミング言語の学習は今後の活動に活かすことができる。3Dプリンタは現場で設えていないが、製図ソフトのSOLIDWORKSは描画の定義を確認することができた。安全教育について、工作機械の説明が詳しくあったので、学校に戻ってから生徒たちに伝え指導していきたい。</li> <li>・工業高校の教科書だと授業内容が毎年同じになるが、本研修では教科書の内容も一部あるものの、多くが初めて聞く内容であり、とても勉強になった。新しい通信機器やグループワークなど、今後の授業に取入れられる内容であった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

## 平成28年度 産業教育実習助手研修日程

団体名：足利工業大学

(工業)

日時	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:50
8月22日 (月)	開講式	9:00~10:30 (講義) 工業科教育法① 工業科学習指導要領 持田 雄一	10:40~12:10 (講義) 工業科概論① 電気電子材料と半導体 荘司 和男	13:00~14:30 (講義) 工業科概論② 技術史 前川 泰久	14:40~16:10 (演習) 工業科概論③ プログラミング演習① (ドリトル言語) 佐々木正仁、久芳頼正	16:20~17:50 工業科概論④ プログラミング演習② (ドリトル言語) 佐々木正仁、久芳頼正					
8月23日 (火)		9:00~10:30 (講義) 工業科教育法② 言語活動の展開 森 慶輔	10:40~12:10 (講義) 職業指導① 進路指導計画の要点 森 慶輔	13:00~14:30 (講義) 職業指導② 進路指導計画の作成 森 慶輔	14:40~16:10 (講義) 職業指導③ 実習における安全教育 ① 齋藤 誠	16:20~17:50 (講義) 職業指導④ 実習における安全教育 ② 齋藤 誠					
8月24日 (水)		9:00~10:30 (演習) 工業科概論⑤ 3Dプリンタ演習① 塚本 雄二	10:40~12:10 (演習) 工業科概論⑥ 3Dプリンタ演習② 塚本 雄二	13:00~14:30 (演習) 工業科概論⑦ 3Dプリンタ演習③ 塚本 雄二	14:40~16:10 (講義) 職業指導⑤ 進路指導 野口 周一	16:20~17:50 (講義) 職業指導⑥ キャリア教育 野口 周一					
8月25日 (木)		9:00~10:30 (講義) 工業科教育法③ アクティブ・ラーニング の基礎 森 慶輔	10:40~12:10 (講義) 工業科教育法④ アクティブ・ラーニング の実際 森 慶輔	13:00~14:30 (講義) 職業指導⑦ グローバル人材 木武 義崇	14:40~16:10 (講義) 工業科教育法⑤ 戦後の工業科学習指導 要領の変遷と実習内容 の変遷 長谷川 雅康	16:20~17:50 (講義) 工業科教育法⑥ 工業高校卒業生からみ る工業教育 長谷川 雅康					
8月26日 (金)		9:00~10:30 (講義) 工業科教育法⑦ 技術教育の方法(プロ ジェクト法と課題研究) 長谷川 雅康	10:40~12:10 (講義) 工業科教育法⑧ 技術教育の方法(オペ レーション法・作業分析 と実習) 長谷川 雅康	13:00~14:30 (講義) 職業指導⑧ 技術者倫理 築瀬 範彦	14:40~16:10 (講義) 工業科概論⑧ 環境問題と自然エネル ギー 牛山 泉	16:20~16:50 閉講式					

実施会場：足利工業大学 大前キャンパス(栃木県足利市)

## I 研修概要

研修名	産業教育実習助手研修（水産）「教科「水産」及び水産科教育法に関する講義等」							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受講対象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開催期日	平成28年8月1日（月）～平成28年8月5日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	20	人	参加率	100.0%
開催場所	東京海洋大学（東京都港区）							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 83 人、 参加率 138.3%  
(全体計画人数)

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	13	7	0	0	0	0	20
割合 (%)	65.0	35.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>他では受講参加が難しい職業指導があり、大変良かった。</li> <li>最新の水産・海洋の研究、情報を学ぶ事ができ、大変勉強になった。本研修で学んだ事を学校での実習等で活かしたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添1)

## 平成28年度産業教育実習助手研修日程

(水産)

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
時 限		1限	2限			3限	4限	5限		
8月1日 (月)	8:50	10:20 9:45~ 受付・ 開講式 (東海理事)	10:30 (講義) 海洋科学入門Ⅱ1 東海 正	12:00 1.5	13:00 1.5	14:30 1.5	14:40 (講義) 職業指導2 川下 新次郎	16:10 1.5	16:20 (講義) 海洋科学入門Ⅱ2 神田 稷太	17:50 1.5
担当講師				昼休み		川下 新次郎				
8月2日 (火)	(講義) 海洋科学入門Ⅱ3 1.5	酒井 久治	(講義) 海洋科学入門Ⅱ4 1.5	1.5	13:00 (講義) 海洋科学入門Ⅱ5 1.5	1.5	(講義) 海洋科学入門Ⅱ6 1.5	1.5	(講義) 海洋科学入門Ⅱ7 1.5	1.5
担当講師	酒井 久治		酒井 久治	昼休み	稲田 博史		稲田 博史		千足 耕一	
8月3日 (水)	(講義) 海洋科学入門Ⅱ8 1.5	工藤 貴史	(講義) 海洋科学入門Ⅱ9 1.5	1.5	13:00 (講義) 職業指導3 1.5	1.5	(講義) 職業指導4 1.5	1.5	(講義) 海洋科学入門Ⅱ10 1.5	1.5
担当講師	工藤 貴史		工藤 貴史	昼休み	白井 久義		白井 久義		長島 裕二	
8月4日 (木)	(講義) 海洋科学入門Ⅱ11 1.5	佐々木 剛	(講義) 海洋科学入門Ⅱ12 1.5	1.5	13:00 (講義) 職業指導5 1.5	1.5	(講義) 職業指導6 1.5	1.5	(講義) 海洋科学入門Ⅱ13 1.5	1.5
担当講師	佐々木 剛		佐々木 剛	昼休み	白井 久義		白井 久義		荒川 久幸	
8月5日 (金)	(講義) 海洋科学入門Ⅱ14 1.5	白井 隆明	(講義) 海洋科学入門Ⅱ15 1.5	1.5	13:00 (講義) 職業指導7 1.5	1.5	(講義(試験含む)) 職業指導8 1.5	1.5	試験 (海洋科学入門Ⅱ) (17:15~)閉講 式/証書授与 (佐藤学部長)	
担当講師	白井 隆明		加藤 秀弘	昼休み	瀧田 雅樹		瀧田 雅樹			

実施会場：東京海洋大学 品川キャンパス

## I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員							
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）				日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	31	人	参加率	31.0%
開 催 場 所	国立大学法人宇都宮大学、大原簿記学校ほか							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	28	3	0	0	0	0	31
割合 (%)	90.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	31	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導に関する知識を得られただけでなく、自分の指導を見つめ直す機会にもなった。大学の講義、小・中学校の研究授業参観・実験授業を通して算数・数学の内容や考え方についてとらえ直すことができた。</li> <li>・実際に授業で使うことのできる教材をたくさんつくったので、わかる授業を展開するのに役立つと考えている。また、自分自身の知識を増やすことができたので、充実した指導ができると考える。</li> <li>・研修の目的を1つに絞らず、教科教育と学校運営の2つにおいていたため、現場復帰して、すぐに、教育活動全体に還元することができた。また、学校という閉鎖的な環境では見えない部分を外から客観視できたことは大変勉強になった。</li> <li>・企業での研修を通じて、物流業の現状、国際貿易に関する様々な取り決め等を知り、授業内容を深化させることができる。また働くことに対する考えを再考できたため、キャリア教育等に活かす。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担とする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



平成28年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣先		
			所属	機関名	派遣時期	期間
1	栃木県	8	市貝町立市貝中学校	国立大学法人宇都宮大学	H28. 4. 1 ~ H28. 9. 30	6 ヶ月
2			大田原市立大田原中学校	国立大学法人宇都宮大学	H28. 10. 1 ~ H29. 3. 31	6 ヶ月
3			宇都宮市立上河内中央小学校	国立大学法人宇都宮大学	H28. 4. 1 ~ H28. 9. 30	6 ヶ月
4			野木町立佐川野小学校	国立大学法人宇都宮大学	H28. 10. 1 ~ H29. 3. 31	6 ヶ月
5			益子町立益子中学校	国立大学法人宇都宮大学	H28. 4. 1 ~ H28. 9. 30	6 ヶ月
6			那須塩原市立西那須野中学校	国立大学法人宇都宮大学	H28. 10. 1 ~ H29. 3. 31	6 ヶ月
7			栃木県立宇都宮商業高等学校	大原簿記学校	H28. 10. 1 ~ H29. 3. 31	6 ヶ月
8	群馬県	1	群馬県立勢多農林高等学校	公益財団法人 群馬県建設技術センター	H28. 4. 1 ~ H28. 6. 30	3 ヶ月
				株式会社 黒岩測量設計事務所	H28. 7. 1 ~ H28. 9. 30	3 ヶ月
				前橋工科大学	H28. 10. 1 ~ H29. 3. 31	6 ヶ月
9	長野県	1	長野県池田工業高等学校	国立大学法人信州大学	H28. 5. 1 ~ H29. 3. 31	11 ヶ月
10	愛知県	7	愛知県立大府高等学校	名古屋大学大学院	H28. 6. 1 ~ H28. 11. 30	6 ヶ月
11			愛知県立半田農業高等学校	泉万醸造株式会社	H28. 7. 21 ~ H28. 10. 20	3 ヶ月
12			愛知県立猿投農林高等学校	株式会社 豊造園	H28. 6. 1 ~ H28. 8. 31	3 ヶ月
13			愛知県立瀬戸窯業高等学校	愛知県立芸術大学	H28. 5. 2 ~ H28. 7. 29	3 ヶ月
14			愛知県立豊橋工業高等学校	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社 本社	H28. 6. 1 ~ H28. 8. 31	3 ヶ月
15			愛知県立東海商業高等学校	星城大学	H28. 7. 1 ~ H28. 9. 30	3 ヶ月
16			愛知県立一色高等学校	学校法人中西学園 NSCカレッジ 名古屋ファッション専門学校	H28. 4. 14 ~ H28. 7. 12	3 ヶ月
17	京都府	3	京都府立鳥羽高等学校	京都大学大学院	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 ヶ月
18			亀岡市立つつじヶ丘小学校	大阪大学大学院	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 ヶ月
19			舞鶴市立和田中学校	大阪大学大学院	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 ヶ月
20	大阪府	1	大阪府立堺工科高等学校	関西大学	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 か月
21	和歌山県	1	和歌山県立田辺工業高等学校	独立法人 国立高等専門学校機構 和歌山工業高等専門学校	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 ヶ月
22	岡山県	1	岡山県立岡山東商業高等学校	岡山大学	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 ヶ月
23	高知県	1	高知県立須崎高等学校	高知工科大学	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 ヶ月
24	福岡県	1	福岡県立戸畑高等学校	九州大学理学研究院	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 か月
25	佐賀県	2	佐賀県立高志館高等学校	国立大学法人佐賀大学	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 か月
26			佐賀県立佐賀商業高等学校	大原簿記情報専門学校	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 か月
30	熊本県	1	熊本県立八代東高等学校	松木運輸株式会社	H28. 4. 1 ~ H29. 3. 31	12 か月
31	札幌市	1	北海道札幌市平岸高等学校	国立大学法人北海道大学	H28. 9. 15 ~ H28. 12. 15	4 ヶ月
32	宮崎県	1	宮崎県立延岡工業高等学校	国立大学法人宮崎大学	H28. 9. 1 ~ H29. 2. 28	6 ヶ月
33	山口県	1	山口県立山口農業高等学校	静食品株式会社	H28. 8. 1 ~ H28. 8. 31	1 ヶ月
				山口農林総合技術センター	H28. 10. 3 ~ H28. 12. 2	2 ヶ月
				国立大学法人山口大学	H28. 8. 1 ~ H28. 10. 28	3 ヶ月